

大津市スポーツ協会創立70周年



大津市スポーツ協会

大津市民憲章

わたくしたち大津市民は

- 郷土を愛し琵琶湖の美しさをいかしましょう。
- 豊かな文化財をまもりましょう。
- 時代にふさわしい風習を育てましょう。
- 健康で明るい生活につとめましょう。
- あたたかい気持ちで旅の人をむかえましょう。

大津市民の歌

塩見淳一 作詞
平井康三郎 作曲

(1) 朝日に映えて 光たつ

みどりの山よ 青雲よ

ああ新生の 意気もえて

自由の歌の わきあがる

われらの大津 うたおうよ

(2) 近江の歴史 かおり濃く

めぐる琵琶湖よ 八景よ

ああ観光の 日は晴れて

産業文化 花ひらく

希望の大津 興そうよ

(3) 平和の虹の 空によぶ

比叡の峰よ あこがれよ

ああ勤労の 汗と和に

われらの力 盛り上げて

理想の大津 築こうよ

目次

祝 辞

大津市スポーツ協会	会 長	磯田 英清	4
大 津 市 長		佐藤 健司	5
滋賀県スポーツ協会	会 長	河本 英典	6
大 津 市 議 会	議 長	八田 憲児	7
大津市教育委員会	教育長	島崎 輝久	8
大津市自治連合会	会 長	木村 重次	9
大津市スポーツ協会の今後の展望			10
新型コロナウイルス感染症の影響について			13
大津市スポーツ協会表彰			14
役員名簿			18
加盟団体一覧			21

■各種市民大会・教室など

大津市学区対抗野球大会	22
大津市学区対抗グラウンドゴルフ大会	23
大津市学区対抗ビーチバレーボール大会	24
大津市学区対抗インディアカ大会	25
大津市学区対抗サッカー大会	26
大津市民駅伝競走大会	27
大津市民スキー・スノーボード大会	28
大津市民乗馬教室	29
国体開催予定種目啓発教室 国体・オリンピックチャレンジ事業	30
いきいき健歩ウォーキング・大津市スポーツ協会独自事業	31
チャレンジ比良登山&志賀ウォーキング大会	32
滋賀県民体育大会	33
大津市民体育大会	34

■競技団体及び小・中学校体育連盟

大津市陸上競技協会	37
一般社団法人 大津市水泳協会	38
大津市軟式野球連盟	39

大津市弓道協会	40
大津市スキー協会	41
大津市サッカー協会	42
大津市バレーボール協会	43
大津市卓球協会	44
大津市ヨット協会	45
大津市体操協会	46
大津市ボート協会	47
滋賀県柔道連盟大津支部	48
大津市バスケットボール協会	49
大津市剣道連盟	50
大津市バドミントン協会	51
大津市乗馬連盟	52
大津市ソフトボール協会	53
大津市クレ射撃協会	54
大津市フェンシング協会	55
大津市テニス協会	56
大津市ソフトテニス協会	57
大津市ラグビーフットボール協会	58
大津市カヌー協会	59
大津市なぎなた連盟	60
大津市ボウリング協会	61
大津市空手道連盟	62
大津市スポーツ拳法連盟	63
大津市ゲートボール連盟	64
大津市インディアカ協会	65
大津市ゴルフ協会	66
大津市武術太極拳協会	67
大津市グラウンド・ゴルフ協会	68
大津市ドラゴンボート協会	69
大津市ダンススポーツ連盟	70
大津市少林寺拳法協会	71
大津市ウォーキング協会	72
スポーツチャンバラ大津支部	73
大津市トライアスロン協会	74
大津市エアロビック連盟	75
大津市バウンドテニス協会	76
大津市小学校体育連盟	77
大津市中学校体育連盟	78
大津市スポーツ少年団	79
大津市スポーツ推進委員協議会	80
大津市レクリエーション協会	81

■学区団体及びその他団体

小松学区体育協会	82
木戸学区体育協会	83
和邇学区スポーツ協会	84
小野学区体育協会	85
葛川学区体育協会	86
伊香立学区体育協会	87
真野学区体育協会	88
真野北学区体育協会	89
堅田学区体育協会	90
仰木学区体育協会	91
仰木の里学区体育協会	92
雄琴学区体育振興会	93
日吉台学区体育振興会	94
坂本学区体育振興会	95
下阪本学区体育振興会	96
唐崎学区体育振興会	97
滋賀学区体育協会	98
山中比叡平学区体育振興会	99
藤尾学区体育振興会	100
長等体育文化連盟	101
逢坂学区体育振興会	102
中央学区体育振興会	103
平野学区体育振興会	104
膳所学区体育振興会	105
富士見学区体育振興会	106
晴嵐学区体育協会	107
石山学区体育振興会	108
南郷学区体育振興会	109
大石学区体育振興会	110
田上学区体育協会	111
上田上学区体育協会	112
青山学区体育協会	113
瀬田学区体育協会	114
瀬田南学区体育協会	115
瀬田東学区スポーツ協会	116
瀬田北学区体育協会	117

編集後記

◆ 大津市スポーツ協会70年史 (平成22年からのあゆみ)の発刊を祝して



大津市スポーツ協会
会長 磯田 英清

大津市スポーツ協会創立70周年を迎え、記念誌を発刊することができたことは誠に喜ばしく、加盟団体並びに多くの関係各位に敬意と感謝を申し上げます。

さてこの10年（平成22年度から令和2年度）のスポーツに関する行政の動きを顧みますと、国（文部科学省）においては平成22年にスポーツ立国の実現に向けて「スポーツ立国戦略」を策定され、昭和36年に制定された「スポーツ振興法」を50年ぶりに全部改正し、競技スポーツだけでなく地域スポーツの振興や障がい者スポーツの取り組みについて、国及び地方公共団体が施策の策定と実施する責務を有することを定めた「スポーツ基本法」が定められました。また大津市においては、全ての市民がスポーツに親しみ笑顔で楽しめる環境を、市民が力を合わせて共に創っていくことができる社会の実現に向けて、平成28年に「大津市スポーツ推進計画」が策定されました。

当協会におきましても、時代の変化を踏まえて本市の推進計画の指針に基づき、行政と共に市民の健康体力向上並びに、各種競技力の向上に向けて諸事業の推進に努めて参りました。また、日本スポーツ協会、滋賀県スポーツ協会の名称変更を受けて、当協会においてもこの創立70周年に合わせて「大津市スポーツ協会」に名称変更を致しました。

令和2年度は新型コロナウイルスが世界中に蔓延し、感染拡大により「東京オリンピック・パラリンピック」、「ワールドマスターズゲームズ2021関西」、「第79回国民スポーツ大会・第24回全国障害者スポーツ大会」の開催がそれぞれ翌年へ延期されました。当協会また加盟団体においても、行事や活動の自粛（中止）を余儀なくされ、創立以来歴史的な危機状態を経験しています。“コロナ禍”により暮らしが一変し価値観も大きく変わる中で“新しいスポーツスタイル”の構築は喫緊の課題であります。

今後この様な状況の中で、行政はじめ当協会加盟団体や各種団体等と相互連携を図りながら体育・スポーツを通じて、少子高齢化時代に応じた市民が健康で活力あるまちづくりの実現を目指し諸事業に取り組んで参ります。皆様方のご理解とご協力、ご支援をお願いし、益々のご活躍ご健勝を祈念申し上げます。発刊のご挨拶といたします。

◆ 祝 辞



大津市長 佐藤 健司

大津市スポーツ協会が創立されてから70周年を迎えられましたことに対しまして、心からお祝い申し上げます。

さて、貴協会は、戦後混乱期の昭和25年に創設されて以来、体育・スポーツ施設などの環境が整わない状況のなか、競技団体及び地域体育団体とともに、スポーツを通じた市民の健康や体力の向上を目指し、各種大会など事業活動を積極的に展開されてこられました。

そして、令和2年5月に名称を「大津市スポーツ協会」に変更され、新たなスタートを切られました。

今日、少子高齢化や人口減少、想定を超える自然災害や新型コロナウイルス感染症など、私たちを取り巻く環境は大きく変化しております。そうした中、スポーツ界では、女子サッカーワールドカップ優勝や東京オリンピック・パラリンピック誘致、陸上男子100メートル走での日本人初の9秒台の記録、さらには、記憶に新しいラグビーワールドカップ2019日本大会での日本代表チームの躍進など、様々な場面で、スポーツは多くの人に夢や感動を与えてまいりました。

本市においても、プロスポーツやびわ湖毎日マラソンをはじめとするトップアスリートの競技スポーツから、毎年開催される市民体育大会といった生涯スポーツまで、多くのスポーツイベントが開催されているところです。その運営にあたっては、貴協会をはじめ、各種スポーツ団体や大学、民間企業との連携が欠かせないものとなっています。

今後、東京オリンピック・パラリンピック、ワールドマスターズゲームズ2021関西といった国際規模の大会や滋賀県での第79回国民スポーツ大会・第24回全国障害者スポーツ大会の開催を控え、貴協会をはじめとする関係団体と一層の連携を図り、「スポーツを通じてすべての市民がとびっきりの笑顔になれるまちづくり」を推進してまいりたいと存じます。

最後になりましたが、貴協会が創立70周年を契機に、新たな時代に向けて更なる飛躍を遂げられることをご祈念申し上げ、お祝いのご挨拶とさせていただきます。

◆ 祝 辞



公益財団法人滋賀県スポーツ協会

会 長 河本 英典

大津市スポーツ協会創立70周年を迎えられましたことを、心よりお慶び申し上げます。

また、平素貴協会関係者の皆様には、大津市のスポーツ振興にご尽力頂いておりますことに深く感謝申し上げます。

貴協会は、加盟団体の育成や各種大会の開催など多くの事業を通して、各競技の普及発展ならびにスポーツを通じて大津市民の心身の健全な発達と、明るく豊かなまちづくりに大きく貢献してこられました。さらには、スポーツする機会が少ない今、幻のラジオ体操と言われている「ラジオ体操第3」の動画コンテストを実施され、運動不足解消に寄与することにご尽力頂いておりますことに深く敬意を表します。

さて、2021年に東京オリンピックが開催されます。そして5年後、2025年の滋賀県での第79回国民スポーツ大会・第24回全国障害者スポーツ大会開催を契機に、私たちは、一層スポーツの推進に取り組んでいかなければなりません。特に市民の健康で豊かな地域生活の創造に貢献するためには、貴協会のリーダーシップによって、すべての市民が「する」「観る」「支える」といった様々なかたちでスポーツに参加され、生活の中にスポーツが息づくことが求められています。

また、少子化が進み、競技人口の減少が危惧されていますが、勝ち負けにかかわらず全力を尽くす選手らのフェアプレイの精神を市民に浸透させることによって、多くの青少年たちが今まで以上にスポーツに参加してくれるものと考えています。

今後とも、スポーツの推進とそれを通じた健康な社会の実現に向け、私ども滋賀県スポーツ協会とも連携を一層深め、県内郡市スポーツ協会のリーダーとして牽引いただきますようお願い申し上げます。

結びに本誌発行にあたりご尽力頂きました関係各位に深く感謝申し上げますとともに、本誌が貴協会の節目として、将来への新たな道標となるものと確信しております。これからも大津市のスポーツ振興に大いに貢献されることを祈念申し上げ、お祝いのことばといたします。

◆ 祝 辞



大津市議会

議 長 八 田 憲 児

この度、大津市スポーツ協会が記念すべき創立70周年を迎えられましたことを、心からお喜び申し上げます。

貴協会におかれましては、創立以来、市民の健康増進や体力及び競技力の向上等に資する事業を展開されるとともに、生涯スポーツの振興を図られ、この度晴れて70周年の節目を迎えられました。

そして、令和2年5月からは、「大津市スポーツ協会」と名称も新たに引き続き本市のスポーツの振興のため御尽力を賜っております。

これもひとえに、歴代の会長をはじめとする会員の皆様方の不断の御努力の賜物であり、ここに深甚なる敬意と感謝の意を表します。

さて、今般の新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、東京オリンピック・パラリンピック大会が延期されることとなり、国民生活におきましても、政府から発出されました新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言以降、多方面にわたり様々な活動の自粛を余儀なくされるなど、私たちの日常生活も深刻な影響を受けております。

しかしながら、豊かな人間性を育みながら市民一人ひとりが心身の健康を保持・増進するというスポーツが有する意義は、このコロナ禍の中にあってもいささかも失われるものではありません。

とりわけ、緊急事態宣言以降の多方面にわたる自粛によるストレスの増加、体力の低下等を解消する手段としてスポーツに求められる役割は、より一層大きくなっているものと考えます。

貴協会におかれましては、いわゆる3つの密（密閉・密集・密接）を回避することを基本とした「新しい生活様式」に配慮しながら、この記念すべき創立70周年を一つの契機として、引き続き本市におけるスポーツの振興と普及・発展のため格別の御尽力を賜りますよう、衷心よりお願い申し上げます。

結びになりましたが、貴協会の役員の皆様をはじめ会員の皆様の今後ますますの御活躍と、貴協会の更なる御発展を心からお祈り申し上げまして、私からのお祝いの言葉とさせていただきます。

◆ 祝 辞



大津市教育委員会

教育長 島崎 輝久

大津市スポーツ協会が創立70周年の記念すべき年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。

また、昭和25年の創立以来、70年という長きにわたり、大津市のスポーツの振興・普及、発展に多大なご尽力を賜り、活気あふれる大津のまちづくりを支えてこられた貴協会の功績はまことに大きいものがあります。これまでの歴代会長、役員の皆様、そして各競技団体や各学区体育団体はじめ関係の皆様のご努力に対しまして、深く敬意を表する次第です。

近年、私たちを取り巻く生活環境が大きく様変わりし、それによってライフスタイルにも大きな変化がみられるようになりました。とりわけ今年は、新型コロナウイルス感染症拡大防止により、「ステイホーム」「新しい生活様式」などの言葉が生まれました。しかし、それに比例するように、心身のストレスの増大や運動実施機会の減少など健康・運動に関する課題は大きくなり、健康の維持や体力づくりは身近な生活だけでなく社会全般においても大きな関心事となっております。

本市教育委員会におきましては、本年9月に「第3期大津市教育振興基本計画」を策定し、基本方針1「次代を生き抜く力を育む」の施策のひとつに「人生100年時代の体をつくる教育の推進」を掲げ、子どもたちの体力・競技力の向上や、心身の健康について自ら考え実践できる子どもの育成に取り組んでおります。また、「人生100年時代」をより豊かに過ごすために、「市民の健康づくりと生涯スポーツの推進」を基本方針5「共に生きる地域づくりのための社会教育の推進」の施策のひとつとして、子どもから大人まで、市民がそれぞれのライフステージにおいて、スポーツを楽しめる環境の充実や学習活動の支援を推進しようと努めているところです。

今後とも貴協会をはじめ、関係諸機関・諸団体と連携しながら、スポーツ活動の充実に取り組んでまいりますので、本市教育へのこれまで以上のご支援、ご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

結びになりますが、大津市スポーツ協会の今後の更なるご発展と、関係の皆様のみまますのご健勝、ご活躍をご祈念申し上げまして、お祝いのご挨拶といたします。

◆ 祝 辞



大津市自治連合会

会 長 木村 重次

この度、大津市スポーツ協会が、榮譽ある創立70周年を迎えられましたこと、又、更なる飛躍に向けての記念誌が発刊されますことは、大変意義深く、心からお慶び申し上げます。

貴協会におかれましては、昭和25年の創立以来、市内競技団体並びに地域スポーツ団体と一致団結され、多くの事業成果をあげてこられ、特に近年では、市民の誰もが気軽にスポーツに親しむことができるよう生涯スポーツの普及振興、地域コミュニティ醸成のための諸事業を展開されてこられましたことに対しまして、心から敬意と感謝の意を表する次第でございます。

大津市自治連合会が、大津市や貴協会を始めとする各種団体の皆様、そして地域の皆様と共に歩んでまいりましたこれまでの経緯を顧みますと、古くは隣組・町内会として地域住民の自主的な活動が活発に展開されてまいりましたが、戦後民主化が進む中で、昭和30年に現行の自治会制度が形づくられることとなり、名実ともに「自らのまちは自らがつくる」という趣旨の新しい住民組織に発展してまいりました。

特に昭和40年代からは、わが国の著しい経済発展と共に本市の発展も誠にめざましく学区の創設が相次ぎ、自治会は拡大の一途を辿ることになり、発足当初の14学区269自治会が、現在では36学区697自治会へと発展し、大津市自治連合会のもと地域に根ざした自治会活動を展開してきたところであります。

しかし、時代は音を立てて改革はいよいよ本番を迎えます。学区民でよりよい未来を作るといふ、未来志向の発想のうへ、サステナブル（持続可能）という新しいメッセージを携えて、果敢なチャレンジ精神のもと「まちづくり」は走り出しました。

大津市自治連合会も貴協会と共に、認識を新たに街を構築し、バージョンアップしていかなければ沈んでいくという危機感をもって、何をしなければならないのか？次の世代に重いツケを残すことにならないよう考えていきたく思います。

経済の立て直しに絞って、自治会活動や「スポーツ」を切り捨てれば人材は集められず、街の総合力は弱体化します。

昭和から平成、そして令和、いつの時代も未来を拓くのは若者でありスポーツです。次代の担い手はどんな「よりよい大津市スポーツ協会」を思い描くのでしょうか。

貴協会のなお一層のご活躍ご発展を心からご祈念申し上げまして、記念誌発刊に際しましてのお祝いのご挨拶とさせていただきます。

大津市スポーツ協会の今後の展望

当協会は昭和25年に創設され、戦後の混乱期に市民の健康体力の向上を目指し活動を続け、今年で70周年を迎えるに至りました。

平成23年に国においては50年ぶりに「スポーツ基本法」が改定され新たに基本理念が定められ、また、大津市においては平成28年に「大津市スポーツ推進計画」が策定され具体的な基本方針が提示されました。

当協会といたしましては、その基本理念及び基本方針に添い、行政と関係機関との連携と協働により、市民の健康体力向上、競技力向上事業に取り組んできたところです。

近年、人口減少と少子高齢化の進展、情報技術の進化、そして昨年来の新型コロナウイルス感染症の影響により、生活環境が大きく変化する中で、個人の健康に対する志向が多様化してまいりました。本来、体育・スポーツには、教育的効果、健全な人格形成、また、社会全体の発展等々に寄与すべき役割があります。当協会も今年の節目を契機に「大津市スポーツ協会」に改名し、時代の変化に対応しうる協会として、新たにスタートいたしました。

今後も行政及び関係機関と連携強化を図り、補完的な役割を維持しつつ体育・スポーツを通じて、市民の幸福と豊かな生活を営むことができる「生涯スポーツ社会」の実現を目指し、具体的な方向性を示し諸施策を実行するものです。

<大津市スポーツ協会の役割>

☆ 基本理念

当協会は、大津市民の健康増進・体力向上並びに競技力向上に関する事業を行い生涯スポーツの振興を図ると共に青少年の健全育成並びに地域コミュニティの醸成に寄与することを目的とし、市民一人ひとりが豊かで活力のある生活を送る事が出来る「生涯スポーツ社会」の実現に向けた取り組みをしてきた。今後ともより具体的な事業を企画実行していく必要がある。

☆ 方向性

1) 生涯スポーツの実践

生涯において健康で快適な生活をおくることを誰もが願っている。体育・スポーツは、健康増進や体力向上のみならず、生涯を生きていく上で不可欠な文化であり、また、ストレス解消、生活習慣病等の予防及び健康保持増進に資するものである。競技スポーツはもちろんのこと、医療費の削減を図り健康作りへの転換の時代を迎える為にも生涯スポーツの実践を推進することが必要である。

2) 地域社会の活性化

地域住民の生活に活力や連帯を促進するために、スポーツ・レクリエーションを通じて老若男女また障害の有無をとわず相互の親睦、交流を図ることが、健全で活力のある地域づくり構築に必要である。

3) スポーツ指導者の育成と活用

生涯スポーツ社会の実現を目指し、市民の多様なスポーツ・レクリエーションニーズや能力に応じた実践能力を高め、継続的スポーツ実践者の増大を図るために、資質の高い指導者の育成と活用が必要である。

4) 国内外スポーツ交流の推進

グローバル化時代に、スポーツの分野から市民レベルでの国際及び国内交流の推進、相互理解が必要である。

5) スポーツ振興財源の確保

諸事業を効果的に遂行するために、長期的に安定した財源の確保が重要である。

☆ 具体的施策

生涯スポーツ社会の実現に向けて具体的な事業を展開していくためには、当協会の組織の充実・強化を推進するとともに、現行事業の改善や新たな事業の構築など、具体的な振興策が必要である。

1) 協会組織の充実と強化

① 本協会と行政との連携

市民の健康保持を目的とする行政と連携を図り、補完的立場を維持し、各種スポーツ事業の推進に努める。

② 協会加盟団体、体育・スポーツ関係団体との連携

スポーツ振興の推進を図るため、加盟団体、企業、大学、関係スポーツ団体（障害者スポーツ団体含）等の連携に努める。

③ 組織充実と機能強化

市民のニーズに対応する役割は大きい。そのために人材確保が必要であり、また、現行の事業推進するには、事務局3人体制の確保が必要である。

今後、国、県、企業等の助成金制度等の活用をするために、また、社会的信頼を得るために法人格の取得に努める。

④ スポーツ情報システムの整備充実

スポーツに関する情報発信基地として、国内外、県、市等の情報が発信できる環境整備に努める。

2) 生涯スポーツの充実の推進

① 各種スポーツイベント等の整備と充実

各種大会運営等の見直し、整備、充実に努める。幼児から高齢者まで、また障害の有無を問わず多様な市民が気軽に参加できる各種教室等の開設に努める。

② 各種競技大会への支援

各種競技大会の実施に向けての支援体制の整備充実に努める。

③ 生活環境の変化に伴う対応

新型コロナウイルス感染症や自然災害時等にも対応しうる「健康づくり」の整備充実に努める。

- ④ 大津市型総合型スポーツクラブの推進
地域（学区）においては、生涯スポーツの振興、推進に努めていただいております、今後も推進充実に向けて支援に努めます。
- 3) スポーツ指導者の育成と活用
- ① 養成システムの構築
市民の多様なスポーツニーズに応じた実践能力を高めるために幅広い分野で受講しやすいシステムの構築に努めます。
 - ② 登録制度の改革
有資格指導者の登録制度の整備、充実、促進に努めます。
 - ③ 指導者の活用
地域、競技団体において、各種有資格指導者並びにスポーツ推進委員との連携と積極的な活用の推進に努めます。
- 4) 国内外スポーツ交流の推進
グローバル化の進展に伴いスポーツを通じて市民レベルでの交流推進に努めます。（2021年東京オリパラ・2022年ワールドマスターズゲームズ KANSAI・2025年国スポ・障スポ等々）
- 5) スポーツ振興財源の確保
自主財源を確保するための事業企画等の検討、及び企業、個人からの協賛金の拡大と行政等からの助成金確保に努めます。
- 6) 社会状況の変化への対応
近年の情報技術の進化や状況の変化に伴いスポーツが多様化しており、スポーツイベントのデジタル化やオンライン化が進み、eスポーツ等も盛り上がりを見せている。こういった状況変化に必要な応じて関係する団体、機関とも協議を重ね、適切な対応に努めます。

新型コロナウイルス感染症 の影響について

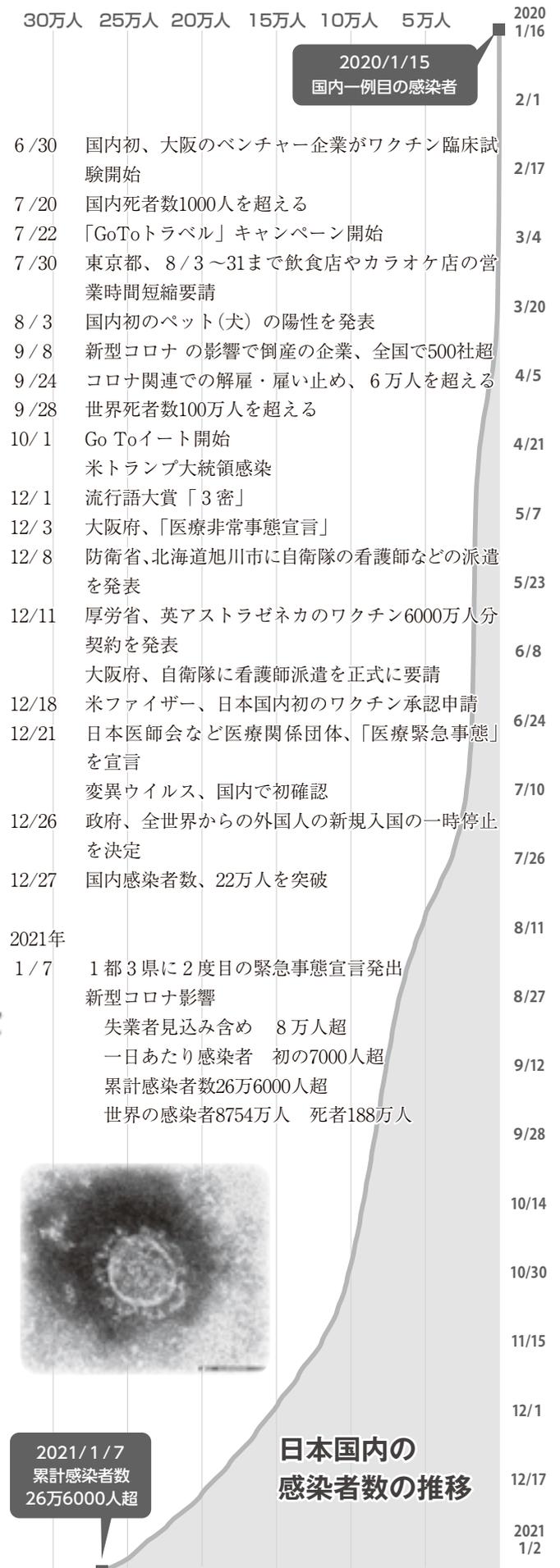
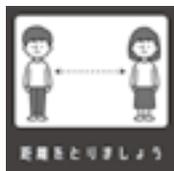
世界中がかつてない試練を受けている。当協会でも、行事の中止が続き、テレワークを一時期行った。令和3年1月初頭時点ではまだ収束の道筋ははっきりしない状況であり、今後新たな生活様式、新たな取り組みが求められると考えられる。ここまでの主な出来事を記録しておく。

2019年

12月 武漢市において原因不明の肺炎の発生が複数報告される

2020年

- 1/11 中国で初の死者報道
- 1/14 WHO新型コロナウイルスを確認
- 1/15 神奈川県で国内1例目の感染者確認
- 1/23 武漢市の閉鎖始まる
- 1/28 奈良県で日本人初の感染者確認。国内で初のヒト-ヒト感染
- 1/31 WHOが国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態を宣言
- 2/5 ダイヤモンド・プリンセス号の集団感染を確認
- 2/11 WHOが病名をCOVID-19、ウイルスをSARS-CoV-2と命名
- 2/13 神奈川県で国内初の死者
- 2/26 首相、スポーツ・文化イベントなどの大規模イベント自粛要請
- 2/27 首相、全国の小中高へ臨時休校要請
- 2/28 USJ、東京ディズニーランドなど休園を発表
- 3/11 WHOがパンデミック宣言
- 3/24 東京五輪の延期を発表
- 3/29 志村けんさん死去
- 4/7 7都府県を対象に緊急事態宣言発出
(東京・神奈川・埼玉・千葉・大阪・兵庫・福岡)
- 4/10 HIKAKIN、都知事と初コロナ
- 4/11 世界死者数10万人を超える
- 4/16 緊急事態宣言、対象を全都道府県に拡大
- 4/25 角界からも感染
- 4/26 インターハイ中止決定
- 4/30 全国民への一律10万円(特別定額給付金)の給付開始
- 5/20 夏の甲子園中止決定
- 5/25 緊急事態宣言 全面解除
- 6/5 コロナ関連での解雇・雇止めが2万人超と発表



日本国内の
感染者数の推移

大津市スポーツ協会表彰

功 勞 賞

平成22年度（体協創立60周年記念）

北川 義治 (陸上競技協会)	服部 弘一 (軟式野球連盟)	乗田 正一 (スキー協会)
松村 実 (バレーボール協会)	林 敏憲 (相撲連盟)	大野木 雅敏 (柔道連盟大津支部)
岡村 吉郎 (インディアカ協会)	濱田 昌宏 (スポーツ拳法連盟)	八軒 孝三 (堅田体協)
堀田 正汎 (仰木の里体協)	瀧川 洋五郎 (藤尾体振)	辻川 博 (平野体振)
小野 清司 (南郷体振)	服部 清志 (大石体振)	清水 安次 (瀬田北体協)

平成23年度

拜藤 國彦 (バスケットボール協会)	河村 嘉彦 (剣道連盟)	延與 彰文 (日吉台体振)
近藤 賢子 (唐崎体振)	山本 一男 (長等体文連)	武村 徹 (富士見体振)
小原 章夫 (晴嵐体協)	平尾 健一 (田上体協)	中谷 義弘 (瀬田体協)
井ノ口 寿行 (瀬田東体協)		

平成24年度

春田 吉信 (スキー協会)	駒井 直彦 (サッカー協会)	森部 修 (卓球協会)
山口 敦徳 (柔道連盟大津支部)	山田 富男 (インディアカ協会)	猪飼 清志 (雄琴体振)
藤井 輝基 (山中比叡平体振)	木村 孝信 (藤尾体振)	山元 義盛 (南郷体振)
中山 敦生 (大石体振)		

平成25年度

森野 邦彦 (陸上競技協会)	松田 滋 (バレーボール協会)	脇本 幸彦 (剣道連盟)
田村 雅英 (堅田体協)	田中 伸子 (唐崎体振)	馬場 照直 (長等体文連)
矢間 茂樹 (平野体振)	武村 勝恵 (富士見体振)	西尾 純一 (瀬田体協)
近藤 眞弘 (瀬田北体協)		

平成26年度

児玉 政行 (水泳協会)	松田 善雄 (スキー協会)	奥村 昌治 (バスケットボール協会)
池田 進 (日吉台体振)	山本 肇 (滋賀体協)	西村 克巳 (藤尾体振)
岩崎 博 (中央体振)	原田 八寿夫 (南郷体振)	上野 眞 (田上体協)
本島 紀之 (瀬田南体協)		

平成27年度

岡村 美智子 (陸上協会)	小澤 義孝 (バレー協会)	田中正義 (剣道連盟)
小西 良一 (堅田体協)	田中 茂喜 (雄琴体振)	三上 弥富 (唐崎体振)
谷口 光男 (山中比叡平体振)	中村 諭 (長等体文連)	西川 ともゑ (富士見体振)
野上 佳宏 (大石体振)		

平成28年度

高山 英文 (スキー協会) 江口 利男 (スポーツ拳法連盟) 金森 齊 (インディアカ協会)
濱野 玲子 (真野体協) 岡野 三郎 (仰木の里体協) 池田 勝三 (滋賀体協)
森田 敏夫 (田上体協) 内田 多可之 (瀬田体協)

平成29年度

重松 隆 (剣道連盟) 松尾 房郎 (空手道連盟) 澤田 五十子 (堅田体協)
庵原 菊枝 (仰木体協) 田辺 登美子 (石山体振) 土手下 春江 (唐崎体振)
宇野 直樹 (雄琴体振) 光野 政夫 (平野体振) 池口 光信 (南郷体振)
衛藤 彰男 (日吉台体振)

平成30年度

田中 弘明 (陸上競技協会) 裏川 寛 (スキー協会) 青井 久志 (真野体協)
木津 邦昭 (仰木の里体協) 清水 達夫 (坂本体振) 倉橋 安博 (山中比叡平体振)
福家 紀明 (長等体文連) 佐野 公信 (中央体振) 尾上 務 (瀬田体協)
山本 修 (瀬田南体協)

令和元年度

陌間 恵子 (水泳協会) 柴田 智恵美 (バレー協会) 里井 清美 (剣道連盟)
鈴鹿 実 (堅田体協) 奥村 良昭 (雄琴体振) 木村 正徳 (日吉台体振)
酒人立 昌弘 (藤尾体振) 佐々木 修二 (田上体協)

令和2年度

荒川 昭治 (陸上競技協会) 荒木 保 (スキー協会) 辻 辰巳 (唐崎体振)
森本 佐代子 (山中比叡平体振) 植田 幸作 (逢坂体振) 平野 秀雄 (平野体振)
加納 慶一 (南郷体振) 内田 仁 (瀬田体協) 松崎 訓子 (瀬田南体協)
阪口 弥平太 (瀬田北体協)

振興奨励賞

平成22年度 (体協創立60周年記念)

清水 良章 (弓道協会) 田中 助典 (バスケットボール協会) 荒堀 学 (空手道連盟)
吉川 日出吉 (小野体協) 石松 真由美 (真野体協) 下永田 知代 (真野北体協)
北川 小太郎 (仰木体協) 田村 敏 (雄琴体振) 清水 精一 (日吉台体振)
田中 達雄 (坂本体振) 西 良次 (下阪本体振) 辻 辰巳 (唐崎体振)
岡本 隆彦 (長等体文連) 植田 幸作 (逢坂体振) 伴 孝昭 (中央体振)
大庭 芳次 (晴嵐体協) 大久保 正文 (田上体協) 小西 庄次 (瀬田体協)
村松 善三 (瀬田南体協)

平成23年度

山下 定広 (陸上競技協会) 望月 明彦 (弓道協会) 昼田 益弘 (スキー協会)

東 條 祥 子 (バレーボール協会)	稲 満 (卓 球 協 会)	平 良 出 (柔道連盟大津支部)
田 中 均 典 (スポーツ拳法連盟)	井 居 悦 子 (堅 田 体 協)	小 鐘 正 樹 (仰 木 体 協)
板 谷 喜 美 子 (仰木の里体協)	則 光 竹 志 (坂 本 体 振)	高 添 博 (下 阪 本 体 振)
高 橋 章 (山中比叡平体振)	園 村 耕 一 (藤 尾 体 振)	若 山 達 也 (逢 坂 体 振)
木 村 徹 也 (中 央 体 振)	小 西 春 男 (平 野 体 振)	田 辺 登 美 子 (石 山 体 振)
香 川 達 彦 (南 郷 体 振)	塩 見 律 子 (大 石 体 振)	田 形 初 男 (瀬 田 南 体 協)
本 郷 博 (瀬 田 北 体 協)		

平成24年度

堀 井 九 二 三 (陸上競技協会)	岡 崎 和 子 (弓 道 協 会)	野 村 幸 生 (バスケットボール協会)
八 木 克 潔 (剣 道 連 盟)	大 西 加 奈 子 (ソフトボール協会)	道 海 静 雄 (ソフトテニス協会)
山 本 真 (空 手 道 連 盟)	吉 田 尚 友 (堅 田 体 協)	田 甫 佐 雅 博 (仰木の里体協)
吉 田 良 和 (日 吉 台 体 振)	永 井 市 雄 (唐 崎 体 振)	山 本 清 (長 等 体 文 連)
大 川 康 仁 (逢 坂 体 振)	岸 本 寿 弘 (中 央 体 振)	山 本 信 二 (富 士 見 体 振)
加 藤 哲 雄 (晴 嵐 体 協)	小 高 東 志 男 (石 山 体 振)	澤 田 藤 男 (瀬 田 体 協)
堀 江 和 生 (瀬 田 南 体 協)	内 田 晃 (瀬 田 東 体 協)	阪 口 浩 (瀬 田 北 体 協)

平成25年度

楠 井 康 文 (弓 道 協 会)	上 田 和 代 (ス キ ー 協 会)	山 下 記 誉 (ヨ ッ ト 協 会)
大 坪 明 吉 (柔道連盟大津支部)	川 崎 廣 子 (レ ク 協)	清 本 由 香 (仰木の里体協)
安 本 久 志 (雄 琴 体 振)	岡 井 信 太 郎 (日 吉 台 体 振)	笹 井 栄 子 (下 阪 本 体 振)
濱 野 信 雄 (藤 尾 体 振)	西 山 博 (逢 坂 体 振)	中 村 晃 (中 央 体 振)
新 屋 茂 幸 (晴 嵐 体 協)	若 林 久 治 (石 山 体 振)	中 井 信 吾 (南 郷 体 振)
大 野 寛 俊 (田 上 体 協)	田 中 國 夫 (瀬 田 南 体 協)	岡 田 詩 楼 (瀬 田 東 体 協)

平成26年度

奥 村 正 則 (陸上競技協会)	高 槻 典 代 (弓 道 協 会)	花 田 光 二 (バレーボール協会)
川 合 忠 信 (卓 球 協 会)	井 上 敏 (ヨ ッ ト 協 会)	北 川 基 寛 (柔道連盟大津支部)
新 海 哲 男 (剣 道 連 盟)	神 田 作 (空 手 道 連 盟)	三 宅 孝 (レ ク 協)
松 山 正 人 (下 阪 本 体 振)	小 島 康 誉 (唐 崎 体 振)	齊 藤 保 幸 (長 等 体 文 連)
若 山 美 津 子 (逢 坂 体 振)	神 田 富 士 子 (富 士 見 体 振)	浦 島 正 和 (晴 嵐 体 協)
後 藤 慶 子 (石 山 体 振)	本 郷 之 康 (瀬 田 北 体 協)	

平成27年度

森 玲 子 (弓 道 協 会)	長 谷 川 光 治 (ス キ ー 協 会)	久 保 敦 子 (卓 球 協 会)
飯 島 満 (柔道連盟大津支部)	北 脇 和 弘 (バスケットボール協会)	藤 川 太 鎮 (空 手 道 連 盟)
西 本 敏 (グラウンドゴルフ協会)	木 村 満 恵 (レ ク 協)	嶋 口 浩 (和 邇 体 協)
船 本 力 (仰木の里体協)	藤 田 保 雄 (日 吉 台 体 振)	伊 藤 昭 男 (下 阪 本 体 振)
園 田 彰 (滋 賀 体 協)	糸 永 輝 生 (藤 尾 体 振)	久 保 洋 司 (逢 坂 体 振)
馬 場 一 広 (中 央 体 振)	山 元 薫 (平 野 体 振)	山 本 清 和 (晴 嵐 体 協)
藤 田 秀 行 (石 山 体 振)	鈴 木 治 彦 (南 郷 体 振)	井 本 浩 子 (田 上 体 協)
磯 田 守 利 (瀬 田 南 体 協)	近 藤 勝 也 (瀬 田 北 体 協)	

平成28年度

初田久徳(陸上競技協会)	檜原秀治(弓道協会)	中野泰弘(バレーボール協会)
菊池勇治(剣道連盟)	塩見修(レク協)	川端淑員(ドラゴンボード協会)
酒井一雄(ソフトボール協会)	杉野嘉明(木戸体協)	橋本由樹(和邇体協)
北村昭雄(堅田体協)	森本祐司(日吉台体振)	木村正夫(下阪本体振)
藤井弘志(唐崎体振)	山内淳(山中比叡平体振)	村上義幸(藤尾体振)
山本学(長等体文連)	木寄智賀夫(逢坂体振)	山崎清美雄(中央体振)
浅川久代志(富士見体振)	疋田義昭(晴嵐体協)	小林典子(石山体振)
須田俊治(南郷体振)	中山勝則(大石体振)	田淵興人(瀬田南体協)
本郷等(瀬田北体協)		

平成29年度

奥山章文(卓球協会)	杉原幹也(弓道協会)	嶽本勝美(柔道連盟大津支部)
津志田昭司(スキー協会)	大江哲雄(グラウンドゴルフ協会)	松野由紀子(レク協)
寺田純子(下阪本体振)	塩谷光宏(和邇体協)	高橋敏幸(富士見体振)
山下邦雄(仰木の里体協)	中岡浩一(大石体振)	前田健二(晴嵐体協)
馬場崎彦二(中央体振)	谷寿之(上田上体協)	西村光弘(長等体文連)
泉康男(伊香立体協)		

平成30年度

鈴木茂(弓道協会)	平善彦(卓球協会)	平尾良彦(柔道連盟大津支部)
仮屋達彦(剣道連盟)	山形義春(グラウンドゴルフ協会)	八木久男(堅田体協)
大伴達也(雄琴体振)	上嶋徳久(日吉台体振)	石津禎明(下阪本体振)
永金基樹(唐崎体振)	谷口ナミ子(富士見体振)	久保佳代子(晴嵐体協)
藤原直樹(石山体振)	小鏝喜代治(南郷体振)	田中克典(田上体協)

令和元年度

市田正義(陸上競技協会)	野村美津枝(弓道協会)	山森和彦(スキー協会)
安武邦治(卓球協会)	内田強(柔道連盟大津支部)	谷内すみ江(レク協)
中橋真弓(仰木の里体協)	石田鎮男(坂本体振)	今井雅士(下阪本体振)
梅津靖博(唐崎体振)	前川靖子(長等体文連)	野村哲也(逢坂体振)
渡邊真規(中央体振)	酒井一雄(富士見体振)	中野茂(晴嵐体協)
高橋秀彦(石山体振)	的場隆好(南郷体振)	坂田芳孝(大石体振)

令和2年度

辻けい子(水泳協会)	徳田俊男(弓道協会)	上原徹(バレーボール協会)
北村弘文(卓球協会)	伊藤慶二郎(柔道連盟大津支部)	中村隆(剣道連盟)
乾澤正和(グラウンドゴルフ協会)	安孫子宗久(和邇スポ協)	松本利恵(仰木の里体協)
矢守友樹(雄琴体振)	瀧田聡(下阪本体振)	貴田千弘(藤尾体振)
成宮茂生(滋賀体協)	松田成司(長等体文連)	岩崎恵子(中央体振)
鷺村康子(晴嵐体協)	和田孝(石山体振)	服部忠(田上体協)

大津市スポーツ(体育)協会 役員名簿

平成23・24年度役員

役職名	氏名	所属
顧問	越 直 美	大津市長
〃	澤 村 憲 次	大津市教育長
〃	青 山 三四郎	大津市議会議長
〃	安孫子 平 次	大津市自治連合会会長
〃	三 宅 忠 義	元副会長・元市議会議長・競技団体
〃	大 谷 克 行	元副会長・元市議会議長学区・体育団体
〃	石 田 喜 之	元副会長・競技団体
〃	北 林 肇	元副会長・元市議会議長・スポーツ少年団
参 与	田 中 章 司	元副会長・学区体育団体
〃	山 田 茂 憲	元事務局長
〃	大 塚 勲	元副会長・学区体育団体
会 長	古 川 亘	競技) スポーツ拳法連盟
副会長	内 田 一 豊	自治連合会
〃	竹 内 茂 朗	競技) 陸上競技協会
〃	近 藤 由 三	元学区体育団体連絡協議会
〃	金 子 良 治	競技) インディアカ協会
〃	伊 藤 成 二	競技) ソフトテニス協会
〃	本 島 紀 之	学区体育団体連絡協議会
専務理事	堀 出 正 治	教育委員会管理監(市スポ課長)
常務理事	井 上 精 一	事務局長兼任
理 事	岩 崎 榮 一	競技) 軟式野球連盟
〃	百 田 保	競技) 水泳協会
〃	奥 村 功	競技) ボート協会
〃	長谷川 茂	競技) 卓球協会
〃	泉 谷 勝 彦	競技) スキー協会
〃	濱 崎 元 彌	競技) クレー射撃協会
〃	田 中 弘 志	競技) ソフトボール協会
〃	清 水 良 章	競技) 弓道協会
〃	井 上 裕 治	競技) サッカー協会
〃	小 澤 義 孝	競技) バレーボール協会
〃	村 田 大 作	競技) 空手道連盟
〃	村 井 健 郎	競技) バドミントン協会
〃	三 宅 孝	レクリエーション協会
〃	松 崎 訓 子	スポーツ少年団
〃	葛 野 一 美	学区) 葛川学区体育協会
〃	藤 井 輝 基	学区) 山中比叡平区体育振興会
〃	西 村 克 巳	学区) 藤尾学区体育振興会
〃	三 澤 明 美	学区) 晴嵐学区体育協会
〃	三 上 靖 弘	小学校体育連盟
〃	岩 見 弘	中学校体育連盟
〃	油 木 文 利	体育指導委員協議会
〃	大 芝 康 吉	自治連合会
〃	北 村 清 幸	自治連合会
監 事	伊 吹 敏 明	競技) 弓道協会
〃	植 田 幸 作	学区) 逢坂学区体育振興会

平成25・26年度役員

役職名	氏名	所属
顧問	越 直 美	大津市長
〃	富 田 眞	大津市教育長
〃	高 橋 健 二	大津市議会議長
〃	安孫子 平 次	大津市自治連合会会長
〃	三 宅 忠 義	元副会長・元市議会議長・競技団体
〃	大 谷 克 行	元副会長・元市議会議長・学区体育団体
〃	石 田 喜 之	元副会長・競技団体
〃	古 川 亘	元会長・競技団体
参 与	田 中 章 司	元副会長・学区体育団体
〃	山 田 茂 憲	元事務局長
〃	大 塚 勲	元副会長・学区体育団体
〃	近 藤 由 三	元副会長・競技団体
会 長	北 林 肇	元副会長
副会長	目 片 允 章	自治連合会
〃	金 子 良 治	競技) インディアカ協会
〃	本 島 紀 之	学区体育団体連絡協議会
〃	竹 内 茂 朗	競技) 陸上競技協会
〃	三 澤 明 美	元体育指導委員協議会会長
〃	村 田 大 作	競技) 空手道連盟
〃	大 森 秀 次	スポーツ少年団
専務理事	三 澤 明 美	副会長兼任
常務理事	井 上 精 一	事務局長兼任
理 事	吉 川 忠 司	市民スポーツ課長補佐
〃	松 田 修	競技) 軟式野球連盟
〃	滝 尊 一	競技) 水泳協会
〃	真 嶋 龍 道	競技) ボート協会
〃	長谷川 茂	競技) 卓球協会
〃	松 田 善 雄	競技) スキー協会
〃	安 西 将 也	競技) クレー射撃協会
〃	和 田 克 美	競技) ウォーキング協会
〃	清 水 良 章	競技) 弓道協会
〃	井 上 裕 治	競技) サッカー協会
〃	小 澤 義 孝	競技) バレーボール協会
〃	岩 本 剛	競技) 少林寺拳法協会
〃	村 井 健 郎	競技) バドミントン協会
〃	三 宅 孝	レクリエーション協会
〃	河 合 一 清	学区) 伊香立学区体育協会
〃	藤 井 輝 基	学区) 山中比叡平学区体育振興会
〃	安 田 晴 彦	学区) 富士見学区体育振興会
〃	原 田 隆 介	学区) 石山学区体育振興会
〃	三 上 靖 弘	小学校体育連盟
〃	藤 田 隆	中学校体育連盟
〃	油 木 文 利	スポーツ推進委員協議会
〃	大 芝 康 吉	自治連合会
〃	北 村 清 幸	自治連合会
監 事	伊 吹 敏 明	競技) 弓道協会
〃	植 田 幸 作	学区) 逢坂学区体育振興会

平成27・28年度役員

役職名	氏名	所属
顧問	越直美	大津市長
〃	桶谷学	大津市教育長
〃	鷺見達夫	大津市議会議長
〃	清水耕二	大津市自治連合会会長
〃	三宅忠義	元副会長・元市議会議長・競技団体
〃	石田喜之	元副会長・競技団体
〃	古川亘	元会長・競技団体
〃	北林肇	元会長
参与	田中章司	元副会長・学区体育団体
〃	山田茂憲	元事務局長
〃	大塚勲	元副会長・学区体育団体
〃	近藤由三	元副会長・競技団体
〃	竹内茂朗	元副会長・競技団体
〃	本島紀之	元副会長・学区体育団体
〃	大森秀次	元副会長
〃	堀井幸治	国体・スポーツ推進監
〃	井上精一	元事務局長
会長	金子良治	競技)インディアカ協会
副会長	堀井博樹	自治連合会
〃	安田晴彦	学区体育団体連絡協議会
〃	三澤明美	元体育指導委員協議会会長
〃	村田大作	競技)空手道連盟
〃	長谷川茂	競技)卓球協会
〃	小野清司	スポーツ少年団
専務理事	三澤明美	副会長兼任
常務理事	坂一郎	事務局長兼任
理事	川幡善勝	競技)陸上競技協会
〃	松田修	競技)軟式野球連盟
〃	滝尊一	競技)水泳協会
〃	真嶋龍道	競技)ボート協会
〃	安西将也	競技)クレ射撃協会
〃	和田克美	競技)ウォーキング協会
〃	井上裕治	競技)サッカー協会
〃	小澤義孝	競技)バレーボール協会
〃	岩本剛	競技)少林寺拳法協会
〃	村井健郎	競技)バドミントン協会
〃	三宅孝	レクリエーション協会
〃	宮部博文	競技)滋賀県柔道連盟大津支部
〃	河合一清	学区)伊香立学区体育協会
〃	松山正人	学区)下阪本学区体育振興会
〃	植田幸作	学区)逢坂学区体育振興会
〃	原田隆介	学区)石山学区体育振興会
〃	高木悟	小学校体育連盟
〃	高野清	中学校体育連盟
〃	山口昭二	スポーツ推進委員協議会
〃	西村克巳	自治連合会
監事	松田善雄	競技)スキー協会
〃	池内隆	学区)坂本学区体育振興会

平成29・30年度役員

役職名	氏名	所属
顧問	越直美	大津市長
〃	桶谷学	大津市教育長
〃	仲野弘子	大津市議会議長
〃	清水耕二	大津市自治連合会前会長
〃	三宅忠義	元副会長・元市議会議長・競技団体
〃	石田喜之	元副会長・競技団体
〃	古川亘	元会長・競技団体
〃	金子良治	元会長
参与	田中章司	元副会長・学区体育団体
〃	山田茂憲	元事務局長
〃	大塚勲	元副会長・学区体育団体
〃	近藤由三	元副会長・競技団体
〃	竹内茂朗	元副会長・競技団体
〃	本島紀之	元副会長・学区体育団体
〃	大森秀次	元副会長
〃	安田晴彦	元副会長
〃	藤本竜也	国体・スポーツ推進監
〃	井上精一	元事務局長
会長	三澤明美	競技)ウォーキング協会
副会長	木村重次	自治連合会
〃	岡野三郎	学区体育団体連絡協議会
〃	村田大作	競技)空手道連盟
〃	長谷川茂	競技)卓球協会
〃	小野清司	スポーツ少年団
専務理事	村田大作	副会長兼任
理事	川幡善勝	競技)陸上競技協会
〃	松田修	競技)軟式野球連盟
〃	中川和夫	競技)水泳協会
〃	真嶋龍道	競技)ボート協会
〃	安西将也	競技)クレ射撃協会
〃	和田克美	競技)ウォーキング協会
〃	井上裕治	競技)サッカー協会
〃	小澤義孝	競技)バレーボール協会
〃	岩本剛	競技)少林寺拳法協会
〃	村井健郎	競技)バドミントン協会
〃	三宅孝	レクリエーション協会
〃	宮部博文	競技)滋賀県柔道連盟大津支部
〃	河合一清	学区)伊香立学区体育協会
〃	松山正人	学区)下阪本学区体育振興会
〃	植田幸作	学区)逢坂学区体育振興会
〃	原田隆介	学区)石山学区体育振興会
〃	吉田聡	小学校体育連盟
〃	大西保	中学校体育連盟
〃	山口昭二	スポーツ推進委員協議会
〃	堀井博樹	自治連合会
監事	松田善雄	競技)スキー協会
〃	嶋口吉信	学区)和邇学区体育協会

令和元年度役員

役職名	氏名	所属
顧問	越直美	大津市長
〃	日渡円	大津市教育長
〃	近藤眞弘	大津市議会議長
〃	清水耕二	大津市自治連合会
〃	三宅忠義	元副会長・元市議会議長・競技団体
〃	古川亘	元会長・競技団体
〃	金子良治	元会長
〃	三澤明美	前会長
参与	田中章司	元副会長・学区体育団体
〃	山田茂憲	元事務局長
〃	大塚勲	元副会長・学区体育団体
〃	近藤由三	元副会長・学区体育団体
〃	竹内茂朗	元副会長・競技団体
〃	本島紀之	元副会長・学区体育団体
〃	大森秀次	元副会長
〃	安田晴彦	元副会長・学区体育団体
〃	長谷川茂	元副会長・競技団体
会長	磯田英清	競技)陸上競技協会
副会長	北川吉男	自治連合会
〃	岡野三郎	学区体育団体連絡協議会
〃	小野清司	スポーツ少年団
〃	安西将也	競技)クレー射撃協会
〃	村田大作	競技)空手道連盟
専務理事	村田大作	副会長兼任
常務理事	井上精一	事務局長兼任
理事	川幡善勝	競技)陸上競技協会
〃	神山友宏	競技)軟式野球連盟
〃	町田登	競技)水泳協会
〃	濱崎達弥	競技)クレー射撃協会
〃	中山敦生	競技)インディアカ協会
〃	井上裕治	競技)サッカー協会
〃	小澤義孝	競技)バレーボール協会
〃	岩本剛	競技)少林寺拳法協会
〃	村井健郎	競技)バドミントン協会
〃	三宅孝	レクリエーション協会
〃	宮部博文	競技)滋賀県柔道連盟大津支部
〃	河合一清	学区)伊香立学区体育協会
〃	松山正人	学区)下阪本学区体育振興会
〃	植田幸作	学区)逢坂学区体育振興会
〃	原田隆介	学区)石山学区体育振興会
〃	梅井俊仁	小学校体育連盟
〃	竹橋清隆	中学校体育連盟
〃	山口昭二	スポーツ推進委員協議会
〃	高間敏次	自治連合会
監事	馬場洋	競技)軟式野球連盟
〃	嶋口吉信	学区)和邇学区体育協会

令和2年度役員

役職名	氏名	所属
顧問	佐藤健司	大津市長
〃	島崎輝久	大津市教育長
〃	八田憲児	大津市議会議長
〃	木村重次	大津市自治連合会・元副会長
〃	三宅忠義	元副会長・元市議会議長・競技団体
〃	古川亘	元会長・競技団体
〃	金子良治	元会長・競技団体
〃	三澤明美	元会長・学区体育団体
参与	田中章司	元副会長・学区体育団体
〃	山田茂憲	元事務局長
〃	大塚勲	元副会長・学区体育団体
〃	近藤由三	元副会長・学区体育団体
〃	本島紀之	元副会長・学区体育団体
〃	大森秀次	元副会長
〃	安田晴彦	元副会長・学区体育団体
〃	長谷川茂	元副会長・競技団体
会長	磯田英清	競技)陸上競技協会
副会長	川端太喜男	自治連合会
〃	岡野三郎	学区体育団体連絡協議会
〃	小野清司	スポーツ少年団
〃	安西将也	競技)クレー射撃協会
〃	團初太郎	競技)バレーボール協会
〃	中山敦生	競技)インディアカ協会
専務理事	岡野三郎	副会長兼任
常務理事	井上精一	事務局長兼任
理事	川幡善勝	競技)陸上競技協会
〃	神山友宏	競技)軟式野球連盟
〃	町田登	競技)(一社)水泳協会
〃	濱崎達弥	競技)クレー射撃協会
〃	井上裕治	競技)サッカー協会
〃	小澤義孝	競技)バレーボール協会
〃	岩本剛	競技)少林寺拳法協会
〃	村井健郎	競技)バドミントン協会
〃	三宅孝	レクリエーション協会
〃	宮部博文	競技)滋賀県柔道連盟大津支部
〃	河合一清	学区)伊香立学区体育協会
〃	松山正人	学区)下阪本学区体育振興会
〃	植田幸作	学区)逢坂学区体育振興会
〃	原田隆介	学区)石山学区体育振興会
〃	梅井俊仁	小学校体育連盟
〃	竹橋清隆	中学校体育連盟
〃	山口昭二	スポーツ推進委員協議会
〃	高間敏次	自治連合会
監事	馬場洋	競技)軟式野球連盟
〃	嶋口吉信	学区)和邇学区スポーツ協会

大津市スポーツ協会 加盟団体

団体名
大津市陸上競技協会
一般社団法人 大津市水泳協会
大津市軟式野球連盟
大津市弓道協会
大津市スキー協会
大津市サッカー協会
大津市バレーボール協会
大津市卓球協会
大津市ヨット協会
大津市体操協会
大津市ボート協会
滋賀県柔道連盟大津支部
大津市バスケットボール協会
大津市剣道連盟
大津市バドミントン協会
大津市乗馬連盟
大津市ソフトボール協会
大津市クレー射撃協会
大津市フェンシング協会
大津市テニス協会
大津市ソフトテニス協会
大津市ラグビーフットボール協会
大津市ライフル射撃協会
大津市カヌー協会
大津市なぎなた連盟
大津市ボウリング協会
大津市空手道連盟
大津市スポーツ拳法連盟
大津市アメリカンフットボール連盟
大津市ゲートボール連盟
大津市インディアカ協会
大津市ゴルフ協会
大津市武術太極拳協会
大津市グラウンド・ゴルフ協会
大津市ドラゴンボート協会
大津市ダンススポーツ連盟
大津市少林寺拳法協会
大津市ウォーキング協会
スポーツチャンバラ大津支部
大津市トライアスロン協会
大津市エアロビック連盟
大津市バウンドテニス協会
大津市中学校体育連盟
大津市小学校体育連盟
大津市レクリエーション協会
大津市スポーツ少年団

団体名
小松学区体育協会
木戸学区体育協会
和邇学区スポーツ協会
小野学区体育協会
葛川学区体育協会
伊香立学区体育協会
真野学区体育協会
真野北学区体育協会
堅田学区体育協会
仰木学区体育協会
仰木の里学区体育協会
雄琴学区体育振興会
日吉台学区体育振興会
坂本学区体育振興会
下阪本学区体育振興会
唐崎学区体育振興会
滋賀学区体育協会
山中比叡平学区体育振興会
藤尾学区体育振興会
NPO法人長等まちづくり協議会 体育文化部（長等体育文化連盟）
逢坂学区体育振興会
中央学区体育振興会
平野学区体育振興会
膳所学区体育振興会
富士見学区体育振興会
晴嵐学区体育協会
石山学区体育振興会
南郷学区体育振興会
大石学区体育振興会
田上学区体育協会
上田上学区体育協会
青山学区体育協会
瀬田学区体育協会
瀬田南学区体育協会
瀬田東学区スポーツ協会
瀬田北学区体育協会

大津市学区対抗野球大会

当大会は昭和35年（1960年）、皇子山球場が開設された同年に、第1回大会が開催されました。近年は5月から6月にかけて皇子山運動公園多目的グラウンドでトーナメント戦を行い、準決勝戦からは、皇子山球場で試合となります。滋賀県民体育大会の大津市からの出場枠をかけた予選大会も兼ねており、市民スポーツの振興と学区相互の親睦、また健康維持増進に大いに役立つ大会となっています。



第61回大会（令和2年）は新型コロナウイルス感染症拡大を受けて中止となりましたが、球場正面の「野球少年の像」はなお健在であります。新しい時代へ快音響かせ進んで参りましょう。

主催 大津市スポーツ協会

主管 大津市軟式野球連盟

大津市学区対抗野球大会記録

回	年度	優勝	回数	準優勝
1	昭和35	平野	初	
2	36	中央	初	膳所
3	37	長等	初	
4	38	膳所	初	
5	39	膳所	2	
6	40	長等	2	
7	41	長等	3	逢坂
8	42	晴嵐	初	
9	43	晴嵐	2	堅田
10	44	晴嵐	3	逢坂
11	45	膳所	3	
12	46	長等	4	
13	47	長等	5	
14	48	晴嵐	4	膳所
15	49	膳所	4	平野
16	50	膳所	5	下阪本
17	51	石山	初	平野
18	52	平野	2	膳所
19	53			
20	54	晴嵐	5	堅田
21	55	晴嵐	6	

回	年度	優勝	回数	準優勝
22	56	晴嵐	7	
23	57	晴嵐	8	
24	58	長等	6	膳所
25	59	晴嵐	9	下阪本
26	60	晴嵐	10	藤尾
27	61	膳所	6	長等
28	62	膳所	7	逢坂
29	63	藤尾	初	田上
30	平成元	真野	初	石山
31	2	膳所	8	逢坂
32	3	真野	2	膳所
33	4	富士見	初	滋賀
34	5	藤尾	2	滋賀
35	6	晴嵐	11	堅田
36	7	下阪本	初	晴嵐
37	8	仰木	初	膳所
38	9	堅田	初	滋賀
39	10	堅田	2	仰木
40	11	真野	3	下阪本
41	12	真野	4	堅田
42	13	藤尾	3	平野

回	年度	優勝	回数	準優勝
43	14	坂本	初	膳所
44	15	藤尾	4	南郷
45	16	真野	5	中央
46	17	大石	初	真野
47	18	和邇	初	坂本
48	19	和邇	2	膳所
49	20	大石	2	滋賀
50	21	真野	6	田上
51	22	堅田	3	和邇
52	23	滋賀	初	堅田
53	24	滋賀	2	晴嵐
54	25	藤尾	5	滋賀
55	26	南郷	初	富士見
56	27	田上	初	南郷
57	28	滋賀	3	瀬田東
58	29	晴嵐	12	和邇
59	30	真野	7	晴嵐
60	令和元	滋賀	4	南郷
61	令和2			

大津市学区対抗グラウンドゴルフ大会

気軽に楽しめるグラウンドゴルフを通じて、学区相互の親睦を図るとともに、ふれあい、交流、コミュニケーションを促進し、また自らの健康維持・増進に努めることを目的として平成13年から開催されています。



1チーム7名（監督1名・男子3人・女子3人）で構成され、学区対抗の部並びに個人の部（男子・女子）で競われます。学区対抗の部は各学区の選手全員の打数の合計で、個人の部は第1ホールから最終ホールまでの打数の合計で競い合います。



年齢は問わないのですが、特に高齢者にとって気軽に楽しめるスポーツであることから参加者の平均年齢が高く、参加学区数も他の学区対抗大会と比べ一番多くなっています。地域に愛好者も多く、令和2年6月の大会は新型コロナウイルス感染症の影響の中でも、屋外開催であることなどから開催を望む声が多くありましたが、参加者の多くがシニア層であることなども考慮し、中止となりました。

主催 大津市スポーツ協会
 主管 大津市グラウンド・ゴルフ協会
 支援 大津市学区体育団体連絡協議会

大津市学区対抗グラウンドゴルフ大会記録

回	年度	優勝	準優勝	第3位	参加学区数	参加者数
10	平成22	伊香立	瀬田南	富士見	35	245
11	平成23	堅田	瀬田北	富士見	33	231
12	平成24	瀬田南	真野北	瀬田北	34	238
13	平成25	瀬田南	和邇	唐崎	33	231
14	平成26	唐崎	瀬田南	下阪本	34	238
15	平成27	瀬田南	木戸	瀬田北	34	238
16	平成28	雨天のため中止				
17	平成29	仰木	真野北	瀬田	33	231
18	平成30	伊香立	瀬田南	瀬田北	33	231
19	令和元	瀬田東	真野	唐崎	32	224
20	令和2	新型コロナウイルス感染症の影響により中止				



大津市学区対抗ビーチバレーボール大会

この大会は、平成9年度に大津市湖岸なぎさ公園サンシャインビーチにて、男子の部・女子の部の二部制で第1回大会が開催され、砂浜を活かした開放感あふれる夏のイベントとして定着してきました。近年の気候変動に伴い、熱中症対策を講ずるなど事故が無いように準備しておりますが、平成27年度は台風の影響による、令和元年度は大雨の影響による中止に続き、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響にて開催中止となっております。



悪条件が続き未実施にはなっていますが、状況に対抗する新たな取り組みとして、大津市企業局と連携し、ミストシャワー・避暑ブースの設置、給水車からの水道水の配布を計画しました。また、スポーツボランティア登録制度・ゲームコンダクターSHIGAを利用したボランティア募集を行い、スポーツを「する・観る・支える」文化を築き、スポーツを通じた地域共生社会の構築に貢献する活動にも参画を始めました。2025年に延期となった滋賀県国スポ・障スポへ向け機運を高める大会にもなるよう、時流に応じた開催を続けてまいります。

主催 大津市スポーツ協会
 主管 大津市スポーツ推進委員協議会
 協力 大津市バレーボール協会



大津市学区対抗ビーチバレー大会記録

回数(年度)	男子の部				女子の部			
	優勝	準優勝	第3位		優勝	準優勝	第3位	
第14回(平成22年)	瀬田南	仰木の里	長等	瀬田	田上	唐崎	長等	瀬田
第15回(平成23年)	堅田	長等	瀬田南	山中比叡平	田上	瀬田	小松	石山
第16回(平成24年)	瀬田南	小松	唐崎	滋賀	真野	堅田	滋賀	石山
第17回(平成25年)	瀬田南	真野	小松	唐崎	真野	堅田	小松	逢坂
第18回(平成26年)	瀬田南	唐崎	長等	田上	真野	小松	堅田	田上
第19回(平成27年)	台風の影響により中止							
第20回(平成28年)	堅田	唐崎	山中比叡平	平野	堅田	逢坂	田上	滋賀
第21回(平成29年)	瀬田南	山中比叡平	田上	長等	瀬田南・瀬田(荒天の為決勝戦中止)		伊香立	田上
第22回(平成30年)	瀬田南	堅田	瀬田東	瀬田	瀬田南	田上	瀬田北	石山
第23回(令和元年)	大雨の影響により中止							
第24回(令和2年)	新型コロナウイルス感染症の影響により中止							

大津市学区対抗インディアカ大会

インディアカは、羽根の付いたボール（インディアカボール：打撃部分は平たくて柔らかなスポンジが入っている）を手で打ち合う、バレーボールタイプのスポーツです。不慣れな人でも気軽にゲームを楽しむことができます。

競技を通して、大津市民の健康増進と体力づくりを目的とし、参加者の親睦を深めるとともに、生涯スポーツ「インディアカ」のより一層の普及を目指し開催されています。また、愛好家の底辺を広げることにより、日本一元気なまち大津の創造と、総合型地域スポーツクラブの普及推進に寄与するものでもあります。



第1回大会は平成7年に開催され、当初は、大津市学区体育団体連絡協議会が主催し、大津市体育指導委員協議会が主管を務めていました。平成10年に大津市インディアカ協会が設立され、第4回大会より大津市レクリエーション協会主催の元主管を担って頂きました。その後主催は大津市スポーツ協会へ移っていますが、変わらず主管を務めて頂いています。

一般の部とシニアの部と分けて開催しており、一般の部は中学校卒業以上（常時コートに男子2名、女子2名または男子1名、女子3名）、シニアの部45歳以上の1チーム4名で戦います。なお、シニアの部参加チームの減少などを受けて平成30年度から年間学区対抗対象競技から外れましたが、生涯スポーツとしてまたレクリエーションとして、今後も普及振興を図っていききたい大会です。

大津市学区対抗インディアカ大会総合優勝 記録

回	年度	学区	
		一般混合	シニア総合
16	平成22	滋賀	藤尾
17	平成23	藤尾	藤尾
18	平成24	富士見	藤尾
19	平成25	坂本	瀬田南
20	平成26	滋賀	藤尾
21	平成27	滋賀	藤尾
22	平成28	青山	下阪本
23	平成29	坂本	下阪本
24	平成30	坂本	藤尾
25	令和元	富士見	藤尾
26	令和2	新型コロナウイルス感染症の影響により中止	

主催 大津市・大津市スポーツ協会
 主管 大津市インディアカ協会
 協賛 大津市学区体育団体連絡協議会
 後援 大津市スポーツ推進委員協議会・大津市レクリエーション協会



大津市学区対抗サッカー大会

昭和43年度に第1回大会が開催され、冬季1月から3月にかけてトーナメント対戦し、準優勝・優勝決定戦が皇子山陸上競技場にて行われる。この大会は滋賀県民体育大会の子選を兼ねており、優勝チームは大津市代表として県民体育大会に参加頂いている。

平成3年度の第24回大会からクラブ対抗の部を新しく設け、多くのクラブチームの参加を得て行ってきたが、平成18年度の第39回大会からクラブチームの部を廃止し、学区対抗のみの大会としている。



日本のサッカーは平成5年、プロリーグ・Jリーグが開幕し、平成11年にはJ2リーグが、平成26年にはJ3リーグが発足し三部制となった。また女子サッカーにおいては平成23年、東日本大震災の年に、代表チームがFIFA女子ワールドカップ優勝を果たし、日本国内が『なでしこフィーバー』に沸いた事が鮮烈に記憶に残る。令和3年秋には日本初の女子プロサッカーリーグ「WEリーグ」が11クラブの参加で開幕予定である。

当大会は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、53回を重ねる大会史上初の中止決定をした。また近年参加学区数も減少傾向にあるが、全国的にプロ選手アマチュア選手も増えている中、普及の波と隆盛を受け、サッカーを通じた健康・体力づくり、地域間交流の場として気軽に参加できる大会として開催していく。

主催 大津市スポーツ協会
主管 大津市サッカー協会

サッカー大会歴代優勝・準優勝チーム一覧表

年 度	回数	学区対抗の部		
		優 勝		準優勝
22	43	滋 賀	2 - 2	藤 尾
		(PK 4 - 2)		
23	44	青 山	4 - 1	下阪本
24	45	仰木の里 B	2 - 2	唐崎 A
		(PK 5 - 4)		
25	46	下阪本	2 - 1	唐崎 A
26	47	田 上	1 - 1	唐崎 A
		(PK 4 - 2)		
27	48	滋 賀	5 - 0	長 等
28	49	滋 賀	1 - 0	堅田 A
29	50	滋 賀	3 - 0	堅田 B
30	51	堅 田	4 - 0	瀬田東
令和元	52	堅 田	3 - 1	山中比叡平
2	53	新型コロナウイルス感染症の影響により中止		



大津市民駅伝競走大会

当大会は、第1回大会が昭和33年「旧大津市公民館～紅葉館前～際川～下阪本町～来迎寺前」を往復するコースで大津市学区対抗駅伝競走大会として開催され、その後諸事情によりコース変更し、第15回大会(昭和48年)より、田上・上田上周回コースに変更、第34回大会(平成4年)に女子の部が新設され、5部制となりました。(学区の部・一般クラブの部・登録クラブの部・中学校の部・女子の部)

令和元年度には令和大橋(瀬田川・南郷-関津)が開通され近年の交通量の増大により、出場選手の安全性を考慮し、第62回大会(令和2年)には「田上公園～新免～堂～羽栗橋～石居橋～田上公園」の周回コースに変更をし、同年中学女子の部を新設して6部制となりました。



当駅伝大会は、主管団体をはじめ、スポーツ推進委員、地元体育団体、周辺学区体育団体、地域企業や地域住民等多くの方々に支えられている大会でもあります。

第63回大会(令和3年)は2月7日に開催予定でしたが新型コロナウイルス感染症の影響により大会を自粛(中止)することとなりました。来年以降へタスキを繋いでまいります。

主催 大津市スポーツ協会
主管 大津市陸上競技協会

回	コース	部	1位	2位	3位
53	田上・上田上 周回コース (平成23年)	学区	南郷学区	長等学区	瀬田北学区
		中学男子	瀬田北中学校陸上部A	志賀中学校	打出中学校A
		一般	大津市消防局	龍谷大学職員A	東大津高校A
		登録者	東大津高校	比叡山高校陸上部	石山高校
54	" (平成24年)	学区	富士見学区	長等学区	田上学区
		中学男子	志賀中学校A	瀬田北中学校野球部A	打出中学校A
		一般	チームしようもえ	チームだーやす	龍谷 RUNRUN
		登録者	東大津高校	比叡山高校	大津自衛隊A
55	" (平成25年)	学区	唐崎学区	瀬田北学区	唐崎学区
		中学男子	瀬田北中学校陸上部A	志賀中学校陸上部	瀬田北中学校野球部A
		一般	東大津高校C	龍谷RUNRUN-A	堅田高校野球部A
		登録者	比叡山高校	東大津高校	大津自衛隊109A
56	" (平成26年)	学区	仰木の里学区A	瀬田北学区	唐崎学区
		中学男子	志賀中学校	瀬田北中学校陸上部A	瀬田北中学校野球部A
		一般	KURC_A	大津高校	東大津高校A
		登録者	比叡山高校	東大津高校	綾羽高校(大津市在住)
57	" (平成27年)	学区	瀬田北学区	唐崎学区	南郷学区
		中学男子	志賀中学校	瀬田北中学校陸上部	打出中学校A
		一般	チーム Champion	大津市役所ランナースクラブ	瀬田漕艇クラブA
		登録者	東大津高校A	石山高校	瀬田工業高校A
58	" (平成28年)	学区	仰木の里学区	瀬田北学区	富士見学区
		中学男子	打出中学校A	志賀中学校	瀬田中学校陸上部A
		一般	大津市役所ランナースクラブA	龍谷RUNRUN	びわこランナースA
		登録者	比叡山高校A	東大津高校	石山高校
59	" (平成29年)	学区	瀬田北学区	滋賀学区	長等学区
		中学男子	瀬田中学校陸上部	瀬田北中学校陸上部	南郷中学校野球部A
		一般	びわこランナースA	大津市役所ランナースクラブA	龍谷RUNRUN
		登録者	比叡山高校B	比叡山高校A	石山高校
60	" (平成30年)	学区	唐崎学区A	瀬田北学区	和邇学区
		中学男子	瀬田中学校	打出中学校A	皇子山中学校
		一般	びわこランナースA	大津市役所ランナースクラブA	京都大学ポート部1st
		登録者	比叡山高校A	比叡山高校B	瀬田工業高校
61	" (平成31年)	学区	唐崎学区A	瀬田北学区	和邇学区
		中学男子	瀬田中学校	打出中学校A	皇子山中学校
		一般	びわこランナースA	大津市役所ランナースクラブA	京都大学ポート部1st
		登録者	比叡山高校A	比叡山高校B	瀬田工業高校
62	田上・上田上 周回コース (従来の約半周 にコース変更) (令和2年)	学区	唐崎学区	和邇学区	南郷学区
		中学男子	瀬田北中学校A	打出中学校陸上部A	南郷中学校A
		中学女子	瀬田北中学校A	打出中学校陸上部	龍谷大学職員チームA
		一般	びわこランナース	大津市役所ランナースクラブA	龍谷大学職員チームA
63	" (令和2年)	登録者	比叡山高校	瀬田工業高校	石山高校
		女子	比叡山高校B	石山高校	東大津高校
63	中止	(新型コロナウイルス感染症の影響のため) (令和3年)			

距離：52～54回大会 学区・中学男子・一般・登録者22.1キロ、女子11.2キロ
 距離：55～60回大会 学区・中学男子・一般・登録者22.4キロ、女子11.2キロ
 距離：61回大会 学区・中学男子・一般・登録者22.2キロ、女子11.1キロ
 距離：62回大会 学区・一般・登録者23.8キロ、中学男女・女子11.8キロ



大津市民スキー・スノーボード大会

第1回が昭和12年にマキノスキー場で開催された、各種体育大会中でも最も歴史ある大会である。大津市民スキー・スノーボード選手権大会を同時開催している。積雪不足の影響などにより、平成16年の第68回大会より、場所をびわ湖バレイに移し、スキーの部・スノーボードの部の大回転競技を実施している。また、近年は国内外からの観光の賑わいを受けて、概ね日曜開催であった日程を令和元年度から土曜に変更している。

当大会は天候や積雪量等により大会開催が大きく左右され、近年は温暖化による積雪不足が危ぶまれる事が多い。しかし、市内にスキー場がある利を生かし、小学生から年齢を重ねた者までが、雪に親しみ、山になじみ、技を競う楽しみと滑走の醍醐味を味わえる機会の提供としていきたい。

主催 大津市スポーツ協会

主管 大津市スキー協会



大津市民スキー・スノーボード大会

回	年度	開催日	部門	参加人数
74	平成22年度	2月27日	スキーの部	114
			スノーボードの部	5
75	平成23年度	2月26日	スキーの部	110
			スノーボードの部	8
76	平成24年度	3月2日	スキーの部	99
			スノーボードの部	5
77	平成25年度	2月23日	スキーの部	103
			スノーボードの部	5
78	平成26年度	2月22日	スキーの部	114
			スノーボードの部	8
79	平成27年度	2月21日	スキーの部	中止 (積雪不足)
			スノーボードの部	
80	平成28年度	2月26日	スキーの部	94
			スノーボードの部	4
81	平成29年度	2月25日	スキーの部	85
			スノーボードの部	4
82	平成30年度	2月24日	スキーの部	99
			スノーボードの部	2
83	令和元年度	2月8日	スキーの部	中止 (積雪不足)
			スノーボードの部	
84	令和2年度	2月13日	スキーの部	
			スノーボードの部	



大津市民乗馬教室

乗馬は他のスポーツと性質が違い、人馬一体となって楽しむスポーツで、市民が自然の中で馬と触れ合う楽しさを気軽に体験できるように、初めての方を対象として教室を開催しています。平成19年度より、毎年3月の日曜日に20分の騎乗体験を計4回行っています。初心者対象ですので、指導員が手綱をつけて誘導して体験しますが、初めて馬にまたがった方はその視線の高さや馬体の大きさ温かさに、また乗馬が全身運動になる事にも驚き、そして他では味わえない経験に魅了されていかれます。最終回には多くの方がしっかりとした騎乗姿を披露され、皆さん笑顔で教室を終えられます。今後も生涯スポーツとして市民の皆さんに広くお知らせしていきます。



主催 大津市スポーツ協会
主管 大津市乗馬連盟



＜大津市大谷乗馬場＞

- 昭和21年 大津市柳ヶ崎に米進駐軍の乗馬施設が完成。
- 昭和24年 上記乗馬施設が大津市に払い下げられ、大津市営馬術練習場が誕生。
- 昭和38年 現在地に鉄骨2階建て、馬房20頭分、飼料庫作業場、角馬場、付属設備等が完成。
- 昭和40年 琵琶湖スポーツ少年団が結成

また、さかのぼる事昭和25年、高校馬術の先駆者として膳所高等学校馬術班が生まれ、現在も活躍中。県内でもとても珍しい歴史と伝統ある班で、日々、大谷乗馬場で活動し、競技の練習以外にも、馬の世話などを行っています。



国体開催予定種目啓発教室 国体・オリンピックチャレンジ事業

「国体開催予定種目啓発教室」は、滋賀県で開催される第79回国民体育大会、第24回全国障害者スポーツ大会の開催予定種目教室を行うことで、市民の国体・障スポ大会観戦意欲を高めまた大会へ向けての機運醸成を図るために、「国体・オリンピックチャレンジ事業」は、国体・障スポに加えて東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けトップアスリートによる競技教室などを開催することにより、さまざまな運動に触れる機会を増やし子どもたちの体力向上を図るとともに、競技スポーツの魅力を伝えながら子どもが楽しく体を動かす機会づくりを進める事を目的と

して、大津市から委託され教室開催してきました。普段は触れたことのない種目を子供たちに体験してもらう、また「障がい者スポーツ」として健常者には認知度が低い種目の教室開催によって、障がいのあるなしに関わらず共にスポーツを楽しむ事で心のバリアフリーを推進するなど一定の役割を果たしながら、滋賀国スポ・障スポの大津市開催予定種目教室をすべて開催した事等からこの事業としての役目を終えました。

(事業名は当時の名称です。)



年度	教室名	開催日	開催場所	協力団体	
H28	オリンピック チャレンジ	バレーボール教室	7/30	志賀中学校体育館・皇子が丘公園体育館・南郷中学校体育館	日本バレーボール協会 大津市バレーボール協会
		バドミントン教室	1/9	皇子が丘公園体育館	日本バドミントン協会 大津市バドミントン協会
		バスケットボール教室	1/9・15	真野北小学校体育館・富士見小学校体育館・南郷小学校体育館	滋賀レイクスターズ 大津市バスケットボール協会
	国体開催予定 種目啓発教室	フェンシング教室	7/23・24	滋賀県立スポーツ会館	日本フェンシング協会 大津市フェンシング協会
		キックベースボール教室	2/2・14	滋賀県立北大津養護学校体育館	大津市障がい者スポーツ協会 びわこ成蹊スポーツ大学サッカー部
		インディアカ教室	11/20・12/18・1/29	富士見市民センター・仰木の里東小学校体育館・大石小学校体育館	滋賀県インディアカ協会 大津市インディアカ協会
H29	オリンピック チャレンジ	テニス教室	11/23・25	皇子山テニスコート・志賀レイクサイドテニスクラブコート	大津市テニス協会
		サッカー教室	12/3	皇子山陸上競技場	京都パープルサンガ 大津市サッカー協会
		陸上競技教室	12/9	皇子山陸上競技場	住友電工 大津市陸上競技協会
	国体開催予定 種目啓発教室	ビーチラグビー教室	11/26	なぎさ公園	関西ビーチラグビー協会 大津市ラグビー協会
		フライングディスク教室	12/17	皇子山陸上競技場	大津市障害者スポーツ協会
		リードボルダリング教室	3/18	比良げんき村人口登攀壁	滋賀県山岳連盟
H30	国体開催予定 種目啓発教室	オリンピック 体操教室	12/24・25・26	びわこクリーンJr体操クラブ	大津市体操協会
		ダブルダッチ教室	12/23・1/12・2/9	皇子が丘公園体育館・瀬田公園体育館	日本ダブルダッチ協会 MIYAKO JUNP ROPE CLUB
		サウンドテーブルテニス教室	10/22・11/7・12/13	におの浜ふれあいスポーツセンター	大津視覚障害者協会卓球クラブ
		空手教室	2/11	滋賀県立武道館	大津市空手道連盟
R1	オリンピック	フェンシング教室	11/9・10	におの浜ふれあいスポーツセンター	日本フェンシング協会 大津市フェンシング協会



いきいき健歩ウォーキング

大津市スポーツ推進計画にのっとり「いつでも」「どこでも」「だれでも」「いつまでも」スポーツに親しむことが出来るよう、また市民の週1回以上の運動・スポーツ実施率向上を図るため、手軽に参加できるウォーキングイベントとして、大津市から委託を受け平成27年より4年間、毎年10回開催しました。のべ2,000人の参加を得て楽しんで頂きましたが、様々な団体でもウォーキングを開催されるようになってきていることや、滋賀県下の市町

や健康保険協会等が参加しているBIWA-TEKUアプリの拡がりなどを受け、事業の役割を終えました。



主管
大津市ウォーキング協会

年度	月日	コース	距離	参加人数	年度	月日	コース	距離	参加人数
H27	6/3	大津曳山展示館・義仲寺・膳所城跡	6km	28人	H29	6/21	仰木棚田ウォーキング	13km	25人
	7/1	小谷城落城時の虎御前山砦ウォーク	8.5km	33人		7/9	西近江路ウォーキング	10km	61人
	8/9	山科から六地藏ウォーク	11km	45人		8/30	下鴨・宝ヶ池ウォーキング	7km	60人
	9/9	瀬田川・湖岸周回ウォーク	8km	中止		9/24	マキノ・メタセコイアウォーキング	13km	69人
	10/2	国宝「彦根城」をめぐるウォーク	7km	51人		10/28	明智光秀の痕跡をたどるウォーキング	9km	64人
	11/18	嵯峨野から保津峡へ紅葉ウォーク	10km	44人		11/29	鷄足寺と観音の里ウォーキング	12km	50人
	12/6	草津宿本陣めぐりウォーク	5km	68人		12/13	ならウォーキング	9km	48人
	1/20	天王山ウォーク	9km	4人		1/17	夕照の道・帰帆島ウォーキング	10km	45人
	2/17	飯室谷・千野の里ウォーク	8km	84人		2/3	嵯峨嵐山ウォーキング	9km	71人
	3/13	ならウォーク	7km	52人		3/7	湖族の郷ウォーキング	7km	75人
H28	6/16	大津歴史ウォーキング	8km	29人	6/20	仰木棚田ウォーキング	13km	22人	
	7/13	五個荘ウォーキング	10km	28人	7/1	長浜湖岸ウォーキング	9km	47人	
	8/28	醒井・柏原ウォーキング	6.5km	41人	8/29	山科疎水・大谷乗馬場ウォーキング	8km	50人	
	9/16	坂本城跡・唐崎神社ウォーキング	10km	40人	9/16	西近江路ウォーキング	8km	69人	
	10/12	石田三成の生誕地ウォーキング	15.5km	49人	10/10	宇治ウォーキング(宇治十帖の世界へ)	9km	54人	
	11/16	天王山ウォーキング	9km	60人	11/14	大津市歴史ウォーキング	8km	52人	
	12/6	山科疎水ウォーキング	6km	65人	12/5	旧東海道水口宿ウォーキング	10km	47人	
	1/12	立木観音ウォーキング	8.5km	52人	1/20	膳所五社めぐりウォーキング	8km	45人	
	2/4	東福寺・泉涌寺ウォーキング	7km	63人	2/16	京都御苑から相国寺ウォーキング	7km	51人	
	3/8	多賀ウォーキング	11.5km	52人	3/6	小野一族をめぐるウォーキング	10km	73人	

大津市スポーツ協会独自事業

大津市民の「元気の源」「ビタミン剤」として、また自主財源確保の一助として協会主催のイベントをいくつか開催しました。今後も市民の心身の健康増進と生涯スポーツ普及に役立つ事業を時節に応じて適宜開催を目指してまいります。

- スポーツ傷害の予防と対策 講演会
講師：後藤匡志(琵琶湖大橋病院スポーツ整形外科医・JSPOスポーツドクター・滋賀レイクスターズチームドクター)
平成29年1月22日 皇子が丘公園体育館
参加費：500円
- キッズ・バトンスクール
講師：嶋村愛香(2017WBTFインターナショナルカップ3バトン世界第1位・龍谷大学バトンチーム所属)
平成30年12月22日 皇子が丘公園体育館
参加費：小中学生 1,500円
一般 3,000円



- メンタルトレーニング講座
～スポーツにおける心理学の活用～
講師：渡辺英児(龍谷大学教授・元全日本女子バレーボールチームメンタルトレーナー)
平成30年12月10日 皇子が丘公園体育館
参加費：3,000円



- 幻のラジオ体操第3動画コンテスト
～運動不足解消に！ダイエットに！
おうち体操で頭も体もリフレッシュ～
募集期間：
令和2年8月3日～10月31日
You Tubeへ投稿した、また協会へ送られた動画を審査、表彰しました。



≡ チャレンジ比良登山&志賀ウォーキング大会 ≡



昭和56年のびわこ国体の際に志賀町で実施された山岳競技をきっかけにその前年、地元を中心に山岳競技を知ってもらおう、山に親しんでいただこうといった趣旨で始まった大会です。平成18年の合併により大津市で引継ぎ40回を重ねました。大会主旨として「比良山系、琵琶湖の雄大な自然の

中で、自らの体力と気力を培い、参加者相互のふれあいを深めるとともに、健康の保持・増進を図り、地域の活性化を目指し、大津市の観光振興を図る。また、平成28年8月11日「山の日」制定記念として、「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」ことを目的とする。」と掲げていました。参加人数の減少などを受けて平成30年に終了したものの、官民が協力して開催し、市内外からの多くの参加者に愛され最後を惜しまれた大会でした。



○ 参加状況 () 内は大津市参加人数

第32回大会 (H22) 曇⇒雨		参加人数	
1コース	比良げんき村～びわ湖バレイ	120	(37)
2コース	栗原～びわ湖バレイ	297	(144)
3コース	比良げんき村周遊コース	103	(52)
計		520	(233)

第33回大会 (H23) 曇		参加人数	
1コース	栗原～びわ湖バレイ	370	(187)
2コース	比良げんき村周遊コース	122	(52)
3コース	近江舞子～和邇 (ウォーキング)	110	(68)
計		602	(307)

第34回大会 (H24) 晴		参加人数	
1コース	栗原～びわ湖バレイ	389	(207)
2コース	比良げんき村周遊コース	105	(52)
3コース	近江舞子～和邇 (ウォーキング)	121	(101)
計		615	(360)

第35回大会 (H25) 雨		参加人数	
1コース	栗原～びわ湖バレイ	127	(59)
2コース	比良げんき村周遊コース	39	(4)
3コース	近江舞子～和邇 (ウォーキング)	16	(6)
4コース	人工登はん壁クライミング体験	26	(12)
計		208	(81)

第36回大会 (H26) 晴		参加人数	
1コース	栗原～びわ湖バレイ	290	(154)
2コース	比良げんき村周遊コース	72	(33)
3コース	近江舞子～和邇 (ウォーキング)	123	(109)
4コース	人工登はん壁クライミング体験	2	(2)
計		487	(298)

第37回大会 (H27) 晴		参加人数	
1コース	栗原～びわ湖バレイ	247	(135)
2コース	比良げんき村周遊コース	103	(60)
3コース	近江舞子～和邇 (ウォーキング)	140	(116)
計		490	(311)

第38回大会 (H28) 晴		参加人数	
1コース	栗原～びわ湖バレイ	210	(111)
2コース	比良げんき村周遊コース	105	(79)
3コース	近江舞子～和邇 (ウォーキング)	102	(86)
計		417	(276)

第39回大会 (H29) 雨		参加人数	
1コース	栗原～びわ湖バレイ	151	(102)
2コース	比良げんき村周遊コース	148	(134)
3コース	近江舞子～和邇 (ウォーキング)	70	(58)
計		369	(294)

第40回大会 (H30) 晴		参加人数	
1コース	栗原～びわ湖バレイ	317	(187)
2コース	比良げんき村周遊コース	87	(55)
3コース	近江舞子～和邇 (ウォーキング)	107	(90)
計		511	(332)

- <主 催> 大津市・京都新聞・滋賀県社会福祉協議会・大津市体育協会
- <主 管> チャレンジ比良登山&志賀ウォーキング大会運営委員会
- <後 援> 滋賀県・滋賀県山岳連盟・志賀観光協会・大津北商工会・(株)京都放送
- <協力・支援> 大津北警察署・大津市消防局北消防署志賀分署・
大津市学区体育団体連絡協議会・大津市スポーツ推進委員協議会
- <協 賛> びわ湖バレイ株式会社・江若交通(株)・西日本旅客鉄道(株)京都支社
(第40回大会時)

滋賀県民体育大会

8月を中心に県下各地で開催され、一般の部は郡市対抗として、郡市対抗以外は公開競技として、中学・高校の部は男女別学校対抗として開催されています。昭和23年の第1回大会から、今年度の新型コロナウイルス感染症の影響により郡市対抗が中止となった昨年第72回大会まで、優勝旗は一貫して大津市にあり続けています。

＜滋賀県スポーツ協会について＞

大正14年 「県下における国民体育を振興し県民の体力向上を図り国民としての資質を鍛錬することに資することを目的として」設立
 昭和23年 第1回滋賀県民体育大会開催
 平成24年 公益財団法人化
 平成30年 滋賀県スポーツ協会へ名称変更
 令和7年(2025年) 創立100周年を迎えられます

回数	年度	開催地	期 日			成績(総合優勝)		
			一般の部	高校の部	中学の部	一般の部	高校の部	中学の部
53	平成12	湖南ブロック	8月5日～6日	8月10日～11日	7月28日～29日	大津市	男子瀬田工高 女子大津商高	男子守山南中 女子日吉中
54	平成13	湖北ブロック	8月4日～5日	8月9日～10日	7月27日～28日	大津市	男子比叡山高 女子大津商高	男子守山南中 女子水口中
55	平成14	湖西ブロック	8月3日～4日	8月8日～9日	7月29日～30日	大津市	男子比叡山高 女子大津商高	男子守山南中 女子中主中
56	平成15	湖東ブロック	8月2日～3日	8月7日～8日	7月29日～30日	大津市	男子膳所高 女子大津商高	男子守山南中 女子守山南中
57	平成16	湖南ブロック	8月7日～8日	8月10日～11日	7月29日～30日	大津市	男子膳所高 女子大津商高	男子彦根東中 女子能登川中
58	平成17	湖北ブロック	8月6日～7日	8月9日～10日	7月28日～29日	大津市	男子膳所高 女子大津商高	男子水口中 女子彦根南中
59	平成18	湖西ブロック	8月5日～6日	8月10日～11日	7月27日～28日	大津市	男子膳所高 女子大津商高	男子彦根南中 女子彦根南中
60	平成19	湖東ブロック	8月4日～5日	8月9日～10日	7月27日～28日	大津市	男子比叡山高 女子大津商高	男子守山南中 女子甲南中
61	平成20	湖南ブロック	8月2日～3日	8月7日～8日	7月28日～29日	大津市	男子草津東高 女子草津東高	男子瀬田北中 女子甲南中
62	平成21	湖北ブロック	8月1日～2日	8月10日～11日	7月27日～28日	大津市	男子草津東高 女子草津東高	男子守山南中 女子守山中
63	平成22	湖西ブロック	7月31日～1日	8月10日～11日	7月28日～29日	大津市	男子膳所高 女子草津東高	男子守山南中 女子粟津中
64	平成23	湖東ブロック	7月30日～31日	8月4日～5日	7月28日～29日	大津市	男子膳所高 女子草津東高	男子守山南中 女子瀬田北中
65	平成24	湖南ブロック	8月4日～5日	8月9日～10日	7月27日～28日	大津市	男子膳所高 女子草津東高	男子瀬田北中 女子瀬田北中
66	平成25	湖北ブロック	8月3日～4日	8月8日～9日	7月26日～27日	大津市	男子草津東高 女子草津東高	男子瀬田北中 女子守山南中
67	平成26	湖西ブロック	8月2日～3日	8月7日～8日	7月28日～29日	大津市	男子草津東高 女子大津商高	男子瀬田北中 女子日吉中
68	平成27	湖東ブロック	8月1日～2日	8月6日～7日	7月25日～26日	大津市	男子草津東高 女子大津商高	男子彦根南中 女子栗東西中
69	平成28	湖南ブロック	8月6日～7日	8月4日～5日	7月28日～29日	大津市	男子草津東高 女子草津東高	男子彦根南中 女子粟津中
70	平成29	湖北ブロック	8月5日～6日	8月9日～10日	7月27日～28日	大津市	男子草津東高 女子草津東高	男子守山中 女子瀬田北中
71	平成30	湖西ブロック	8月4日～5日	8月9日～10日	7月27日～28日	大津市	男子比叡山高 女子草津東高	男子守山南中 女子瀬田北中
72	令和元	湖東ブロック	8月3日～4日	8月8日～9日	7月26日～27日	大津市	男子比叡山高 女子草津東高	男子瀬田北中 女子日吉中
73	令和2	湖南ブロック	8月1日～2日	8月6日～7日	7月28日～29日	郡市の部として は非開催	総合成績として 順位はつけない	中 止

※第73回(令和2年度)は新型コロナウイルス感染症の影響により、一般の部・高校の部は9月以降に一部開催、中学校の部は中止。

大津市民体育大会



本大会は日頃各地域で展開されている市民スポーツ行事を集大成すると共に、多数の市民参加の中、スポーツの生活化に向けた機会として確立し、もって生涯スポーツと地域コミュニティの活性化に寄与することを目指し、第1回大会（昭和41年）が14学区の参加のもと始まりました。毎年概ね9月の第一日曜日に開催されてきています。現在に至るまで、びわこ国体（昭和56年）、全国スポレク大会（平成20年）、また雨天などで中止となった年もあり、新型コロナウイルス感染症の影響による令和2年度の中止を加え、全部中止が10回ありながら、広く市民が参加できる大会として55回重ねられてきました。



第24回大会（平成元年）には1部2部（人口割）のブロック制の導入、陸上・玉入れを大運動会としてまとめるなど大改革があり、一般公開競技についても大きく種目が増えて、現在に続く開催の形の基盤となっています。

また平成18年には大津市と志賀町が合併され、第41回大会から4学区の参加が増えました。その後ながらも「大運動会の部」と「球技の部」とで学区対抗大会が続けられ、大運動会の部においては競技性の強い種目での出場が困難な学区があることなどを考慮し種目の変更をする、ブロック制を人口割にする、また抽選割にする、など時々に応じた工夫がされてきました。



第53回大会（平成30年）開催前に、「大運動会を実施する・しない」の協議が実行委員会で行われて廃止の結論となり、学区対抗の部は球技の部（卓球・バドミントン・ソフトボール・バレーボール男女）のみとなりました。

なお、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、市民体育大会だけではなく学区対抗大会の中止が続き、大津市民体育大会総合表彰と学区対抗競技年間総合成績表彰が共に取りやめとなっています。今後、共にスポーツを謳歌する為に新たな取り組みや対応、協力が求められてきます。



○市民体育大会歴代成績一覧（平成12年～）

種目		順位	第35回	第36回	第37回	第38回	第39回	第40回	第41回	第42回	第43回	第44回	第45回	
総合の部	1部(A)	1位	晴嵐	田上	堅田	唐崎	田上	堅田	長等	雨天中止	全国スポレク祭開催のため中止	長等	長等	
		2位	田上	富士見	晴嵐	長等	唐崎		長等			仰木の里	南郷	仰木の里
		3位	真野	唐崎	仰木の里	堅田	堅田		南郷			滋賀	唐崎	坂本
	2部(B)	1位	堅田	長等	唐崎	藤尾	南郷		真野			真野	和邇	和邇
		2位	唐崎	堅田	田上	真野北	日吉台		富士見			和邇	日吉台	藤尾
		3位	滋賀	真野	南郷	瀬田東	長等		日吉台			藤尾	真野	木戸
大運動会	1部(A)	1位	長等	富士見	仰木の里	南郷	田上	長等	長等	雨天中止		南郷	長等	
		2位	富士見	唐崎	瀬田東	田上	坂本	堅田	富士見			長等	坂本	
		3位	田上	仰木の里	富士見	唐崎	大石	南郷	滋賀			唐崎	南郷	
	2部(B)	1位	堅田	長等	坂本	坂本	南郷	大石	木戸			和邇	木戸	
		2位	唐崎	晴嵐	南郷	大石	長等	伊香立	伊香立			伊香立	和邇	
		3位	坂本	坂本	山中比叡平	藤尾	仰木の里	仰木	仰木			日吉台	小野	
卓球	1部(A)	1位	下阪本	唐崎	堅田	下阪本	坂本	堅田	唐崎	堅田	全国スポレク祭開催のため中止	下阪本	堅田	
	2部(B)	1位	晴嵐	富士見	晴嵐	唐崎	唐崎	唐崎	滋賀	下阪本		下阪本	唐崎	南郷
バドミントン	1部(A)	1位	唐崎	下阪本	下阪本	瀬田	日吉台	日吉台	和邇	和邇		木戸	和邇	
	2部(B)	1位	滋賀	瀬田	唐崎	瀬田東	下阪本	下阪本	下阪本	青山		和邇	青山	
ソフトボール	1部(A)	1位	晴嵐	唐崎	真野	真野	堅田	堅田	晴嵐	堅田		晴嵐	仰木の里	
	2部(B)	1位	田上	藤尾	堅田	膳所	唐崎	滋賀	石山	石山		石山	晴嵐	
男子バレー	1部(A)	1位	堅田	真野	唐崎	真野北	藤尾	真野	真野	真野		真野	真野北	
	2部(B)	1位	唐崎	長等	石山	藤尾	平野	藤尾	下阪本	青山		日吉台	藤尾	
女子バレー	1部(A)	1位	長等	田上	真野	仰木の里	唐崎	堅田	仰木の里	雨天中止		仰木の里	坂本	
	2部(B)	1位	田上	瀬田北	堅田	長等	田上	真野	真野			真野	田上	長等
男子バレー	1部(A)	1位	田上	田上	堅田	仰木の里	富士見	長等	長等	堅田		長等	堅田	
	2部(B)	1位	瀬田	瀬田北	平野	唐崎	瀬田	瀬田	平野	長等		平野	瀬田南	
女子バレー	1部(A)	1位	堅田	真野	田上	瀬田	伊香立	伊香立	伊香立	真野	伊香立	真野		
	2部(B)	1位	瀬田南	瀬田	瀬田	瀬田東	南郷	真野	真野	藤尾	真野	日吉台		
女子バレー	1部(A)	1位	真野	仰木	真野北	堅田	唐崎	長等	長等	石山	仰木の里	長等		
	2部(B)	1位	晴嵐	田上	晴嵐	仰木	田上	晴嵐	瀬田北	瀬田	長等	晴嵐		
男子バレー	1部(A)	1位	伊香立	長等	逢坂	真野北	晴嵐	逢坂	日吉台	仰木	伊香立	真野		
	2部(B)	1位	滋賀	晴嵐	瀬田	富士見	瀬田東	富士見	大石	大石	仰木	仰木		

種目	順位	第46回	第47回	第48回	第49回	第50回	第51回	第52回	第53回	第54回	第55回				
総合の部	1部(A)	1位	/	瀬田東	晴 嵐	仰木の里	瀬田東	仰木の里	瀬田東	晴 嵐	/				
		2位		長 等	仰木の里	仰木の里	唐 崎	瀬田東 (同点1位)	瀬 田						
		3位		仰木の里	堅 田	堅 田	長 等	長 等	唐 崎	瀬田北					
	2部(B)	1位		真 野	藤 尾	藤 尾	和 邇	和 邇	真 野	真 野					
		2位		和 邇	伊香立	和 邇	伊香立	真 野	大 石	和 邇		小 野			
		3位		藤 尾	伊香立	真 野	真 野	大 石	藤 尾	藤 尾					
大運動会	1部(A)	1位		台風のため中止	長 等	晴 嵐	仰木の里	瀬田東	長 等	瀬田東		/	/		
		2位			晴 嵐	長 等								長 等	瀬田東
		3位			瀬田東	南 郷								石 山	瀬田北
	2部(B)	1位	山中比叡平		伊香立	大 石	和 邇	大 石	大運動会	和 邇	大 石				
		2位	日吉台		藤 尾	富士見	伊香立	和 邇							
		3位	大 石		大 石	和 邇	山中比叡平	真 野							
卓球	1部(A)	1位	仰木の里		台風のため中止	晴 嵐	仰木の里	仰木の里	唐 崎	下阪本	仰木の里				
	2部(B)	1位	瀬田東			仰木の里	唐 崎	下阪本	下阪本	唐 崎	晴 嵐				
バドミントン	1部(A)	1位	仰木の里			坂 本	坂 本	瀬田東	瀬田北	晴 嵐	下阪本			唐 崎	
	2部(B)	1位	坂 本			真 野	真 野	坂 本	長 等	堅 田	真 野			日吉台	
ソフトボール	1部(A)	1位	坂 本			長 等	平 野	瀬田東	青 山	長 等	真 野			富士見	
	2部(B)	1位	下阪本			滋 賀	富士見	平 野	真 野	滋 賀	南 郷			瀬田東	
男子バレー	1部(A)	1位	仰木の里	台風のため中止		晴 嵐	瀬田東	堅 田	長 等	滋 賀	長 等				
	2部(B)	1位	瀬田南			瀬 田	瀬 田	瀬田南	堅 田	瀬田南	瀬田南				
女子バレー	1部(A)	1位	小 野			唐 崎	瀬田南	滋 賀	瀬田南	瀬田南	瀬 田	瀬 田			
	2部(B)	1位	真 野			瀬田南	滋 賀	瀬 田	瀬 田	堅 田	晴 嵐	晴 嵐			
女子バレー	1部(A)	1位	仰木の里			唐 崎	堅 田	小 野	仰 木	仰 木	真 野	仰木の里			
	2部(B)	1位	長 等			仰木の里	仰 木	堅 田	南 郷	南 郷	瀬田東	瀬田北			
女子バレー	1部(A)	1位	和 邇		南 郷	南 郷	南 郷	石 山	石 山	瀬 田	瀬 田				
	2部(B)	1位	仰 木		仰 木	真 野	石 山	仰木の里	木 戸	真 野	真 野				

新型コロナウイルス感染症の影響により中止

大津市陸上競技協会

会長 / 川幡 善勝

▶▶ はじめに

当協会は昭和40年3月に発足し、長い歴史を重ねてきた協会です。1962年(昭和37年)5月から本市で開催されている「びわこ毎日マラソン大会」や「大津市民駅伝」等の運営協力を始め各種市民大会および選手育成事業を実施しています。また、県民体育大会や県民駅伝において優勝する結果を出しています。

現在の組織

会 長：川幡善勝

副 会 長：森野邦彦、北川義治

副理事長：萩尾正博

事務局長：初田久典

▶▶ 取り組み

市民スポーツ活動の機会提供として、市民に対して陸上競技大会や陸上競技アスリート育成事業、陸上競技アスリート強化事業と、小学生対象として陸上競技大会(小学生スポーツクラブ育成事業)を実施しています。

令和2年はコロナの感染により活動が出来ない状態でしたが、この9年間は、皇子山陸上競技場に集う多年代の競技者、アスリートの競技能力向上や、陸上競技愛好者の育成に取り組み、陸上競技の普及・発展に努めています。

小学生スポーツクラブの育成は市内の小学生高学年を対象にしたメンバー制のスポーツクラブです。毎週土曜日の午前中、小学生の児童に必要の運動能力向上を目指したメニューで年間50日程度活動しています。また、水曜日はクラブ員の内から特別班を活動させています。



▶▶ 現 状

陸上競技は一大会の開催で500人~1,000人の市民がスポーツ活動に親しむことが出来るスポーツ種目でありませ

陸上競技愛好者は社会人、学生、高校生、中学生、小学生と広い年齢層に分布しています。この分布層の中で近年社会人の愛好者が減少しています。その原因は各事業所の雇用形態の変化や従業員の福利厚生事業などの変化が考えられます。

特に陸上競技の審判員は社会人愛好者に依存していますが、これらの愛好者を増やす方策が必要であります。

ここで小学生クラブ(びわこランナーズ)の出身者が令和2年日本陸上競技選手権において女子100m決勝に2人(安達、壱岐)残っていました。

▶▶ 今後の方針

小・中・高の児童生徒学生達の競技人口を増やし、皇子山陸上競技場を合同で使用し各年齢層の技術指導や連携を取り、競技人口を増やすことが必要です。

近年中学校部活動のあり方が少し変化して、毎日練習する状態ではありません。そこで協会がまとめて活動できる場を設ける必要が生じると思います。(中高生のクラブ結成)

社会人愛好者の活動方策、明日を担うアスリート育成を目指して、小学生高学年層を対象として小学生のスポーツクラブの育成を推進します。ここ数年間小学生のアスリートが県代表として中央大会に参加することが多くあり、この現状を続けることが必要であります。また指導者の確保も大切なことでもあります。

一般社団法人 大津市水泳協会

会長 / 陌間 恵子

▶▶ はじめに

2018年（平成30年）7月に85年の歴史を有する大津水泳協회를法人化し、団体名を一般社団法人大津市水泳協会に改称しました。2019年（平成31年）4月に本法人設立総会を開催し、代表理事に山西徹、理事に陌間恵子、町田登、渋谷まち子、監事に西出昇各氏を選出とともに、事務局を皇子が丘公園プール2階から浜大津明日都の大津市市民活動センター内のミニオフィスに移設し法人としての体制を整え新たなスタートを切りました。

法人として重くなった社会的責任と役割を自覚しつつ、市内水泳の普及と発達を図り、市民の健康増進に寄与するため、組織運営並びに事業展開に鋭意努めているところです。

現役員は次の通りです。（代表理事・会長）陌間恵子、（理事・副会長）渋谷まち子、（理事・理事長）町田登、（理事）加藤美孝、（監事）青谷大地。

▶▶ 取り組み

旧協会時代には皇子が丘公園プールで通年水泳教室、夏季少年・少女水泳教室、中高生対象の冬季強化練習会、並びに春と秋に競技大会を開催していました。ところが2019年から皇子が丘公園プールの管理運営が民間業者に委託され、事業を縮小しなければならなくなりました。

このため同年から当法人の事業は夏季少年・少女水泳教室及び春秋の競技大会だけとなり、通年水泳教室、冬季強化練習会、指導者養成ができなくなりました。

施設面で厳しくなった中、どの様にすれば実施できなくなった事業をカバーできるか、またこれらの事業以外に市民のスポーツ振興に寄与できる新たな事業がないか模索しているところです。

しかし、年間通じてプールが使用できなくなったことは大きな痛手であり、水泳を愛する市民の要望に応える方策はなかなか見いだせず苦慮しています。



▶▶ 現状

スイミングスクールの増加、生涯スポーツとしてマスターズ水泳に親しむ水泳愛好者の増加により水泳人口は増えています。反面、競技大会は競技役員・運営役員の高齢化、新規加入者の減少により、役員確保が厳しくなっています。

法人化してから春季競技大会をオープン化し、市内だけでなく市外の者も参加できることにしました。結果、出場者が増加し活気ある大会となりましたが、今後も同方式による大会開催が可能か心配しています。

同様に、夏季水泳教室も指導者確保が難しくなっており、これまで通りの募集定員を維持できるか危惧しています。

このような状況ですが、関係者の熱意により実施内容を変えずに大会並びに水泳教室を開催し、無事終了することができています。これからも関係者の協力を得て同じ方針で取り組んで参るつもりです。

▶▶ 今後の方針

法人化に伴い会計・一般事務を扱う総務部会、広報・事業を企画する企画部会、水泳教室を開催し運営する事業部会、競技大会開催・選手派遣を担当する競泳部会の四部会を設置し、それぞれ部会長を置き、各部会が各分担を責任をもって執行するようにしました。これからの活動に期待しており、この機能をより推進していきたいと考えています。

現在、当法人は選手育成・選手強化が直接できない状況にあります。これらを担っていただいている中高部活動やスイミングクラブに対して支援できる方法を考えなければと思っています。

また、これからは競技大会の安全・公正・円滑な運営並びに安全で楽しく受講できる水泳教室を目指し、できれば当法人主催で競技審判員及び水泳指導員養成講習会を開催することにより、人材開発・人材養成に努め、水泳の普及・発展を図り市内スポーツの振興に繋げたいです。

大津市軟式野球連盟

会長 / 馬場 洋

▶▶ はじめに

昭和22年2月滋賀県軟式野球連盟大津支部として大津市軟式野球連盟を設立。

初代会長「馬場 甚一」会長より7代「馬場 洋」会長までの73年間軟式野球界のリーダーとして連盟活動を行っている。

会 長：馬場 洋
副 会 長：保坂 幸則、横井 敏幸、服部 弘一
理 事 長：中川 辰次
副理事長：松田 修、川合 信雄、北 俊雄
小泉 憲次
事務局長：飛田 一雄

▶▶ 取り組み

毎年、一般社会人、少年（中学性）、学童（小学生）の各登録チームにより、全日本軟式野球連盟が開催する全国大会の予選大会、及びその他大津市軟式野球連盟の主催の各種大会を開催しています。

特に、「ジュニア育成」を構想の重要事項として捉え、次世代を担う青少年の体力の向上と心身の健康保持増進と、他者を尊重する精神力向上に、当連盟として寄与できるように軟式野球連盟普及促進に取り組んでいます。

▶▶ 現 状

近年、我が国では、進行する企業経営の合理化の波を受け企業スポーツの衰退に象徴されるように、企業チームの活動が皆無であり、企業チームの登録が激減となっており、スポーツ施策の主体を地域社会に置き、総合型地域スポーツへ移行しているのが現状であります。



このような状況を踏まえ、当連盟として少年、学童層について力を入れて事業推進を行っております。

- 関西みらい銀行エコカップ理事長杯争奪学童軟式大会
- J Aリーグ大津杯学童軟式野球大会
- 大津市学童軟式野球選手権大会

以上、3大会を当連盟の学童大会のメインイベント大会として、学童に夢と希望を与え、併せて正しく、楽しくできる野球の普及、発展に努めています。

▶▶ 今後の方針

野球人気が高く、チーム内に選手が多い時代は、大量の選手をふるいにかけて、いわゆる「使う時代」であり、それぞれの層での勝利が優先されて、選手の将来を考えた育成がなされていませんでした。

少子高齢化と野球人気の低下、選手減少時代の現在、「育てる時代」になったという自覚をもつことが必要であり、選手の成長を妨げず、一人ひとりの選手を理解し、対話（心の会話ができる）を大切にした支援が求められる時代の現状を踏まえ、選手、連盟がお互いに信頼し合える関係、尊重し合える関係を目指し連盟活動に努めて行きます。



大津市弓道協会

会長 / 楠井 康文

▶▶ はじめに

本協会は、戦前に弓道範士の堀田義次郎・第13代大津市長の時代に発足した「大津弓の会」を起源としている。戦後、軍国思想の温床として他の武道と共に弓道も禁止されたが、昭和26年に解除され弓道普及の取り組みが再開され、同会も再スタートした。

昭和56年に開催された琵琶湖国体に向けて、昭和49年に数十名の会員が集まり「大津市弓道協会」として設立された。

現在の組織は、会長1名、副会長6名、理事長1名、副理事長1名、総務部長1名、総務副部長3名、事業部長1名、事業副部長2名、育成部長1名、育成副部長1名、会計部長1名、会計副部長1名、理事18名、監事2名、参与2名の役員で運営している。

90歳代から中学生まで二百数十名の会員が、弓道の要諦である至誠と礼節を重んじ、皇子が丘弓道場で日々修練に励んでいる。

▶▶ 取り組み

大津市民体育大会に併せて「大津市民弓道選手権大会」を開催している。会員は、1年間の修練の成果を発揮することを目標に大会に臨んでいる。滋賀県弓道連盟の主管事業である「湖都大津弓道大会」は、県内各地から弓友が集い、即興でチーム編成をして競い合うなど、趣向を凝らした大会として毎年多くの参加者を集めている。

隔年開催の「大津市民弓道教室」は、毎回参加希望が多数あり、弓道普及への大きな礎としてスポーツ性と伝統に基づいた礼節、作法などの魅力を体験してもらう良い機会となっている。教室運営には、会員が協力し参加者が安全に取り組みめるよう努力している。

令和2年から会員の射技、競技力向上と親睦を図るための競技会「月例射会」を毎月開催している。会員は日ごろの稽古の成果を発揮する場としてや競技経験を積むためにも積極的に参加している。



▶▶ 現状

平成26年には、協会ホームページを開設し会員への連絡や情報発信に努めている。令和2年の新型コロナウイルス感染拡大時には、皇子が丘弓道場の利用再開後に道場利用ガイドラインを作成し、会員以外の利用者にも順守を呼びかけて感染予防に取り組んだ。

令和2年より新たに会員が弓道を通じて指導者と共に成長していく事を目標に「育成部」を設立した。弓道教室を修了した会員を中心に「初心者対象講習会」を毎週土曜日に開催している。

協会の事業としては、全日本弓道連盟からの指導に基づき伝達講習会などを企画したり、弓具の講習会も開催したりするなどして継続的に指導している。

会員の中からは、「全日本弓道選手権大会（天皇杯、皇后杯）」「全日本遠の選手権大会」「国民体育大会」「ねんりんピック」など、数多くの県代表選手を送り出し、全国大会でも好成績を収めている。

▶▶ 今後の方針

弓道に取り組む考え方は、「道」として弓の本質を求める会員や競技として「技」の探求に力点を置く会員、あるいは健康増進や生きがい追及などの生涯スポーツとして取り組む会員など様々である。道、技、健康などどれも弓道が持つ大切な意味、要素であり尊重していかなければならない。

弓道は、精神的修業を重んじていく素晴らしい日本の伝統武道であり、弓道を通じて得られる至誠や礼節を日常生活に生かし、よりよい社会人として生活できるように修練していきたい。

協会では、「弓道を楽しむ」を第一の目標として活動している。立命館大学弓道サークルも加盟し老若男女の弓友が縁あって皇子が丘弓道場で稽古に取り組んでいる。会員一人一人の信頼の「輪」がより一層大きくなり、心の「和」が広く育まれるよう活動を続けていきたい。

大津市スキー協会

会長 / 山森 和彦

▶▶ はじめに

大津市スキー協会は昭和10年11月に滋賀県のスキー界の草分けであった先輩諸氏の熱意と努力により誕生してから85周年を迎える事となりました。

発足当時は「大津市スキー連盟」と称し600名程の会員を擁し活動していましたが、当時の大津市内のスキークラブが集い、昭和23年に「大津スキー協会」と改称し現在の協会の礎が築かれました。

その後、平成18年3月の大津市と志賀町の合併を期に「大津市スキー協会」となり現在に至っています。

現在は、総務部、財務部、事業部、教育部及び競技部を組織し活動を行っています。

会 長：山森 和彦
副会長：山本 伸夫
乗田 正一
理事長：高山 英文

▶▶ 取り組み

- 公認スキー・スノーボードバッジテスト（公益財団法人全日本スキー連盟が定める技能テスト）

びわ湖バレイスキー場でシーズン中2回の開催を行っています。

- 大津市民スキー・スノーボード大会の開催を主管

出場選手が100名を越える大会で、びわ湖バレイ、滋賀県スキー連盟の協力により市民大会でありながら本格的な競技会を行っています。

- 大津市スポーツ少年団スキー体験教室への指導員派遣

大津市内のスポーツ少年団の交流・交歓の場としてスキースポーツの楽しさを体験していただいています。

- 滋賀県民体育大会（スキー・クロスカントリー）への選手派遣

毎回、団体、個人とも好成績をあげています。



▶▶ 現 状

現在、大津市スキー協会には21のクラブが所属し各クラブの活動を行いながら、大津市スキー協会の事業に参画していますが、近年スキースポーツを通じてクラブ活動を行うスキーヤーの減少、クラブ内役員の高齢化等苦しい状況であることから協会の運営についても同様に厳しい状況となっています。

しかし、公認スキー・スノーボードバッジテストや大津市民スキー・スノーボード大会の事業を継続していく中で、新たな取り組みや工夫を行いながら、少しずつではありますが改革、発展しています。

また、各事業を実施しているびわ湖バレイは、市内にある全国的にも認知度が高いスキー場であることから、事業にご協力をいただいております。大津市のスキースポーツの発信拠点となっています。

▶▶ 今後の方針

近年の雪不足や少子高齢化、趣味の多様化によるスキー人口の減少等スキー界を取り巻く環境は厳しいものがあります。

更に昨今の新型コロナウイルスの感染拡大により、スポーツ活動や競技会等大会開催方法の在り方が大きく変わり、従前の形を変えなければいけません。

大津市スキー協会ではこのような状況下においても、スキースポーツが多くの人々に自然との触れ合うことの素晴らしさと生涯スポーツであることを伝え普及促進活動を継続していきます。

また、スキー・スノーボードを親しむ子供たちにはスキー競技の楽しさを体験していただき、将来は選手として国民スポーツ大会やオリンピックを目指すための応援など幅広い活動に取り組んでいきます。

大津市サッカー協会

会長 / 世古 正

▶▶ はじめに

大津市サッカー協会は、滋賀県サッカー協会の設立（昭和24年4月）と時期を同じくして設立され、以来令和2年をもって71年の歴史を持つに至っている。現会長には世古 正氏が平成20年に就任して現在に至っている。令和元年度の組織は、以下の通りである。（令和2年度はコロナ禍のため全事業休止中）

会 長：世古 正
副 会 長：山本 進一、井上 裕治
理 事 長：中島 春樹
副理事長：金木 博之、木村 徹也
事務局長：海老池 浩司
会 計：安本 貴生
理 事：13名

この10年間は協会主催の各事業について、毎月開催の理事会において協議を行い、運営、実施して円滑に事業の展開が図られている。

▶▶ 取り組み

大津市サッカー協会の事業としては、年間を通した大津市サッカーリーグの開催（1部10チーム、2部12チーム）、シニアリーグの開催（35歳以上、18チーム参加）、カップ戦であるクラブ選手権の開催等の事業を実施している。また、キッズ年代（幼児、小学生対象）を対象とした普及、育成事業としてキッズフェスティバルの開催（年間3回実施）及びキッズエンジョイサッカー（平成24年度から開始、年間2回実施）の開催を行っている。

また、主管事業として大津市スポーツ協会主催の学区対抗サッカー大会の運営に務めている。滋賀県サッカー協会の郡市部会にも加盟し、他の郡市サッカー協会との連携、交流を図り、郡市対抗クラブ選手権、県民体育大会に代表チームが参加し、市内だけでなく、県レベルでの連携、交流が推進されている。



▶▶ 現 状

大津市サッカー協会はここ10数年に渡り、組織的に充実を図り、規律ある組織と運営を図るよう努めてきている。規律ある組織として機能するため、市サッカーリーグの運営に関しては、協会登録者証を発行し、ゲーム開始前のメンバー確認を行うことも定着している。

さらに円滑な運営を進めていくために、月例の理事会の開催をはじめ、加盟チーム全体を対象にした総会、評議員会の開催により、会員の意思疎通、相互理解を推進し、組織としての円滑な運営に留意している。

また、広報・普及活動の一環として大津市サッカー協会のホームページを立ち上げていて、情報の発信、公開にも前進した状況が示せて来ている。

▶▶ 今後の方針

スポーツに親しみ、日常の活動として取り組み、心身の健康の維持、増進にスポーツ活動は必要なものととらえ、他の競技スポーツ団体と共に大津市サッカー協会も多くの各年代の市民の皆さんの健康の維持、増進に寄与できるよう、また活動を通して多くの人の交流や絆が深まることを願い活動を推進していきたいと願っています。滋賀国体が2025年に1年延期で開催されることとなり、大津市でもサッカー競技の女子の部が市内3会場で実施予定となっています。市内開催という環境のもと、よりサッカー競技の普及、育成をめざすと共に、現在継続して実施している協会主催の各事業を継続、発展させていくことが基本であるとしてとらえています。2020年度は、残念ながらコロナ禍の状況で全事業休止という状況になりましたが、次年度以降、新型コロナウイルスが存在するという前提で各事業の実施を模索していく必要があると認識しています。

大津市バレーボール協会

会長 / 團 初太郎

▶▶ はじめに

大津市バレーボール協会は昭和23年(1948年)に大津市に散在していたバレーボール愛好者が相より協会の発足を発議し立ち上げました。平成30年(2018年)には創設70周年を迎え、前市長越氏にご臨席いただき、また、多くのご来賓にもご出席いただき盛大に記念式典を実施させていただきました。

大津市バレーボール協会としては傘下団体としてクラブ部、ママさん部、高校部、中学部、小学部を擁して、それぞれ活発に活動を展開しています。

【組織】

会 長：團 初太郎
副 会 長：松村 実、松田 滋、
東條 祥子、小澤 義孝
理 事 長：糸永 輝生
副理事長：柴田智恵美、田中 克典

▶▶ 取り組み

- 協会傘下の各部は競技力向上、健康増進を目指し特色のある独自の大会を実施。クラブ部は高齢者も参加出来るソフトバレーボール、男女で楽しめる混合バレーボール大会など実施し、ママさん部は春・秋の大会と共に50歳以上が参加出来る大会(岡田杯)を実施。中学部の年末・年始に実施するウィンターカップ(大辻杯)では多くの他府県チームも参加して実施。小学部は大津ライオンズクラブと企画したライオンズ杯を実施し、バレーボール以外のスポ少野球部、サッカー部の子供たちも大会に参加して楽しんでいる。
- 指導者講習会、小中バレーボール教室、小学生低学年初心者向け教室などを実施。バレーボール強化・普及に向けてカテゴリーを超えた活動を実施している。
- 大津市姉妹都市である韓国・亀尾市とのママさんでの国際交流を実施し、国際感覚、幅広い視野を広めていただけるよう取り組んでいる。



日 韓 交 流



70周年記念

▶▶ 現 状

全国のみならず、滋賀県、大津市においてもバレーボール競技人口が減少傾向にあり、なかなか歯止めが効かない状況である。その原因はスポーツの多様化、少子化の影響等が考えられ、いろいろと対策を取っているが効果として表れていないのが現状である。

クラブ部等各カテゴリーでチームの減少、登録人数の減少が続いているなか、国民スポーツ大会指定校として比叡山高校男子、滋賀短付属高校女子の頑張りがあり、中学部も男女共に県内の大会で上位に入るなど素晴らしい成績を取っている。ママさん部も県内の予選を勝ち抜き全国大会に出場するなどの活躍が見られる。

大津市姉妹都市である韓国・亀尾市とのバレーボール交流も順調にスタートしたが、その後起こった日本と韓国との政情不安定の影響が出て国際交流が中断している。

▶▶ 今後の方針

バレーボールを通じて健康で明るい生活を送っていただくのを目的に、減少傾向が続くバレーボール競技人口向上、競技力向上に向けて取り組んでいきたい。

普及に向けては高齢者が楽しめるソフトバレーボールのより活性化を目指し、小さい時からバレーボールに興味を持ってもらえるような小学生低学年のバレーボール教室の充実を進める。

強化に向けて大津に本拠地として活躍している日本のトップチーム、東レアローズとタイアップしたバレーボール教室、小中学生選手の育成を進める。大津市から2025年国民スポーツ大会選手育成等に向けての幅広い強化活動を実施する。

大津市姉妹都市の韓国・亀尾市との国際交流の継続を実施し、ママさんでスタートした交流を小学、中学、高校と年代を超えた幅広い交流を行い、将来を担う若い人達に国際感覚を身につけて貰う。

大津市卓球協会

会長 / 長谷川 茂

▶▶ はじめに

1947年に再発足した大津市卓球協会（以下協会）は、会長を石田益之助（以下敬称略）、松井秀次郎、徳江亮宏、岸本久一、三宅純夫、三品光三、三宅忠義、長谷川茂と受け継ぎ、理事長を井上康作、戸知谷三郎、小島百司、森島嘉幸、川口実、中村忠良、三十木啓文、渡辺澄夫、長谷川茂、岡見要、松田佳子、岡見要（再）と引き継いできた。2020年度は会長：長谷川茂、副会長：松代弘、古澤明、理事長：岡見要、副理事長：松田佳子、森部修、佐々木真美子、平善彦、そして会計の久保敦子を含む16名の常任理事と28名の理事から成る組織で運営している。

全国大会や県大会の予選を主な事業としてスタートした協会だが、渡辺理事長の時から、年6回の大会を主催できるようになった。そして現在では大津市中体連卓球専門部と共催で7回の大会を実施している。

▶▶ 取り組み

協会が最も力を入れて取り組んできたのは独自の主催大会で、春季・市民選手権・夏季・秋季・クラス別・冬季・総合団体（中学）の7大会である。

市中体連卓球専門部の協力もあり、小中学生から高齢者まで幅広い参加を得ている。大津市民に限定した大会も設けている。

競技種目は小・中・高・一般のカテゴリーに分け、クラス別の個人戦やダブルスだけの団体、2人団体などを行うなど、参加者が楽しめる工夫をしてきた。

年間7回の大会を主催する以外に、大津市民体育大会卓球の部の運営を第1回大会以来担ってきた。県民体育大会には毎年選手を派遣している。2010年以降男子5回、女子1回、総合では4回の優勝を飾っている。

一方、市内では卓球に取り組む人が増え、新たなサークルが設立されている。日常的に卓球に取り組みたい人にサークルの紹介するなど卓球の楽しさをより多くの人に感じてもらえるよう支援している。



▶▶ 現状

協会が独自に取り組んでいる7大会には毎回500人から800人の参加があり、中学生の参加者も増加傾向で400名を超える状況が定着してきた。

ただ、新型コロナウイルス対応で、2019年度の冬季大会と総合団体卓球大会（中学）、2020年度の春季大会、市民選手権、夏季大会、秋季大会は中止することになった。クラス別大会が2020年度初の大会開催になり、従来オープン参加で実施していたが、今回は市内在住在学者のみの大会にした。479名の参加者があった。2月から8月まで各地の試合が中止になる中で卓球愛好家が試合の開催を待ち望んでいたことがうかがえる。

卓球がマスクミで取り上げられる機会が多くなり、生涯スポーツとして卓球をやってみようという人が増えている。市内でも新たにサークルを立ち上げ、活動を始めている方も増加している。また、卓球教室等で卓球を始めた方が、恒常的に練習できるサークルへの参加を希望されることも増えてきた。

▶▶ 今後の方針

卓球愛好家が増加する中、大会への参加を希望される方も多くなってきた。それに応えるためにも、現在行っている7つの大会を充実させたい。

一方、参加者の増加によって、競技運営が難しくなり、朝から始まった競技が19時になっても終わらないケースも出てきた。そのためダブルス・シングルス種目を同じ日に実施することができず、競技種目を減らす大会もあった。今後、市内在住在学者のみの大会を増やしたり、シニア世代のために平日大会を企画していくことも考えられる。

卓球のサークルが増える中、練習場所の確保が難しくなっている状況が見られる。市内の公営施設は卓球の練習をするサークルで埋まっているところも多い。

今後、ここへ行けばいつでも卓球ができるという拠点となるような場所を是非つくっていききたい。

大津市ヨット協会

会長 / 山下 記誉

▶▶ はじめに

大津市ヨット協会は、昭和28年に当時の滋賀県ヨット連盟（現在のNPO法人滋賀県セーリング連盟）の会員のうち、大津市在住、在勤、在学の者を会員として発足し、会長 上田健治郎を代表として、大津市体育協会（現在の大津市スポーツ協会）に加盟しました。

現在は、5代目の山下記誉会長を中心に、事務局を大津市役所ヨット部が担い、NPO法人滋賀県セーリング連盟（以下「滋賀県セーリング連盟」という。）加盟団体として、今日まで、湖都大津市のセーリングスポーツの普及と発展に努めています。

▶▶ 取り組み

大津市ヨット協会の取り組みとしては、毎年、滋賀県セーリング連盟の主管により、大津市柳ヶ崎の滋賀県立柳ヶ崎ヨットハーバー（以下「柳ヶ崎ヨットハーバー」という。）で行われている滋賀県民体育大会セーリング競技会におけるレース運営の事前準備から当日の競技運営補助等、また、当大会への選手派遣を行っています。

また、会員がオリンピックや世界選手権、国民スポーツ大会等の全国大会へ出場する場合に支援を行っています。



▶▶ 現状

大津市ヨット協会の活動拠点である柳ヶ崎ヨットハーバーは、これまでオリンピックなど世界で活躍する選手を数多く輩出しています。令和元年度の第60回全国高等学校ヨット選手権大会では、膳所高校の須田英実子選手が女子レーザーラジアル級で優勝を果たしました。しかし、その柳ヶ崎ヨットハーバーは、平成21年度に滋賀県が行政経営改革委員会の提言を受け、財政難を理由に民間への移管、売却計画を発表したことにより一時、存続が危ぶまれる事態に直面しました。これに対し、滋賀県セーリング連盟は存続を求める要望書を提出、また、琵琶湖で活動する24団体・150艇・300人によるセーリングパレード（湖上デモ）が行われました。これらの活動も功を奏し柳ヶ崎ヨットハーバーは県立の施設として存続することとなり、現在も大津市のセーリングスポーツの拠点となっています。

▶▶ 今後の方針

琵琶湖を擁する滋賀県にあって、大津市においてマリンスポーツに親しんでいる方はまだまだ少ないのが現状です。今後は、1人でも多くの人にセーリングスポーツを身近に親しんでいただけるような取り組みを進め、市民レベルの愛好者を増やし、底辺の拡大に努めます。

また、2025年に滋賀県で開催される第79回国民スポーツ大会のセーリング競技は、大津市柳ヶ崎特設セーリング会場で開催されます。全国のセーラーを迎え、当大会が成功裏に終わるよう大津市ヨット協会としても尽力します。

今後も生涯スポーツとして安心・安全にセーリング競技を楽しめるよう、救助体制等の安全対策を図りながら活動を進めていきます。



大津市体操協会

会長 / 安東 克彦

▶▶ はじめに

昭和25年、大津市体育協会発足時から加盟し、体操競技の普及振興に努め、選手育成においてもジュニアクラブの設立を全国に先駆けて行うなど、国内の体操競技の先駆者となり活動している。

平成30年度より、会長職を、布施久幸 前会長から現会長に引き継がれた。

○現在の組織

会 長：安東克彦（理事長兼任）

副 会 長：川崎大輔

事務局長：安東雅恭

会 計：安東ガブリエラ

▶▶ 取り組み

1977年より、体操競技の普及および選手育成については、びわこクリーンJr体操クラブが中心となり行われており、43年の歴史を誇るジュニアクラブとして活動している。選手育成では、ジュニアナショナル日本代表選手を輩出し、国際大会にも参加している。また、全国大会への出場者も多数おり、育成の発展を担っている。選手育成はもとより、普及活動にも力を入れており、春には毎年『びわこクリーンカップ』を開催していて、1986年から始まった大会は、参加者も100名を越える大きな大会になった。また、瀬田公園体育館で実施されている自主事業（子供体操教室・年間30回）への協力や同体育館での体操教室を毎週行っている、その他、市内の保育園への体操指導も行っている。



▶▶ 現 状

現在、びわこクリーンJr体操クラブでの活動が大津市体操協会の活動そのものであり、底辺の拡大から選手育成までの多岐にわたる指導が行われている。事業としては、市内保育園での体操指導、瀬田公園体育館で自主事業での体操教室の指導、また、2011年より体操専用体育館を下阪本に建設し、そこで選手育成から幼児、小学生、中学生の日常練習が行われている。

また、5年後の『わたSHIGA輝く国スポ・障スポ』に向けての強化指定選手も数名在籍し、強化に励んでいる。

体操における市民の関心は高く、多くの人が各事業へ参加いただき、活気あふれる活動をしているのだが、指導にかかわる指導者の減少と高齢化により、先が見通せなくなってきているのが現状であり、『わたSHIGA輝く国スポ・障スポ』に向けての取り組みで指導者が増えることを望んでいる。

▶▶ 今後の方針

今後10年間の展望については、現在まで継続して行ってきた選手育成や一般向け普及活動を拡大していくとともに、若い指導者の育成や確保に努めて協会を活性化させていきたいと考えています。また、体操競技を愛好してくださっている市民の方々に少しでも多くの機会を作り、体操に携わっていただきたいと思っています。

最後に、5年後に迫る、『わたSHIGA輝く国スポ・障スポ』で活躍できる選手の育成と成功させるための様々な活動を行い、終了後も競技レベルを落とすことなく継続して強化できる体制を作り上げたいと思います。

大津市ボート協会

会長 / 真嶋 龍道

▶▶ はじめに

大津市ボート協会（旧大津市漕艇協会）は、戦後いち早く設立し、琵琶湖漕艇協会（現：滋賀県ボート協会）と共に滋賀県・大津市のボートの普及・振興に力を傾注してきました。大津市で活躍していた実業団4団体、大学2校、高校3校、中学校2校が加盟していました。

過去には多くの選手が国体やインターハイ、全日本選手権等で活躍されました。さらに日本のボート会だけでなく、オリンピックなど世界でも活躍する選手を送出してきました。

役員（2020年度）

会 長：真嶋 龍道

副 会 長：奥村 功

事務局長：原 雅信

▶▶ 取り組み

近年は誰もが楽しくボートに親しみ、競技ができる生涯スポーツに注力しています。2010年には第1回大津市民レガッタを開催し、男女合わせて16クルー、約100名が参加しました。また同年に全国ボート場所在市町村協議会に大津市が加盟し、第19回全国市町村交流レガッタに男女各1チームが大津市代表として初出場しました。

その後、大津市民レガッタは2019年に第10回を迎え、大津市内外から男女合わせて40クルー、200名を超える大会に成長しました。

また大津市制130周年記念の2018年（平成27年）には第27回全国市町村交流レガッタを大津市で開催し、全国から多くのボート仲間を迎え、親交を深め、本大会で大津市は総合優勝を果たしました。



▶▶ 現 状

大津市ボート協会は現在では滋賀県ボート協会との連携、協力のもとで、楽しくボートに親しみ、競技ができる生涯スポーツの普及、定着を目指しています。その実践として大津市民レガッタが重要な行事です。従来、大津市民レガッタは競技経験者OBのボランティアが主体で運営してきました。参加者はそこに申し込み、参加します。運営ボランティアの負担を軽減し、生涯スポーツとしてのボートをより深く理解し、愛着を持つための活動として、参加者自身の積極的な大津市民レガッタの運営への参画を進めています。

▶▶ 今後の方針

今年度はコロナ禍により大津市民レガッタも全国市町村交流レガッタも中止となりました。スポーツは日常の安全と健康の確保が前提であり、やむを得ません。次年度以降、コロナ禍が過ぎ、ボートを楽しめる日常が戻ってくることを心待ちにし、体制づくり構築に取り組んでまいります。

滋賀県柔道連盟大津支部

支部長 / 宮部 博文

▶▶ はじめに

このたびは、大津市スポーツ協会創立70周年を迎えられ誠におめでとうございます。

今後益々のご活躍を祈念申し上げます。

◎大津支部の歴史

終戦後の占領下、武道が禁止されていたが、昭和21年(1946年)7月に柔道が許可され、故田中清太郎先生が中心となり3人の有志で「大津柔道有志会」を発足。滋賀県庁横にあった体育文化館(武徳殿)で柔道の修行をはじめ、その後名称を「大津柔道協会」とする。

1949年滋賀県柔道連盟及び同大津支部創設の参画とその運営に当たり滋賀県柔道の礎を築いた。

大津支部の現在の組織は

支部長：宮部博文

理事：飯島満(事務局長) 平良出(監事) 北川基寛

評議員：太田良彦 伊藤慶二郎 内田強

加盟団体：大津柔道協会 石山塾 清心館 志道館

成道会 比叡山柔道クラブ 瀬田柔道会

大津市役所柔道部 県立武道館柔道教室

▶▶ 取り組み

◎柔道の普及、強化

- 底辺拡大とレベルアップ
- 柔道修行の継続(生涯学習)
- 親子で柔道

その対策として滋賀県柔道連盟と協力しながら

- ・合同練習(狭く、深く)
- ・柔道教室の開催(柔道の理解者獲得)
- ・小学生競技者の育成
- ・滋賀国体に向けたターゲットエイジの強化

2020年は新型コロナウイルスの影響で柔道をできない時期があり、柔道のできる喜びを経験しました。また、家族の絆、家族の協力の大切さを今まで以上に感じました。

柔道においても柔道の絆を大切に今後も取り組んでいきたいと思っています。



1966年1月大津支部合同寒稽古納会(武徳殿)



滋賀県立武道館

▶▶ 現状

滋賀県柔道連盟大津支部主催で1971年に第1回が開催されて以来、毎年10月に開催される「大津市民青少年柔道大会」は幼年から小中学生、高校大学生、社会人が多数参加する歴史ある大会です。

今年は第50回を迎えましたが、残念ながらコロナ禍で中止になりました。第38回(2008年)までは武徳殿それ以後は県立武道館で開催していますが、2021年には是非開催できるように祈っております。

また、年4回昇段のための大津地区昇段審査会を実施し有段者の育成に努めています。

2019年の主な活躍として

- ・小学生、中学生、高校生が滋賀県柔道大会で団体優勝し全国大会に出場し活躍してくれました。
- また、個人でも高校女子78kg級で3位と健闘してくれました。

▶▶ 今後の方針

少子化、高齢化社会ですが性別、年齢制限のない柔道です。OBにも子供や孫とともに親子で柔道、孫と柔道で、もう一度道場に来ていただきたいと願っています。

中学校に柔道のクラブがなくても稽古は道場で行い、大会には先生に協力していただければ一人でも参加できます。

滋賀県柔道連盟大津支部としましては、各参加団体の指導者、中、高等学校の先生方と協力しながら、折角芽生えた柔道の芽は大事に育てていきたいと考えています。

今後益々の皆様の暖かいご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

大津市バスケットボール協会

会長 / 諏訪 武仁

▶▶ はじめに

昭和28年4月：協会創立 初代会長 土肥一雄
 昭和41年9月：第一回大津市バスケットボール大会
 昭和46年8月：ミニバスケットボール教室開催
 昭和48年4月：会長 岩崎定男就任
 昭和49年4月：ママさんチーム誕生
 昭和51年9月：市民大会にミニバスの部開設
 昭和62年8月：高校生国際交流（中国牡丹江）
 平成4年4月：会長 石田喜之就任
 岩崎定男氏名誉会長就任
 平成5年7月：韓国チームを招待
 平成7年9月：30回記念市民大会開催
 平成15年9月：協会創立50周年記念事業
 平成20年4月：会長 諏訪武仁就任
 平成21年4月：石田喜之氏名誉会長就任
 平成25年9月：協会創立60周年記念事業
 平成27年9月：50回記念市民大会開催
 令和2年4月：協会創立67年目を迎える

・協会役員組織

会 長：諏訪武仁
 副 会 長：堀井博樹、野村幸生、七里源一
 木澤義樹、尾松素樹
 理 事 長：田中優志
 事務局長：辻尚樹、柳田功

▶▶ 取り組み

平成25年9月：協会創立60周年記念事業
 記念誌発行
 平成27年9月：50回記念市民大会開催
 記念プログラムの作成
 記念式典開催
 記念誌発行
 令和2年4月：協会創立67年目を迎える



▶▶ 現 状

令和2年度は9月に開催する予定であった「大津市民バスケットボール大会」が55回目を迎える節目の年でありました。残念ながら新型コロナウイルスの感染拡大予防を考慮した結果、大会開設以来初の中止を決断しました。

この市民大会の特徴は、小学生、中学生、高校生、一般の各世代で勝ち上がった各2チームが最終日に一同にかいして決勝戦を行うところにあります。若い世代がお兄さんやお姉さんのプレーを見て憧れを強めたり、先輩が後輩に指導したりできる、他になかなか例に見ないほのぼのとした大会運営が、多くの市民の好評を博しています。

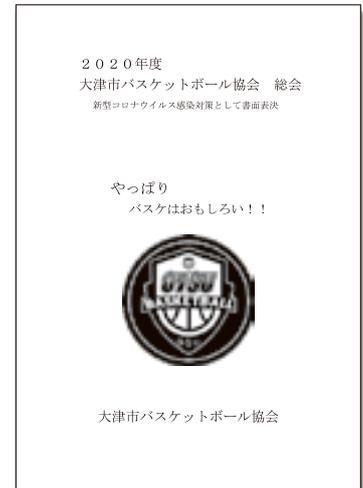
また、協会としてはこの大会をさらに発展させ、市民にとってよりバスケットボールが身近なものとなり、大津市のバスケット熱が高まるため努力をしていきたいと考えています。

▶▶ 今後の方針

近年、日本バスケットボール協会は大きな転換期を迎えております。世界に通用する競技レベルを目指して国をあげて改革が始まっています。プロリーグも徐々に地域に定着しはじめ、大津市にも拠点をおくチームがあります。

以前は学生が競技することが中心であったバスケットボールが、今は老若男女問わずに観戦することも参加することへと認識が変わってきました。つきましては、大津市民バスケットボール大会も「出て楽しい」から「観て楽しい」さらには「行くだけでも楽しい」と思われるような様々な要素を盛り込んでいきたいと考えております。

今後も大津から日本、世界へと羽ばたく選手の育成やチームをサポートできるように、努力していきたいと思っております。



大津市剣道連盟

会長 / 小林 隆彰

▶▶ はじめに

大津市剣道連盟は昭和61年4月に発足した。それ以前は各団体毎にばらばらで大津市としてまとまっていなかった。これではいろいろな面で不便であり問題もあったので各団体を統一して大津市剣道連盟としてまとめる事となった。

現在の組織

会 長：小林 隆彰(比叡山延暦寺千手院 住職)

副 会 長：首藤 昭亮(剣道教士八段)

脇本 幸彦(剣道教士八段)

理 事 長：重松 隆(剣道範士八段)

副理事長：八木 克潔(剣道教士八段)

事務局長：大津 英孝

現在の加盟団体：大学2, 高校9, 中学9

実業団及び一般道場7, 少年道場11

▶▶ 取り組み

剣道普及の為、底辺拡大に努めてきた。特に小学生、中学生に対して講習会、1級審査会等を実施して技能向上をはかってきた。又、毎年2,3月に開催される大津市民剣道大会は昨年度(令和元年度)で30回を数える事となった。参加者は小学生から中学生、高校生、家庭婦人まで200人を超える盛況である。この大会は普段、試合の少ない家庭婦人や小学生低学年も参加出来るように色々と工夫しながら実施してきたが好評であり今後も継続していく。その他としては、①滋賀県剣道連盟と協力して各種講習会、審査会、試合の参加率向上に努めている。②毎年、1月3日に大人から小学生まで150人以上参加する新年稽古会も平成21年から実施してきている。③滋賀県スポーツ協会主催の剣道教室に講師を派遣して初心者への参加向上及び指導に努めてきた。

▶▶ 現 状

1. 大津市民剣道大会

毎年2,3月に実施している大津市剣道連盟主催の剣道大会であり小学生低学年から家庭婦人まで参加できるように工夫している。残念ながら昨年度(令和2年3月21日)に予定していた第30回大津市民剣道大会は新型コロナウイルス感染症対策の為、中止となった。

2. 1級審査会

剣道初段を受審する為には先ず剣道1級に合格する必要がある。この為、年3回の講習会(木刀による基本技稽古法、日本剣道形)審査会を実施している。

3. 新春稽古会

毎年、1月3日に大津市剣道連盟主催の新春稽古会を実施している。参加は小学生低学年から一般大人まで一緒に稽古する。残念ながら今年度(令和3年1月3日)は新型コロナ感染対策の為、中止とする。

剣道普及のため、底辺拡大が大事であり、その為には小学生低学年から参加できるように色々と工夫していかなければならないが少子化の影響もあり剣道人口が徐々に減少しているのが現状である。

▶▶ 今後の方針

現在実施しているイベントは今後も継続していく。

但し、剣道人口が徐々に減少している問題については色々な工夫をして参加しやすい剣道を目指して行かなければならない。中々難しい事であるが今後の工夫と努力が必要である。平成24年度から中学体育の武道必修化が決定されたので剣道への参加向上が期待出来る。現に中学では女子の参加が多くなっている様で喜ばしいことである。

剣道は試合に於ける勝ち負けだけではなく礼儀作法や人格を高めるといった精神的な面も重要視しており両方のバランスも考えていかなければならない。特に少年剣道においてはこの点は重要である。指導がきちんと行われる様に指導者自身が今後も努力を重ねていかなければならない。

大津市バドミントン協会

会長 / 桑野 仁

▶▶ はじめに

設立は1962年で、当初は大津市役所バドミントン部の方々が中心となり、組織運営はもとより、大会運営等も近年まで行って頂いていました。その成果によりロンドン・リオデジャネイロ両オリンピック大会に合わせて3名もの大津市出身の選手が出場してくれました。ロンドンオリンピックでは銀メダル獲得という素晴らしい成績を収めてくれました。

令和元年より組織変更等により、少し役員は変わりましたが、その意思を継承しつつ今後も運営していきます。

会 長：桑野 仁

副会長：濱 久美雄

理事長：村井 健郎

(事務局兼務)

▶▶ 取り組み

普及・強化事業の両面を基本に大会・強化練習を可能な限り開催しています。特に強化事業としては、皇子が丘公園体育館を週二回年間で50回程度、県のジュニア協会指定選手を集めて、市・県協会との共催事業として取り組んでいます。

▶▶ 現 状

事業活動としては、毎年個人戦（6月）・団体戦（10月）を行い、また9月には各学区対抗で行われる大津市民体育大会が開催され、地域を代表した多くの愛好者が一同に会し、盛大に行われています。

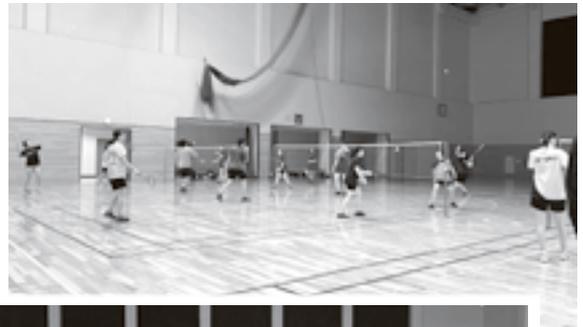
強化事業としては、毎週（水・金）2回皇子が丘公園体育館で、ジュニア強化指定選手を集めて、県協会との共催事業として練習会をびわこ国体以来継続して行っています。



▶▶ 今後の方針

まずは大津市民の健康第一にバドミントンの普及啓蒙に努め、組織充実・財政基盤を整えより多くの愛好者の参画を願っています。

また2025年に行われる2巡目国民スポーツ大会にはバドミントン会場になる大津市として、活躍できる選手を多く輩出し、またオリンピックでも活躍できる選手が育つことを目指します。



大津市乗馬連盟

会長 / 中江 忠洋

▶▶ はじめに

大津市乗馬連盟は、昭和21年（1946年）大津市柳ヶ崎に設営された米進駐軍の乗馬施設を前身として、同施設が昭和24年（1949年）に大津市に払い下げられたことを期に誕生した、非常に長い歴史を有する団体です。

昭和38年（1963年）、大津市大谷町に完成した大津市大谷乗馬場（鉄骨2階建て、馬房20頭分、飼料庫、角馬場、付属設備等）に移転し、現在に至るまでこの地で活動を行っています。

昭和40年（1965年）には、小中学生を対象とした琵琶湖スポーツ少年団が結成されました。

会 長：中江 忠洋

事務局長：吉田 隆吉

▶▶ 取り組み

市民が自然の中で馬と触れ合う楽しさを気軽に体験できるよう、初心者や初めての方を対象に「大津市民乗馬教室」を開催しています。

乗馬体験コースでは、1日20分の騎乗体験を計4日間行っています。指導員による基本説明から始まり、①馬とご対面（馬に触れる）、②騎乗、③歩く、④止める、⑤曲げる、⑥馬上体操、⑦軽く走る（速歩）、⑧降りる、⑨馬にお礼（首をポンポンとたたく）などの基本的動作が学べます。指導員が手綱（調馬索）をつけて指導し、初心者でも安心して体験できるようなコースになるよう心掛けています。

また、不登校の状態が継続し、学校以外で通うことができる場所を望んでいるお子さんに教育支援を行う大津市適応指導教室「ウイング」の生徒さんに対する乗馬体験教室も実施しています。



▶▶ 現 状

毎年開催される「大津市民乗馬教室」には、20歳代から70歳代まで、老若男女を問わず、幅広い世代の方々にご参加頂いています。乗馬に慣れていないという方、競馬がきっかけで乗馬にも興味を持った方など、動機は人それぞれです。馬を近くで見ることが初めてという方の多くは、馬の大きさに驚き、最初はおっかなびっくりですが、体験乗馬が終わるころには、堂々と騎乗できるようになっています。乗馬は、馬にまたがってればよいと思われていた方も多く、体験後は全身を動かす非常に良い運動になったと驚かれる方も多くおられます。

また、高校馬術の先駆者である膳所高等学校馬術班（結成・昭和25年（1950年））の日々の活動の場でもあり、馬の世話の指導から、部班競技、障害飛越や馬場馬術などの技術指導まで行っています。これまでに、国民体育大会やインターハイ出場など、輝かしい成績を収めています。

▶▶ 今後の方針

乗馬は子供から年配の方まで、年齢を問わず誰でも生涯楽しめるスポーツです。また、他のスポーツと大きく異なり、人馬が一体となって楽しむことができます。馬は、温かな性質で人にも良くなつきませんが、実はとても臆病な動物です。乗馬を楽しむには、馬の性質や習慣を理解して愛情をもって触れ合うことが大切です。

馬との触れ合いを通じて、青少年の情緒教育や生涯スポーツとして継続して楽しめる環境の整備に心がけていきたいと考えています。

大津市ソフトボール協会

理事長 / 衣笠 岑雄

▶▶ はじめに

- 1977 現協会のスタート
- 2010～ 協会主催の4大会（男子1部・2部・レディース年間でのリーグ戦、中学女子・年1回）健康福祉祭 県予選（ねんりんピック）、全日本シニアソフトボール大会県予選の主管担当。
- 2017 県体5回目の総合優勝
- 2019 桑野 仁氏 会長就任（現県会議員）
- 2020 組織運営（3期～8期目）
会 長：桑野 仁
理 事 長：衣笠 岑雄
副理事長：大西 加奈子
会 計：榛葉 真理子
事務局長：兼務（会計）
審 判 員：衣笠 岑雄 審判長 以下11名

▶▶ 取り組み

社会全体が高齢化している中、当協会も高齢化が進んでおり、特に審判団に於いては超高齢者となり、5年後の滋賀国体を控え、若手の養成が急務ですが、一向に充実していません。4年前から、一名ずつですが若い審判員が加入して頂いている為、首の皮一枚で保たれているのが現状です。チームに於いてもしかり、やはり高齢化が続き、若者の加入者が少なく苦慮しておられるチームが多々見受けられます。

常に募集をしていますが、10年前の、60周年記念誌の中で、田中前理事長が審判員の減少を明記しておられますが、いまだに解決しなく惨憺たる思いであります。



▶▶ 現 状

【取り組み】の欄で記述していますが、チームの高齢化や、新規加入選手の不足の為、この10年で、男子2部チームが13チームから8チームに減少している状態です。

一方、全国大会制覇を目指して、他府県との交流試合を実施し、競技力の向上を目指しているチームもあり、又、底辺拡充の為、小・中・高の指導者や先生方が大変な努力をして頂いています。

一例を挙げると、ドリームソフトボール大会と称し、中・高生の交流試合と、高校生が中学生に、投・打・守等の指導を行い、今年で14回（年一回）を終えられました。

当協会としては、たいへん喜ばしいことであります。

▶▶ 今後の方針

滋賀県ソフトボール協会の下、日本女子ソフトボールリーグの開催・各種別の全国大会・近畿大会など、レベルの高い大会を招致され、ソフトボールに少しでも関心を持っていただき、参加する事で、私共も技術力の向上を心がけています。

繰り返しになりますが、5年後に控えています滋賀国体に向けて、審判員、選手の募集、若手の育成を地道に行わなければならないと考えています。

全国制覇を目指すチーム、及び小・中・高の交流試合から審判の要請があれば、微力ながら支援をしていく方針です。



大津市クレー射撃協会

会長 / 安西 将也

▶▶ はじめに

10年前、平成22年当時の大津市クレー射撃協会を振り返ると、会員数50名を擁する団体でした。その後、諸般の事情により、一時期活動停止の休眠期間がありました。平成24年8月に活動を再開、復活しましたが、復活当初は少なかった会員数も、令和2年11月時点では24名まで増えており、今後も活発な営みを目指しています。

主な協会役員は、次の通りです。

会 長：安西 将也
副 会 長：久堅 浩一
副 会 長：近藤 敏明
事務局長：田坂 貴之

▶▶ 取り組み

大津市クレー射撃協会は、会則において「大津市内の射撃競技を愛好する者の団体として、クレー射撃を通じ、スポーツ精神の高揚と会員相互の親睦並びに射撃競技の普及、向上を図る事」を目的としています。具体的には、年間6回の射撃大会を実施しており、初心者の方員に対しては、射撃競技を行う上でのマナー、銃の所持を継続する為の注意項目、競技能力向上の為のレクチャーを行っています。また年に2回、会員の競技能力向上の為、外部講師をお招きして御指導を頂いております。外部講師の御指導には、クレー射撃の上級者の方による練習会、他にも全日本バレーボールの指導者、テニスの国際選手の指導者からメンタルトレーニング等を行って頂きました。



▶▶ 現 状

大津市クレー射撃協会の競技能力を測る術として、年に1回開催される、滋賀県民体育大会があります。平成29年から令和元年迄の直近3年間の成績では、総合成績は全て1位、種目別ではトラップ射撃の部において1度だけ2位に甘んじましたが、他の2年は1位であり、スキート射撃の部では3年間全て1位を獲得しています。会員各個人においては、滋賀県クレー射撃協会にも席を置き、国民体育大会出場を目標とし、それを果たした選手、さらに高みを目指し全日本選手権大会に出場し、入賞に至った選手も現れています。

▶▶ 今後の方針

クレー射撃競技において、銃の所持は20歳以上と法律で定められており、所持許可を得ても銃の購入費用、継続的に必要な装弾の購入費用、練習の際の射撃場の利用料金は相応に必要です。しかも全国の殆どの射撃場は、交通手段として車が必要となり、年齢の若い方には高いハードルになります。また射撃競技は体力では無く、集中力や平常心等の精神力を以て競い合う競技の為、人生経験豊かな年配の方に有利かもしれません。このような理由から、他の競技団体と比較した場合、会員の平均年齢は、かなり高いのではないかと思います。当協会は、生涯スポーツとなり得る射撃競技を通じて、所属会員全員が充実感を得る為の活動を目指していきます。

大津市フェンシング協会

会長 / 渡辺 一生

▶▶ はじめに

会 長：渡辺一生
副 会 長：宮本説三、堀川昌宏、山本圭子
事務局長：畑中正道

1964年開催の東京オリンピックに大津市出身の真野一夫氏が出場することにより、オリンピック前年の昭和38年に大津市フェンシング協会が設立されました。

昭和52年に石山高校フェンシング部が設立され、現在までに同校から4名の日本代表選手を輩出するなど活躍を続けています。また、昭和56年のびわこ国体フェンシング競技の部では総合優勝を果たし、種目別天皇杯を獲得することができました。

今後、2025年国スポに向け、いっそうフェンシング競技の普及や選手強化を進めてまいります。

▶▶ 取り組み

大津市のフェンシング人口は減少傾向にありましたが、約5年前より県フェンシング協会との連携により大津市内の子供達にフェンシング体験教室を実施するなどして、フェンシングに興味を持った子供達（小中学生）を中心に毎月6回のフェンシング教室を実施してきました。その結果、徐々に競技人口が増加しジュニア選手の強化育成に繋がってきていることを喜ばしく思っています。

また、2025年国スポが滋賀県で開催されることが内定し、フェンシング競技は大津市のウカルちゃんアリーナで開催される予定となり、いっそうジュニア教室が活発になってきています。

その他の主な取り組みとしては、市内にある石山高校フェンシング部に技術指導等の活動支援を行っています。また、大津市内で県体を実施される場合の運営を担当しています。



▶▶ 現 状

オリンピックでメダルを獲得した影響もあり、近年、全国的にジュニア層からフェンシングをはじめの子供達が増え、ジュニア層のフェンシング人口が急速に増えてきています。本協会においては未普及競技で指導者も少数ということもあり選手育成が遅れた状況にありましたが、約5年前より県フェンシング協会と合同で小中学生を対象としたジュニア教室を開催しています。その結果、ジュニア大会（近畿・全国）に出場し結果を残している選手も増えていきます。

また、石山高校においても全国大会で好成績を取ることができない状況が続いていましたが、ジュニアからフェンシングを始めた選手達が高校に進学し中心選手として活躍するなど、徐々に成果が出てきています。

今後、もっと多くの子供達がフェンシング教室に参加してもらえることを期待しています。

▶▶ 今後の方針

2025年国スポが滋賀県で開催されることが内定しフェンシング競技は大津市のウカルちゃんアリーナで開催されることになりました。大津市フェンシング協会では県フェンシング協会と連携し選手強化や大会運営を成功させることを目標に取り組んでいます。

運営面においては大津市国スポ・障スポ大会推進室と連携し5年後の本番に向け準備を進め、全国から集まってくるフェンサー達に大津の地で素晴らしい思い出を作ってもらえるよう努力したいと思います。

また、2025年国スポでは大津市出身の選手が多数出場し、特に少年種別の選手が活躍できるようジュニア教室を中心に選手強化を全力で進めていきたいと思っています。

そして、2025年国スポを契機に、いっそうフェンシング競技の普及発展に努めてまいりたいと思っています。



大津市テニス協会

会長 / 仲野 弘子

▶▶ はじめに

会 長：仲野弘子
副会長：野村浩之
理事長：横田英一
事務局：伊藤俊宏

- 東レ(株)、東洋紡績(株)、三洋電機(株)各社の有志が集まり、1974年(昭和49年)に大津市庭球協会として発足。2020年度(令和2年度)は12団体が加盟し、活動している。
- 事務局は発足当時の麻野スポーツを経て、現在は志賀レークサイドTCの伊藤コーチに依頼して現在に至る。

▶▶ 取り組み

- 小中学生・一般を対象にした「テニス教室」(春季、夏季)を毎年開催し、多くのテニス愛好家に生涯スポーツとして貢献できるように取り組んでいる。
- ダブルスとシングルのジュニア大会の開催による参加者増加を図る。
- ダブルスとシングルス大会のシニア種目(年齢枠、レベル枠)の拡大による参加者増加を図る。
- 2025年国民スポーツ大会開催に向けて、大津市最大のコート数を有する大石テニスコートの改修・面数増加について、大津市と滋賀県テニス協会と協力して取り組んでいる。



▶▶ 現 状

- テニス教室(春季4月、夏季7月)
- ダブルス選手権(5月)、
ジュニアダブルス大会(5月)、
シングルス選手権(9月)
ジュニアシングルス大会(11月)
ミックスダブルス大会(11月)
- 大津市民テニス大会兼県体予選会(6月)
滋賀県民体育大会出場(テニス競技)(8月)
- 大津市主催市民体育大会(テニスの部)(9月)の運営

▶▶ 今後の方針

- 市内及び周辺市外の多くのテニス愛好家が楽しめる行事を企画して開催すること
- 協会主催行事への参加者増加に取り組む。
具体的には交通の便が良く、リーズナブルな参加費でのテニス環境立地を活かした大会運営を行う。

大津市ソフトテニス協会

会長 / 清水 信克

▶▶ はじめに

昭和22年大津市ソフトテニス協会が発足してから間もなく73年を迎えようとしています。

その足跡は、一般男子からレディース部門、ジュニア部門と活動の輪を広げ、全国大会への出場等、著しい活躍をしています。

常任顧問：伊藤成二
顧問：平井良造、上杉忠敬、野々口淑子
会長：清水信克
副会長：宇野勝太、堀圭一郎
理事：西村哲子（ジュニア理事長、
高体連・中体連専門委員長）

会計：森孝子
事務局：横山敏幸
支部長：馬場昌則
体育評議員：高野和代

▶▶ 取り組み

大津市在住の小学生から90歳を超える方までの6団体約300名の会員が交流と技術力向上、選手育成を目的として活動しています。

地域型総合スポーツ普及の一環として、年間2回、ジュニア・中学生を対象に国体選手等を招き、ステップアップ教室を開催し普及育成に取り組んでいます。一流選手のプレーを間近で見て指導を受ける事で学生時代の部活動でソフトテニスを終わらせず生涯スポーツとして続けてくれる様に尽力しています。

高校生の国際交流会として大韓民国亀美市、中国台湾嘉義市の相互訪問試合も25年を迎え、国と国、人と人とのふれあいを育む様に指導しています。

2025年の滋賀国体に大津市から選手を派遣できるように日々練習に励んでいます。



▶▶ 現状

公共施設が少なく、限られた場所での練習できません。また、多面コートが無いため、近畿大会や全国規模の大会を開催できません。一流選手のプレーや試合運び等を見ることができず大変残念です。その中でも下記大会で優秀な成績を挙げられました。

H25年 近畿選手権シニア80 優勝 木下選手
西日本選手権シニア80 準優勝 木下選手
全日本選手権シニア55 準優勝 清水選手

H26年 近畿選手権シニア80 優勝 木下選手
H27年 近畿選手権シニア80 優勝 木下選手

▶▶ 今後の方針

会員の高齢化、競技人口も年々減少し、小・中・高校と活躍した生徒も大学進学で大津市を出ていく状況の中、いかにしてソフトテニスを魅力あるスポーツとして根付かせるかは常に課題として上がっている事です。

楽しさの中にも礼儀と礼節を大切に滋賀県内はもとより、全国大会でも活躍する選手を育てて行きたいと思っています。

大津市ラグビーフットボール協会

会長 / 津田 栄

▶▶ はじめに

1970年（昭和45年）大津市ラグビーフットボール協会設立、1975年（昭和50年）大津市体育協会（現大津市スポーツ協会）に加盟し現在に至る。

現在組織

会 長：津田 栄

顧 問：青山 三四郎、石塚 広和、井口 雅勝

理事長及び事務局：津田 栄

大津市スポーツ協会評議員：津田 栄

加盟クラブ：大津ラグビースクール、瀬田北中学校、膳所高校、石山高校、東大津高校、瀬田工業高校、比叡山高校、滋賀医科大学、びわこ成蹊スポーツ大学、膳所高校ラグビーオールドボーイズ、倶楽部、レクサイドクラブ、びわこ惑惑クラブ、東レ滋賀クラブ



▶▶ 取り組み

とくにこの10年間に重点的に取り組んだ事業は、毎年10月に大津市ラグビー祭を開催。また、2019年ラグビー祭りワールドカップ日本大会における公認キャンプ地誘致活動を行い、フィジー代表・ウェールズ代表の誘致に成功。近年、県協会と連携し毎年、関西大学Aリーグを開催。

▶▶ 現 状

少子高齢化の中、スクールから壮年までクラブの存続に力を入れ大津市のスポーツ振興を図っています。

▶▶ 今後の方針

ラグビーのできる環境を整備し、多くのラグビーファンを増やしスクールを基盤とし競技人口を増やす。また、市民にラグビーを目にしていただく機会を増やし普及、啓蒙する。

大津市カヌー協会

会長 / 野口 享

▶▶ はじめに

びわこ国体の開催を目前に控えた昭和53年10月28日、当協会設立。翌年1月23日大津市体育協会への加盟承認。

びわこ国体が最後の公開競技であり、正式種目につなげる責任の重い大会を経験した。

振り返れば、昭和39年東京オリンピックでカヌー競技（レーシング）が採用され、これに向けて35年10月には県協会が設立され、37年11月には、大津・島の関沖琵琶湖において第1回全日本選手権大会を開催。以後、瀬田浦において今日迄関西選手権大会を開催し、我が国カヌーのメッカとして親しまれている。

◇協会役員：会 長 野口 享（三品光三）
副 会 長 木村 隆
理 事 長 野崎信宏（村田 清）
事務局長 野崎信宏（野口 享）

※かつこ内は設立時

▶▶ 取り組み・現状

カヌーは未普及競技ではあるが、本県本市は琵琶湖という地の利と優秀で熱心な指導者のもと、特にクラブチーム（オーパルオペテックスカヌーチーム）の小・中・高の活躍が目覚ましく、国内大会では常に上位を占め、近年、ジュニア世界選手権大会をはじめ国際大会への出場も多い。また、成年でも、滋賀レイクスターズ所属の男子選手が、東京オリンピックの枠をかけてアジア選手権大会を目指している（K-2：1,000m）。

また、少年の活躍を中心にして、国体での種目別総合成績も近年上位にあり、天皇杯得点に貢献している。

こうした中で、今日的課題として選手の他県からの勧誘に頭を痛めている。



▶▶ 今後の方針

今後の当協会としては、何といたっても令和7年開催の国民スポーツ大会に全力を投球することであり、今回は、瀬田川でスラロームとワイルドウォーターを行う（スプリントは能登川／東近江市）。県協会に協力して、天皇杯総合優勝の獲得とともに頑張りたい。

また、子どもから大人まで、県協会と連携して一層の競技の普及・振興・強化に努め、各種の大会で好成績を収め、世界に通用するカヌーイストの育成を目指したい。

大津市なぎなた連盟

会長 / 中西 美登里

▶▶ はじめに

大津市なぎなた連盟は、昭和56年の第36回びわ湖国体を契機に昭和55年に発足しました。大津なぎなたクラブとして中西会長が創設され、大津市体協、滋賀県体協のご協力により滋賀県なぎなた連盟所属の大津市なぎなた連盟として、今日に至っています。

会長：中西 美登里

〒612-0802 京都市伏見区深草南明町13-7
075-541-4941

理事長：須原 紀彦

〒520-0113 大津市坂本5-4-24
077-578-1963

事務局：吉田 伸子

〒520-0112 大津市日吉台2-28-8
077-579-3496

▶▶ 取り組み

県内行事としては、郡市対抗で行われる夏の県民スポーツ大会を目標に、日々の稽古に励んでいます。

県外行事としては、春の都道府県大会、夏の少年少女練成大会、中学生大会、秋の国民スポーツ大会等には全県より選出された選手が出場しています。

東京武道館で開催される少年少女練成大会には、大津市なぎなた連盟所属の小学生が近年良い成績をあげています。

他にも近畿ブロック内で行われる「形」研修会、夏季合宿、ジュニア強化練習会、等にも積極的に参加しています。

▶▶ 現状

水曜日午後、皇子が丘体育館トレーニング室にて長年にわたり稽古を行ってきましたが、会員数の激減、指導者の高齢化により、現在は月2回日曜日午前中の稽古のみとなっています。県内合同練習として、県外からの講師が来られる彦根道場への稽古に参加する会員もいます。

体験教室も随時行っていますが、継続して稽古を続けてくれる人が、少ないのが現状です。

▶▶ 今後の方針

当面の課題として、先ずは5年後に開かれる2巡目国民スポーツ大会に向けて、競技力向上、普及活動に一層の力を注ぎ、競技人口増を目指しています。

日々の稽古は、基本を大切に、仲間との和を大切に、一人一人を大切に、進めていきたいと考えています。



大津市ボウリング協会

会長 / 岸邊 輝彌

▶▶ はじめに

大津市ボウリング協会の経歴

大津市ボウリング協会は、スポーツボウリングの普及及び振興を図り、市民の心身の健全な発達に寄与することを目的として昭和50年に設立し、現在に至っています。

現在の組織

会 長：岸邊 輝彌
理 事 長：上田 隆一
事務局長：橋 弘一

▶▶ 取り組み

- ボウリング競技によるアマチュアスポーツの高揚
- 大津市スポーツ協会の主催事業への参画及び主管運営
- 滋賀国スポ大会における選手強化及びジュニア選手の発掘・育成

▶▶ 現 状

ボウリングはこどもから高齢者まで気軽に楽しめるスポーツであり、市民の誰もが気軽に楽しく親しめるよう、生涯スポーツの普及に努めている。

活動として以前は韓国亀尾市とボウリングによる国際交流を行っていたが、近年は双方の事情等から交流が途絶えている。また、市民体育大会のボウリング競技の開催についてもボウリング場の閉鎖等などから開催できていないのが実情である。

▶▶ 今後の方針

- 子供から高齢者までそれぞれのライフステージに応じた仕組みづくりに努める。
- 地域のスポーツ指導者の研修会や講習会を実施し、指導力の向上に努める。
- 2025滋賀国スポ大会が開催されるにあたり、滋賀県ボウリング連盟とも連携して、選手の強化育成を推進する。

大津市空手道連盟

会長 / 八田 憲児

▶▶ はじめに

大津市の最初の空手道場は昭和26年に誕生し、その後30年代に滋賀県内にも徐々に道場が増加した。

昭和46年に大津市の団体が中心となり滋賀県空手道連盟が設立され、昭和56年の第36回国民体育大会（びわこ国体）においては初めて空手道が正式競技となり、滋賀県が総合優勝を成し遂げた際には大津市連の選手・役員が活躍した。

昭和58年4月には各郡市で連盟が発足し大津市空手道連盟が25団体により結成され、大津市体育協会に加盟した。

現在の役員は、会長：八田憲児、副会長：奥村隆治・松岡治樹・松下春義・松尾房郎、理事長：山本 真、事務局長：中村浩二である

▶▶ 取り組み

大津市空手道連盟の最大の行事である『大津市少年少女空手道選手権大会』は昭和60年に第1回大会が開催された。当初は小学3年生から中学生までの大会であったが、現在は小学1年生から高校生までと大会規模が大きくなり、形の部・組手の部を男女・学年別に分けた種目で、各加盟道場よりのべ300名近くの選手が集い、保護者の熱い応援のもと熱戦を繰り広げている。

また、大津市空手道連盟より巣立った選手達の中体連や高体連、大学・社会人となっても活動し、国体や日本スポーツマスターズ競技大会、果ては世界大会などへと活躍の場を拓いている。

2019年には来る第79回国民スポーツ大会開催予定種目啓発事業としての空手教室の開催に協力し、一般の子ども達にも空手道の魅力を紹介する事ができた。



▶▶ 現状

スポーツ庁後援の全国少年少女空手道選手権大会や、全国中学生空手道選手権大会などに数多くの選手が出場し、また審判員も大津市連の役員が多く派遣されている。

県民体育大会や滋賀県空手道選手権大会においても、大津市の県立武道館で開催され、選手・審判員・役員にと大津市空手道連盟加盟道場の選手や指導者が活躍している。

また、2019年の日本スポーツマスターズ岐阜大会において大津市空手道連盟の理事が選手として優勝に輝き、若い選手達の手本となることもできた。

2020年の東京オリンピックにおいて、空手道界悲願の正式競技となり機運が高まっていたが、コロナ禍による延期で1年持ち越しとなってしまった。

昨今では少子化により競技人口が減少しているが、礼儀や武道の精神を求める声は高いと思われる。

▶▶ 今後の方針

まずは実施年が変更となった2巡目の国スポ（旧国体）の空手道競技が大津市で行われる事に向けて、選手の育成に努めると共に、審判員の育成及び役員としていかに貢献できるかに努めていきたい。

また、競技人口の増加を目指して国スポ開催を好機とし普及活動を行い、武道としての空手道をアピールしていきたい。その為にも中学校武道授業必修化に伴い、必要な道具も無く、内容によっては生徒同士の接触も無い為コロナ禍でも無理なく授業を進められる空手道の採択を、是非とも大津市でも実現できるよう働きかけたい。

空手道は年齢と体力に応じて習得していける為、健康の維持向上に適しており生涯スポーツとしても最適である。わが連盟は今後も様々な年代の健康的な生活の為に、大津市スポーツ協会の一員として努力していきたい。



大津市スポーツ拳法連盟

会長 / 古川 亘

▶▶ はじめに

大津市スポーツ協会が、2005年8月に国・県が推奨している「大津市型総合型地域スポーツクラブ」を発足されたのを機に、私は3年間、準備委員長として設立に当たってきた経緯から、「他の競技団体よりもいち早く総合型地域スポーツクラブを立ち上げるべきだ」と考えた。そして地域スポーツを軸に組織の改編を行い、2005年9月1日に総合型地域スポーツクラブとしてスポーツ拳法を立ち上げ、2005年12月15日にNPO法人スポーツ拳法(略称)として法務局に登録する等、8ヶ月間の準備期間を経て、2006年4月1日にスポーツ拳法連盟創設に至ったのである。

スポーツ拳法を創設して15年、支部数も当初の6支部から、県内で21支部と大きく飛躍した。また国内では12都道府県に連盟が立ち上がり活発に活動を展開している。スポーツ拳法は2008年に「県スポーツ協会と県高等学校体育連盟」に加盟を果たした。そして2017年4月6日に「一般社団法人日本スポーツ拳法連盟」として法務局に登録し、今日に至っている。

現在の役員は、会長：古川 亘、副会長：山田 康夫、理事長：古川 泰である。

▶▶ 取り組み

スポーツ拳法連盟の役員会議を幾度となく開催し、総合型地域スポーツクラブを最大限に活用できる組織作りを検討した。その結果、「総合型地域スポーツクラブ」のキャッチフレーズである「いつでも、どこでも、だれでも、いつまでも」と、スポーツ拳法の「愉快地に、楽しく、スマートに」を一体とした組織化を全面的に打ち出し、競技として個人の能力に応じた指導と個人の個性と年齢に応じた指導、即ちナンバーワンを目指しながらオンリーワンのをばす指導を「スポーツ拳法の特徴」とすべきであると考えている。

ナンバーワンの主たる行事は、毎年開催している全日本選手権大会・各都道府県大会・郡市大会等がある。そしてオンリーワンの主たる行事は、やればできるという信念から毎年開催の演武会・昇級昇段試験(年4回)・特別称号昇段試験(年1回)・市スポーツ協会主催の各種行事の補助員等のボランティア活動がある。厳しい中にも楽しく、和やかで、会員全員がまるでファミリーの様な素晴らしい連盟となっている。



▶▶ 現状

「組織の一体化」をテーマに、組織の総力を上げて取り組んでいる。

幸い、少年期は「市スポーツ少年団」に、高校生は「高等学校体育連盟スポーツ拳法専門部」に、中学生以上一般は「地域の市スポーツ拳法連盟」に所属している。この3組織を一つにまとめ上げ継続して指導できる体制こそが「総合型地域スポーツクラブ」であり、その体制が整うことにより、スポーツ拳法の生命線であるナンバーワンとオンリーワンの両立が可能なのである。この可能性を実現すべく、2つの自前本部道場と新築した会議室において、指導者に対し実技講習と理念講習会を実施する等、毎月各種研修・事業を実施している。

更に年6回のスポーツ拳法連盟の役員会議を開催し、拳士の意見や要望を取り入れ、各支部道場の問題点や課題など支部運営についての話し合いを行い充実した会議を開催している。

▶▶ 今後の方針

スポーツ拳法連盟は、上記以外に保護者と拳士が参加する年2回の親子練習会の開催、大津市民体育大会スポーツ拳法競技で来賓・保護者を交えた家族的な楽しい新種目競技を実施、3年おきに実施している3泊4日の東京デイズニードへの旅行など家族間の心の交流と絆の繋がりを広め深めている。2014年にイギリスで開催されたスポーツ拳法国際大会に15名の出場を皮切りに、2015年は北海道スポーツ拳法連盟に技術講習会を実施、毎年近畿大会に出場、大分県スポーツ拳法連盟と協力しながら護身術教室を実施、全国高等学校選手権大会・全国中学校選手権大会・全国選抜大会を大分県で開催している。

今後とも、スポーツ拳法が変わらず地域の期待に応えて、発展し続ける為に伝統を重んじながら、伝統に縛られることなく、「いつでも、どこでも、だれでも、いつまでも、愉快地に、楽しく、スマート」に各種行事を実践行動し、よりよい自分づくりに励みながら、よりよい仲間づくりの輪を広げ、よりよい地域づくりに貢献する有為な人間をスポーツ拳法の練習を通して、育てていきたいと考えている。

大津市ゲートボール連盟

会長 / 新井 正司

▶▶ はじめに

当連盟は、昭和62年に設立され現在に至っております。会長につきましては、新井正司会長。副会長につきましては、小田 忍、星野 誠の両名です。事務局長につきましては、福田昌隆がしております。

▶▶ 取り組み

連盟の取り組みについては、いつまでも若さを保ち、生涯現役を目指し日々競技をしております。

特筆すべき事業は、毎年秋に実施する「湖の都杯」親善ゲートボール大会です。今年度は、コロナの影響で中止を余儀なくされましたが、すでに24年にわたり実施いたしております。参加チームにつきましては、県内一円は及び福井、奈良、京都といった県外からも参加者があり約60チーム300名の人たちで技を競い合います。



皇子が丘公園グラウンドにて



伊香立公園グラウンドにて

▶▶ 現 状

現在の会員数は、僅か196名にまで減少しました。立ち上げ時期には、600名を数えていましたが、年々減少に歯止めがかからない状態です。会員増加に力を入れておりますが、現状増加は見込めなくなっております。

▶▶ 今後の方針

新型コロナが治まりますと中止になっていた競技大会の開催及び会員増加に対する取り組み及び、ゲートボール人口の増加又、小学校高学年から中学、高校、大学まで幅を広げて勧誘活動に取り組みたいと思います。

年齢別に分けますと、ジュニア、ミドル、シニア層とあり全国大会も盛んに行われていますので滋賀県も頑張る各層の大会に参加できるようにと思っております。現時点の人口が減らないように、また連盟が存続できるように役員一同頑張っていきます。

大津市インディアカ協会

会長 / 岡村 吉郎

▶▶ はじめに

大津市インディアカ協会は、平成10年、大津市制100周年を機に設立、それに伴い大津市スポーツ協会のご支援のもと、「大津市学区対抗インディアカ大会」開催運営に携わり、平成20年には「全国スポーツレクリエーション祭滋賀2008」インディアカ競技の大津市での開催運営に協力、平成21年からは、全国スポレク祭の精神を引継ぎ、大津市レクリエーション協会主催「スポレク大津フェスタ」のインディアカの部を開催するなど、幅広い活動を推進し、いつでも、どこでも気軽にできる軽スポーツ「インディアカ」の普及に努めています。

会 長：岡村 吉郎
副会長：山本 久司
副会長：中山 敦生
理事長：船本 力

▶▶ 取り組み

平成20年、「全国スポレク祭in滋賀」インディアカ競技の大津市での開催を契機に、この大会のスローガン“あふれる元気、きらめく笑顔”の盛り上がりを引き継ぎ、さらに拡げていくことを目標におき活動を推し進めてきました。

具体的には、滋賀県インディアカ協会との連携、共催、協力を含め、各種大会、交流会等を開催し、参加してきました。また、「大津市学区対抗インディアカ大会」開催、「スポレク大津フェスタインディアカの部」の開催などを通して、喜びを分かち合える、暖かなふれあいや交流が深められるインディアカの普及を目指した活動に取り組んできました。



▶▶ 現 状

大津市インディアカ協会としての主要な事業として、大津市スポーツ協会主催、大津市学区体育団体連絡協議会のご協賛による「大津市学区対抗インディアカ大会」を開催し、一般の部、シニアの部とに分かれ多くの学区に参加を頂いています。

その他に、夏季大会、秋季大会、クラブ対抗インディアカ大会、新春交流会を開催しています。また、これら大会時に、大津市・大津市市民スポーツ課・大津市スポーツ協会のご支援による「大津市インディアカ教室」を実施するなど、いつでも、どこでも、気軽にできる生涯スポーツとして楽しまれる様に、普及活動を行っています。

▶▶ 今後の方針

大津市学区対抗インディアカ大会では、一部の学区に参加頂いていないこともあり、大津市学区体育団体連絡協議会にご協力をお願いしてまいります。

インディアカ参加者は高齢化が進んできているなか、徐々にですが、インディアカの愉しさに出会った若者が増えてきています。

今後は、当協会の指導者と共に、積極的に各学区に出向き、いつでも、どこでも、気軽にできるインディアカの愉しさをより多くの方々に味わって頂き、生涯スポーツ、レクリエーションとして普及していく活動をさらに拡げていきます。

大津市ゴルフ協会

会長 / 三田 隆之

▶▶ はじめに

平成13年に大津市ゴルフ協会発足以来今日まで順調に運営しており会員様は1,000名以上を有しております。

以前は年4回以上の競技会を開催しておりましたが、ここ数年は年2回の開催となっており、毎回150名程度のご参加を頂いております。

最近では女性の参加者が増加しており、老若男女問わずゴルフを楽しんで頂いております。

また、県民体育大会に於いては、平成23年、30年と総合優勝しており、予選会を通じて多くのローハンディの方の参加も頂いており、毎年上位を狙える選手選考ができております。

組織は顧問、会長、副会長、理事、事務局の計7名にて運営を行っておりますが、若手のゴルフ競技者が少なくなっている事が不安要素で、競技者数を増やす事がこれからの課題です。

▶▶ 取り組み

ゴルフを通じて、市民同士の交流と健康増進を主たる目的としております。また、地域の経済的振興にも貢献していきたいと考えております。

県内におけるプロ競技にもボランティアとして協力しており、主催団体からも感謝されています。

現在は年2回のゴルフ大会ですが、この回数を増やす事と、若手、ジュニア育成に労力を注ぎ込み、研修会、勉強会等を活発に開催し、大津市ゴルフ協会からプロ選手を目指せるジュニアの発掘をしたいと考えております。競技人口を増やす事がゴルフ界、大津市ゴルフ協会の繁栄に繋がると確信しております。

出来る限り安価で皆様を楽しめる競技会にするよう努力致します。



▶▶ 現状

開催日が平日中心となっており、勤労者の参加が減少していますが、女性の参加が増加しており、非常に華やかな大会となっております。

ゴルフ場をお願いをしてプレーフィアを安価にし、昼食の提供等協力して頂いております。問題は高齢化が進みベテランの参加者が減っているのが悩みです。

また、大津市内のゴルフ場が4会場ありますが、費用等の問題で近場での開催が出来ないのが現状です。この問題を打破するよう4会場とは絶えず交渉はしておりますが、難題が山積しております。しかしながら、大津市からは遠いですが、利口にして頂けるゴルフ場があり、近年はお手頃価格で開催出来ております。

▶▶ 今後の方針

市民の皆様の健康と趣味の充実に貢献出来るのが一番と考えております。

県民体育大会の成績も久しぶりに優勝して優勝候補の常連になりつつあり注目されています。国体選手も協会より輩出しております。

当面はゴルフ競技者の発掘、育成を努力目標とし、競技人口を増やすよう老若男女問わず幅広い方々にゴルフ競技は難しいではなく、青空の下で四季を感じ、コースの美しさを接見し、歩くスポーツという事の素晴らしさを伝えていきたいと思っております。

今後も市民の輪を一層拡大し、皆様の健康増進に寄与したいと考えております。また、大津市ゴルフ協会がゴルフ界全体の底上げ、一翼を担えるよう努力していく所存でございます。



大津市武術太極拳協会

会長 / 初田 茂

▶▶ はじめに

滋賀県武術太極拳連盟は、平成5年6月19日に全国で34番目の連盟として発足。平成16年に滋賀県体育協会に加入。現在は大津市、彦根市、野洲市、高島市で、市体育協会に加盟しております。

大津市体育協会には、淡海太極拳クラブ、大津太極拳倶楽部、瀬田太極拳クラブの各団体が所属、大津太極拳協会の役員体制は以下の通りです。

会 長：初田 茂（淡海太極拳クラブ）

副 会 長：沼田 文子（瀬田太極拳クラブ）

事務局長：藤堂 信行（大津太極拳倶楽部）

大津市体育協会 評議員

事 務 局：大津市大江3-30-12 初田方

545-3692

▶▶ 取り組み

滋賀県武術太極拳連盟の年間行事として、各クラブの日頃の練習の成果を発表する「交流会」を毎年開催しています。今年は例年8月実施のものをコロナの影響で10月25日に高島市の今津で実施し、連盟所属団体の会員600名余りが参加し、交流、親睦を深めました。また、講師を呼んでの技能向上や、検定試験の開催も年間の大切な事業ですが、高齢化の影響で減少傾向です。

60歳以上の同好の人たちの競技会となる、「近畿シルバー太極拳競技大会」は、近畿を持ち回りで担当し、滋賀でも過去4回開催しました。

スポレク滋賀2008で、ジュニアの普及に挑戦した子供たちの太極拳が今も続いており、瀬田公民館で練習を重ね、地元の運動会・文化祭にも演技を披露、種目も増やして認定試験にも挑戦しています。



▶▶ 現 状

県民総スポーツの祭典の参加種目として2月に県連主催の競技大会を開催。上位の入賞者は滋賀県代表として、全日本の競技大会や、スポ・レク祭、ねんりんピックの選手として出場します。

太極拳は年齢を問わず始められるスポーツなので練習に励むことで、級・段の認定を取得し、審判や、指導者として、後進の指導に励むことはもちろん、大会での上位入賞により滋賀県の技能レベルを全国に発信することができ、地域での貢献、生きがい、やり甲斐に繋がるものと、それぞれが頑張っています。

大津市体育協会に加盟する団体は3団体で会員の数もこじんまりとしていますが、ジュニア、青年男女、壮年、シルバーと年齢を問わず毎週の練習に励み互いの親睦を深めています。

今後の課題は、やはり技能の向上と、多くの皆さんに太極拳を知ってもらうことです。

▶▶ 今後の方針

ゆったりした動きの普及太極拳も全身の筋肉を使います。健康スポーツとして男女、年齢を問わず愛好者が増えてきております。

地域の文化祭や、運動会でかっこよく演技を披露し、皆さんにやってみたいと思わせる取り組みをしています。また、動きが早く、難度の高い、若い人たちに人気の太極拳については、高校や大学のクラブ活動として取り入れられているところもあります。

小・中学校にもニュースポーツとしてクラブ活動での普及が今後の課題で、そのための指導者の養成にも取り組みます。2025年の滋賀国体も期待しています。

自らの規則正しい生活を支え、学ぶことの楽しみを通じ、健康増進と、技術習得による級や段位の取得が、やる気や、やりがいを生み出す健康スポーツとして今後も普及、拡大に努めてまいります。

大津市グラウンド・ゴルフ協会

会長 / 井上 弘

▶▶ はじめに

大津市グラウンド・ゴルフ協会は、平成5年4月(1993)に設立し、現在27年が経過しました。

〈役員〉

会 長	井上 弘	総務委員長	森崎 章弘
副 会 長	辻田 修治	競技委員長	山本 泉
副 会 長	乾澤 正和	競技副委員長	小原 忠
会 計	宿谷 祐弘	女性委員長	国江千代子
会 計 次 長	奥野 努	女性副委員長	藤原 珠恵
事 務 局 長	多田 進	特命役員(広報)	小林 美久
事務局次長	土井 敬一	特 命 役 員	川端三枝子

〈会員数〉令和2年現在18クラブ(学区単位)356名

▶▶ 取り組み

- ①平成26年5月、当時の会長の意欲的な推進力や地元県議員の熱意、役員有志の助力によって真野地先の春日山公園(県有)に念願のG・G場が実現。(誰でも利用可能)
- ②誰でも、気軽に楽しめる生涯スポーツとして市民愛好者の拡充と協会への加入促進をめざし、市体育協会の後援を得てG・G教室を開催。(毎年)
- ③協会設立20周年(平成25年)及び同25周年(平成30年)の記念事業として記念式典や記念G・G大会を開催。更に25周年は記念誌を発行。
- ④魅力ある協会の組織づくりと新会員の加入推進を図るため、平成25年度から女性部を設置するほか、広報部を設け、年3回広報の発行やロゴマーク、G・G声援歌を作って喚起に努めている。
- ⑤社会貢献活動として平成26年からホールイン・ワン基金の積み立てや「車イスを贈ろう」の運動によるアルミ缶回収を行い、社協を通じて市内の全市民センターと身障更生会に車イスを寄贈。また平成23年の東日本大震災に30万円、令和元年の台風19号の被災地に20万円の義援金を日赤大津市地区を通じて寄託。



▶▶ 現 状

国、県、市の大会及び他市との交流で会員が多く、機会に積極的な参加が可能になるように努めている。

- 年2回(春・秋)決勝大会
- チャンピオン大会
- 月例会、(中・南)各ブロック交流会、各月1回
- 春日山交流会、月1回
- クラブ対抗団体戦、役員交流会
- 大津市レディス大会
- ふれあい旅行(1泊又は日帰り旅行)
- 大津市・高島市交流会
- 県大会(春・秋決勝大会) 地区予選あり
- 県民体育大会(令和2年 準優勝)
- びわこ選抜大会
- 全国レディス交歓大会
- 国民体育大会(国体開催府県)
- 健康福祉祭(ねんりんピック)
- 関西シニアマスターズ大会
- 県G・G指導員研修交歓大会
- 近畿地区G・G交歓大会
- 全国G・G交歓大会
- 県G・Gレディス交歓大会他
- 1級・2級・3級普及指導員講習会参加

▶▶ 今後の方針

10年間の展望と活動課題

- ①若年層から高齢者までの生涯スポーツとして普及活動の推進。
- ②当協会のクラブ単位は小学校区としているため、未加入学区への組織づくりの推進。
- ③県大会が開催できるG・G専用グラウンドは市のご尽力により県都に相応しいものを新設しようと計画されているので、事業推進の円滑化のために協力する。

★大津市民なら誰でも、加入できます

大津市ドラゴンボート協会

会長 / 細川 源太郎

▶▶ はじめに

大津市ドラゴンボート協会は、一般社団法人滋賀県ドラゴンボート協会が主管する「びわこペーロン」や「びわ湖ドラゴンキッズ選手権大会」「びわ湖ドラゴンボート1000m選手権大会」「スモールドラゴンボート日本選手権大会」を補佐し、現在に至っている。

大津市ドラゴンボート協会の役員は、一般社団法人滋賀県ドラゴンボート協会の役員も兼務しながら、

会 長：細川 源太郎

副 会 長：仲野 薫、東 晃、杉江 秀樹、富波 義明

理 事 長：磯田 英清 事務局長：山脇 修錬

の役員が中心になり組織を運営している。

▶▶ 取り組み

中国湖南省から寄贈されたペーロン艇2隻がもとになり、平成3年より「びわこペーロン」を開催している。ペーロン競漕のルール等を統一し、競技スポーツとして確立させたのがドラゴンボート競漕で、競技力向上のために選手権大会として開催している。

選手権大会は、びわこボートレース場で10人漕ぎの日本一を決める「スモールドラゴンボート日本選手権大会」、小学生と保護者がチームを組んで競漕する「びわ湖ドラゴンキッズ選手権大会」、琵琶湖漕艇場で直線1000mの競漕をする「びわ湖ドラゴンボート1000m選手権大会」等をおこなっている。

大津市ドラゴンボート協会は、一般社団法人滋賀県ドラゴンボート協会が主管している全ての大会を全面的に補佐している。



▶▶ 現 状

「びわこペーロン」「びわ湖ドラゴンキッズ選手権大会」「びわ湖ドラゴンボート1000m選手権大会」「スモールドラゴンボート日本選手権大会」等の大会をおこなっている。令和2年は新型コロナウイルスの影響で大会開催を自粛したが、「びわ湖ドラゴンボート1000m選手権大会」のみを、参加募集地域を滋賀・京都に限定して開催した。ドラゴンボートは、日本一の琵琶湖で取り組める水上スポーツの中で、一番簡単に初めての人が乗艇できる。この特徴を活かして、子ども達からシニアまで幅広く参加することができる大会を開催している。現在は、新型コロナの影響があり、感染予防対策をしながら、練習会や大会等をすすめていく。

▶▶ 今後の方針

ワールドマスターズゲームズ2021関西が、新型コロナウイルス感染予防の影響で2022年に延期になった。大津市がドラゴンボート競技の開催会場になっており、海外や国内より、多くの参加者を集めて開催する予定である。

この機会に、より多くの皆さんにドラゴンボートの楽しさやすばらしさを感じてもらい、さらなる普及をはかりたい。また同時に、琵琶湖の大切さを伝え、琵琶湖の環境を守る意識の向上につなげていく。



大津市ダンススポーツ連盟

会長 / 山下 英利

▶▶ はじめに

平成19年2月1日、滋賀県ダンススポーツ連盟の傘下団体として発足、同年3月23日、大津市スポーツ協会(旧大津市体育協会)加盟、今日に至ります。

○組織

会 長：山下英利
副 会 長：大平よしこ
理 事 長：中村公一
副理事長：川尻恒久・松岡義明
事務局長：木谷敏雄 (総務部長兼務)
総務部長：(副)村田洋一・(副)鈴村正彦
技術部長：的場正夫
事業部長：左近定司・(副)吉田明美
会計部長：倉垣玲子・(副)里見優子
会計監査：内山佳代子
理 事：西垣富雄・貴田悦子・岡部建一
橋辺昌子・森井英実・中村美恵子・松岡輝美

▶▶ 取り組み

1. 大津市長杯争奪戦&ダンスフェスタ
毎年7月に瀬田公園体育館にて開催
2. 第62回県民体育大会よりダンススポーツの部が平成22年3月28日に瀬田公園体育館にて開催
総合優勝し以降10連覇
3. 講習会
毎年6月に市民文化会館に於いて、スポーツとしてのダンスを広げる為に講習会を開催している。
4. 平成20年より、ジュニアの育成に取り組み、現在ジュニアのサークルも連盟加盟サークルとして活動
5. ねんりんピック、都市対抗戦への参加



▶▶ 現 状

平成2年はコロナ禍に於いて、総ての催し(競技会、講習会、パーティ)等が中止になりました。兎に角『密』になりやすいので仕方ないですが、本当に残念です。来年からは新しい気持ちで取り組みます。

1. 大津市長杯争奪戦としては、今回は40周年でもあり、より多くの参加者を募ります。
2. 県体連覇を目指します。
3. 一般成人や高齢者向けに、生涯楽しめるスポーツとして、健康で正しいダンスの普及の為講習会を実施します。
4. ダンス関係者(競技者も含め)の高齢化が進む中、若者の参加を目指します。

▶▶ 今後の方針

少子高齢化が進む中、子供から高齢者まで誰もが楽しめる生涯スポーツとして、地域スポーツの一つとして、又ダンススポーツが総ての人にとって、各々人生を豊かにしてくれる『かけがいのない存在』で、ありつづけられるよう次の世代に伝える活動を行います。

1. 県体や国体につながる選手の育成強化。
2. 高齢者の生涯スポーツとして、健康維持のため普及拡大を目指します。
3. 加盟サークル、協力サークル、非加盟サークルを問わず、正しいダンスを誰もが楽しく踊れるよう活動していきます。

大津市少林寺拳法協会

会長 / 岡部 弘志

▶▶ はじめに

少林寺拳法は、1947（昭和22）年に、自信と行動力と慈悲心を持った、社会で役立つ人を育てる「人づくりの道」として、創始者・宗道臣によって創始された日本の武道である。

大津市では、昭和50年に活動を開始し、昭和61年には大津市体育協会に加盟。大津市における少林寺拳法の普及発展と、会員の心身の健全な発展に寄与してきた。

現在の役員は、会長：岡部弘志、副会長：若林武彦・八軒哲也、理事長：岩本剛、事務局長：澤田良和である。

▶▶ 取り組み

平成27年からスポーツ少年団の活動を開始し、青少年の活動を強化してきた。

毎年6月に実施される県民体育大会（全国大会予選）では、常に大津市が総合優勝を果たしており、全国大会においても上位入賞するなど、これまで素晴らしい成績を収めている。

また、毎年12月には大津市少林寺拳法協会主催の『大津市少林寺拳法協会合同稽古』を開催するなど、協会の全会員が集い、演武大会等を実施している。

現在は比良・堅田・坂本・皇子山・瀬田において協会会員が元気よく、日々修行に励んでいる。



▶▶ 現 状

当協会では、毎年8月に武道館で開催される全日本少年少女武道錬成大会（文部科学省後援）や、13回目を迎えた全国中学生少林寺拳法大会に、県代表選手として多数の拳士が出場し、それぞれ素晴らしい成績を収めている。

また全国的には、平成22年に全国高等学校少林寺拳法専門部が全国高等学校体育連盟に加盟。続いて平成26年には、少林寺拳法が正式にインターハイ種目となり、千葉県成田市で『全国高等学校総合体育大会少林寺拳法競技大会』を盛大に開催されるなど、全国的な発展を続けている。

指導者育成においては、滋賀県少林寺拳法連盟による各種指導者講習会等に、当協会も積極的に参加するなど、青少年の指導体制強化に一層力を注いでいる。

▶▶ 今後の方針

当協会は、少林寺拳法を通して、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重し、これと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培うことを目指している。併せて、実践的な思考力や判断力を育み、他者を思いやりながら行動できる人物の育成を目標としている。

人間関係の希薄化などコミュニティの問題が危惧される昨今、当協会は、人と人とのつながりや地域間の交流を促進させることによって、地域の一体感や活力を醸成させ、地域社会の再生に寄与していくことを目指して、大津市スポーツ協会の一団体として、これからも努力していきたいと考えている。



大津市ウォーキング協会

会長 / 近藤 由三

▶▶ はじめに

大津市ウォーキング協会は、大津市が平成22年度から取り組まれていた「まちづくり健歩運動の推進」に協力するため平成24年3月に設立しました。

多くの市民の皆様に参加いただくべく、協会独自のウォーキング計画をはじめ、当初は大津市主催のO2健歩ウォークや市民体育大会ウォーキングなどへの積極的な協力を推進してまいりました。

平成26年度からは、協会主導で計画を立案し、ウォーキングを通じて市民の健康づくりに寄与すべく努めております。

令和2年度の役員

会 長：近藤 由三

副 会 長：中村 次郎、三澤 明美、岡村 吉郎
山本 久司、酒井恒太郎

事 務 局 長：酒井恒太郎

事務局次長：和田 克美

▶▶ 取り組み

平成24年5月に第1回の「なぎさ公園ウォーキング」を実施して以来、春の桜や秋の紅葉をめぐるコース、大河ドラマの舞台をめぐるコース、寺社仏閣等の観光名所を歩くコース等、大津市内をはじめ滋賀、京都、奈良の自然や歴史を感じることができる魅力あるウォーキングの実施に努めてまいりました。

毎回7～10キロ程度の距離を、2時間から3時間かけて歩き、参加者に無理のないコースを企画しています。

平成24年度、25年度は、年6回の実施でしたが、平成26年度からは、毎月実施しており年間平均で約700人の参加者がありました。

毎回50～60人の参加者とともに、ウォーキングを楽しんでいます。



▶▶ 現 状

本年3月から新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、9月まではウォーキングを中止せざるを得ない状況でしたが、10月よりマスクの着用、検温、手指の消毒、受付の際の密を避ける等の感染防止対策を徹底したうえで事業を再開しました。

また、コロナ禍における新たなウォーキングを目指し、これまでの集団では密になるため、少人数グループによる歩行を実施しております。

参加者は中高年が多く、早めの休憩や水分補給等無理のない行動に配慮しています。また、年間の結果をまとめた「会報」を作成し、集合写真や実施記録を掲載して参加者に配布しております。

▶▶ 今後の方針

今後も、参加者の希望を取り入れ、四季の花々に出会える道や里山の自然あふれる道、歴史を感じる街道や古道など魅力あるウォーキングコースを企画したいと考えております。

多くの市民に気軽に参加していただき「ウォーキング」の実施を通して「親睦」と「健康維持・増進」の一助になればよう努めてまいります。



スポーツチャンバラ 大津支部

支部長 / 松山 進

▶▶ はじめに

2009（平成21）年7月16日スポーツチャンバラ体験教室を開講し事後、諸準備をし同年9月から滋賀県スポーツチャンバラ協会のスポーツチャンバラ大津支部として坂本小学校体育館をメインに他、坂本市民体育館、坂本格技場、リビング（カルチャー教室）等々で稽古をしています。

2013（平成25）年5月30日付で大津市スポーツ協会に加盟

支部長（兼 滋賀県協会 会長）：松山 進
副会長 兼 事務局長：古川 昇



▶▶ 取り組み

広報活動を定期的にも実施し大津市スポーツ協会の加盟団体補助金申請制度の利用させて頂きチラシの作成ポステイング体験会の実施、他に知り合い等に声掛けブログ等々で会員の募集に傾注しております。

各大会、滋賀県大会、滋賀県県民大会、近隣の他府県の大会、近畿大会、全日本大会（神奈川県）世界大会（東京都）に選手を派遣し又、滋賀県協会会長として参加し審判にと積極的に活動している状況です。

▶▶ 現 状

- 会員の新規加入者確保を念頭に機会ある毎に広報の継続
- 体験会を開催すれば結構子供から大人まで人気があり事後継続して行く。

▶▶ 今後の方針

- 世代交代のスムーズな移行
- 青少年の育成
- 各々の上位資格（昇段、昇級）を目指しての稽古
- 各大会での常に入賞を目指した稽古の実施
- コロナ禍での感染しない感染させないをモットーに一人一人が安全安心策を講じての実施。



回り稽古（坂本小学校体育館）の様子

大津市トライアスロン協会

会長 / 柴田 智恵美

▶▶ はじめに

大津市トライアスロン協会は、滋賀県トライアスロン協会の下部組織（加盟団体）として、2016年（平成28）年3月に設立し大津市体育協会に加盟し現在に至っている。トライアスロン競技自体もまだまだ歴史の浅い種目で、オリンピックの正式競技に採用されたのは2000年シドニー大会からで、国民体育大会については2009年に新潟国体から公開競技、2016年の岩手国体から正式競技になった。滋賀県においては、1985年に湖北で初めて、Ironman Japan in LakeBiwa大会が開催され13年間継続された。この頃から県内で多くのトライアスリートが誕生し、現在県内には300名近く、大津市においては、60余名の登録会員がいる。

会長：柴田 智恵美

副会長：原田 雄二（事務局長兼任）

理事長：室谷 浩二



▶▶ 取り組み

トライアスロンは、水泳、自転車、ランニングの3種目を一人で行うスポーツで、体にバランスの良い競技である。生涯スポーツとして高齢になっても継続している選手も多い。

水泳においては、テクニカルな要素が重要なため、月例のスィム練習会を県トライアスロン協会と協力して旧富士見市民プールで約10年間実施していた。しかしながら、新プール（スポック富士見）になってからは、幾つかの制約のため、数回の実施後、2020年度からは中断している。トライアスロンを安全に楽しくできるように是非ともスィム練習会を再開すべく取り組んでいる。

ワールドマスターズゲームズ2021関西のトライアスロンレース勧誘についても、市民スポーツ課と連携して誘致したが残念ながら実現には至らなかった。



▶▶ 現状

現在は、県トライアスロン協会との連携した取り組みが多く、単独組織としての講習会、練習会、ジュニア育成や強化などへの取り組みが不十分であるので、これらを改善していきたい。

2020年は、新型コロナウイルス（COVID-19）感染症拡大防止のため、県内の近江八幡大会や高島大会をはじめほとんどの大会が中止となった。選手のモチベーションも下がる中、8月と9月にトライアスロン練習会、11月にはデュアスロン（ランとバイク）練習会を開催し、選手にレース感覚を養ってもらった。

トライアスロンは、3種目の複合競技なので、各種目（水泳競技、自転車競技、陸上競技）の競技団体との連携を図り、選手の育成・強化を早急に図っていきたい。

▶▶ 今後の方針

2024年から1年延期になった2025年の第79回国民スポーツ大会トライアスロン競技において、大津市から代表選手を出せるようにジュニア選手の育成や、現在エリートレースで活躍している大津市出身選手（ふるさと選手）のサポートをしていきたい。

県内の強化拠点やクラブが、高島市、長浜市には存在するが、大津市においても早い段階で強化拠点（クラブ）を作り、小学生から成人までを対象に育成・強化を図ると共に、一般のトライアスリートが安全に楽しく取り組めるように講習会や練習会を定期的で開催し、普及活動に力を入れたい。そのために、JSPOトライアスロンコーチ資格の取得、JTU公認審判員の養成など指導者の育成にも力を入れて、早い時期からトライアスロンに取り組み、3種目にバランスの取れた選手を育てると共に、安全に楽しくできるような環境を確立したい。

大津市エアロビック連盟

会長 / 山岡 雅子

▶▶ はじめに

平成29年、滋賀県エアロビック連盟の下、大津市エアロビック連盟が発足いたしました。

少しでも多くの方々にエアロビック体験をしていただけるよう月1回の教室の開催を目指して活動しています。

現在は会長、副会長ともに指導員で各自教室の他、ボランティアでの地域との関わりや、健康教室等の講師をするなどの活動をしています。

事務局長は教室開催の運営や会計管理等をしており、ほか複数名在籍する指導員も、スタッフとして教室開催にあたっております。

▶▶ 取り組み

「いつでも、どこでも、だれでも」手軽に出来、続けることができる「有酸素運動」と「筋肉低下予防」の軽運動であるスローエアロビックの普及に力を入れています。

特に高齢者の方々や運動不足の方々に少しでも多く普及できるよう取り組んでいます。それに伴い、高齢者施設関係者や地域の健康増進を牽引するスローエアロビック普及のリーダー育成を目指しています。

▶▶ 現 状

まだまだ知名度が低いため、イベント・教室等の参加者を募るのが大変な状況です。

一度体験していただくと楽しいと感じていただけるのですが、そこまでをどのようにしていくかが課題です。出来るだけ高齢者施設や地域へ足を運び、普及するよう心掛けております。

▶▶ 今後の方針

現状でも触れましたが、やはり知名度をあげるための努力を続けていきたいと考えております。

一人でも多くの方々に体験していただける場をつくるために、例えばスポーツを始める前のウォーミングアップとして使っていただく、学校等のダンス授業に取り入れてもらう、あるいは家の中でも気軽にできるようなプログラムを作成するなどして、体力づくりに尽力していく所存です。

また高齢化社会と健康寿命に備える運動としてスローエアロビックを提唱していきたいと考えております。

大津市バウンドテニス協会

会長 / 松岡 伸二

▶▶ はじめに

バウンドテニスは、当初バウンドテニス愛好者が瀬田公園体育館ではじめてから20年以上がたち、和邇市民体育館でも活動するクラブが充実し、生涯スポーツとしての普及拡大に加えて競技スポーツとしての活動も重要との認識で活動して参りました。

バウンドテニスも、2025年（当初2024年）の滋賀国体開催時の公開競技種目に認定されましたことを受けて、バウンドテニスの強化拡大を図るべく、大津市スポーツ協会への加入をお願いし、2017年に加入承認を頂き以後独自行事計画を立案実行し現在に至っております。

【現在の組織】

会 長：松岡伸二（副）北村敏子
理 事 長：吉田恵子（副）山口勝敏、石橋達也
事務局長：山下初江（副）門川啓子
顧 問：高橋敏夫
監 査：猪野義純、野口信子

▶▶ 取り組み

大津市スポーツ協会加入後を振り返りますと、大津市バウンドテニス協会設立と同時に大津東ロータリ様主催行事としてバウンドテニス大会のお声掛けを頂き、バウンドテニス親善交流大会を開催致しました。以後毎年恒例行事と致しまして下記の大会を開催しております。また、会員各位の技術力向上を図るべく、合同練習会等を計画し、会員各位の技術力の底上げを重点的に活動して参りました。

- バウンドテニス親善交流大会（瀬田公園体育館）
- バウンドテニス合同練習会（瀬田公園体育館）
- バウンドテニス技術講習、親善交流大会
（皇子が丘公園体育館）
- 淡海杯バウンドテニス親善交流大会
（皇子が丘公園体育館）



▶▶ 現 状

バウンドテニスは1980年に考案され、40年になります。がまだまだ知名度が低いのが現状であり、各地域での初心者体験の場を設けたり、イベント要請を受けて体験の場を増やしております。

独自の活性化としては、滋賀県選手権大会出場、近畿選手権大会出場、更には東京で開催されます全日本選手権大会への出場と精力的に活動を進めて参りました。技術力の向上の努力もあって、近年では近畿選手権大会においてはシニア、ミドル、フリーの部で優勝並びに上位に並ぶまでにレベルアップして来ました。

さらなる技術力向上を目指して、3年前から「淡海杯」と銘打って1年に一度近畿圏、北陸、中部、関東方面からも参加頂き、皇子が丘公園体育館をお借りして150名近くの参加者を迎えて盛大な大会を進めて参りました。

▶▶ 今後の方針

現状の課題と致しましては、会員の平均年齢が68歳と高齢化して生涯スポーツとしての意義はなすものの、半面競技スポーツとして両立させる為には若年層の加入にも力を注いで行かなければなりません。

近年では、日本バウンドテニス協会の推奨で、ジュニア普及と指導の要請があり、各地域においても活動がなされて参りました。この様な環境を踏まえて同行保護者に興味を持って頂き会員登録の拡大につとめて参りますと同時に、生涯スポーツとしての意義も踏まえてシニア層での会員拡充を進めて参ります。

大津市小学校体育連盟

理事長 / 小松 且弥

大津市小学校体育連盟

躍 動

大津市小学校体育連盟は、運動大好き大津っ子を応援しています！

(<http://www.otsu-syoutairen.jp/supertry/supertry.html>)

▶▶ はじめに

大津市小学校体育連盟の現在の組織は、会長以下、六つの専門部からなる。

会 長：梅井俊仁

副 会 長：中濱義明、内藤康司、藤橋靖弘

理 事 長：小松且弥

副理事長：吉田昌平、大崎聖子

専門部長：(陸上) 角裕、阪本遊太

(水泳) 北尾愛子、岡山駿

(調査) 河村優香、中原佑麻

(体力向上) 北脇俊宏、神田絵莉

(研究・研修) 伊吹亮太、杉澤大輝

(広報・交流) 塩崎由梨、中村晋作



▶▶ 現 状

大津市小学校体育連盟が行う事業の中でも大きなものとして、陸上記録会や水泳記録会があった。しかし、近年、熱中症対策の観点から陸上記録会は秋開催から春開催となり、水泳記録会は平成30年度より中止をしている。公認の会場で児童が自分の力を試す貴重な場であったが苦渋の決断であった。

そんな中、体育授業で使える運動プログラムの開発、体育の苦手な教員・若手教員向けの研修会の開催、元氣な湖っ子(体育DVD)の普及活動等に取り組み、体育を頑張ってみようとする教員の研鑽の場となっている。また、平成28年度から冬の体力向上の発表の場として『大津スーパーストライチャンピオン大会』というなわとびの大会を新たに生み出し運営している。

▶▶ 今後の方針

コロナと共に生活するという新しい生活様式を取り入れながら、子どもが生涯にわたって運動に親しみ健康な生活を営めるよう、その基盤作りのために、学校体育の充実、そのための教職員の指導力向上に今後も取り組んでいきたい。また、子どもが目標としている記録会や大会の場の提供とともに、WEB上で競い合える記録会の開催やソーシャルディスタンスを取りつつ行うことができる遊びの開発、家族や一人で家でも取り組める運動動画の作成・普及を促進していきたい。

今後も全ての子どもが運動の楽しさと出会い、主体的に取り組めるよう、活動していきたい。そして、生涯運動に親しむ習慣作りに努めていきたい。

▶▶ 取り組み

大津市小学校体育連盟は、大津市小学校体育の健全な普及発達を助成することを目的とする。その目的を達成するために、次の4つの事業を行う。

①教職員および児童の体育振興に関する各種行事の開催

②体育思想の普及啓発

③体育団体相互の連絡

④その他連盟の目的達成に必要な事項

具体的な活動としては、水泳記録会・陸上記録会の開催に加えて、平成28年度から『大津スーパーストライチャンピオン大会』を立ち上げた。「陸上でも水泳でもなく、コツコツと体力向上を目指している子どもが脚光を浴びる大会を！」という考えの下、企画し開催した。MC方式を採用し、水泳・陸上記録会とは違った雰囲気での運営を行っている。今年度5回目を迎え、大津市小学校体育行事の新たな伝統となりつつある。また、令和元年度には、第63回全国小学校体育科教育研究集会・大津大会を開催した。全国各地から700名の参加者を迎え、大津の体育の取組を報告する開催地発表や大会の運営を全面的に行った。



大津市中学校体育連盟

会長 / 竹橋 清隆

▶▶ はじめに

本連盟は昭和24年に国立1校、大津市立3校、私立1校の5校が加盟郡市中体連（支部）として発足しました。その後、大津市への町村合併や分離による加盟校の増加が進み、令和2年度現在では、国立1校、大津市立18校、私立2校の加盟校21校をもつ県下最大の支部として活動しています。

本会は、大津市内の中学校教員を持って組織し、役員として、会長は校長会において推挙し、副会長は会長を除く学校長があたっています。予算においては、大津市から活動助成金、運動部活動競技力向上事業費等の補助をいただきながら、中学校の運動部活動を中心に体育・スポーツの充実発展に向けた取り組みを行っています。

● 10年間の会長 平成22年～令和元年（敬省略）

平成22年度～	岩見 弘	平成29年度～	大西 保
平成25年度	藤田 隆	平成31年度～	竹橋 清隆
平成26年度～	高野 清		

▶▶ 10年間の取り組み

平成22年度—男子柔道55kg級（比叡山）で全国大会優勝。男子バドミントン団体（日吉）で全国大会優勝。

平成23年度—陸上男子4×100mリレー（田上）で全国大会優勝。男子バドミントン団体（日吉）で近畿大会優勝。

平成24年度—男子バレーボール（皇子山）で全国大会優勝。陸上女子100m（日吉）で近畿大会優勝。男子バドミントン団体（南郷）で近畿大会優勝。

平成25年度—陸上女子100m（日吉）で全国大会・近畿大会優勝、女子走高跳（志賀）で近畿大会優勝。男子バドミントン男子団体・ダブルス（南郷）で近畿大会優勝。

平成26年度—陸上女子100m・4×100mリレー（南郷）で全国大会優勝。陸上女子100m（日吉）で近畿大会優勝。男子バドミントン団体（日吉）で近畿大会優勝。

平成27年度—陸上女子200m（南郷）で全国大会優勝。陸上男子100m（日吉）で近畿大会優勝。男子バレーボール（皇子山）で近畿大会優勝。

平成28年度—陸上男子100m（日吉）、男子1500m（南郷）で近畿大会優勝。水泳男子個人メドレー（真野）で近畿大会優勝。

平成29年度—男子バドミントン・ダブルス（仰木）で近畿大会優勝。テニス・シングルス（青山）で近畿大会優勝。

平成30年度—スポーツ庁より『運動部活動の在り方に関

する総合的なガイドライン』。適切な休養日等の設定など運動部活動改革に向けた具体的な取組が示される。

ボート男子シングルスカル（打出・瀬田）、ダブルスカル（瀬田北）、女子シングルスカル（瀬田北）、女子舵手付きクォドルプル（瀬田北）で全国大会優勝。

平成31年・令和元年度—近畿総体が本県で開催。同大会にて競泳女子100mバタフライ（瀬田北）優勝、柔道男子73kg級（田上）優勝。ボート男子ダブルスカル（瀬田）で全国大会優勝。

▶▶ 令和2年度大津市中体連の主な活動

4月	大津市中学校体育連盟総会（代議制）
5月	滋賀県春季総体 …中止
6月	大津市中学校総合体育大会（陸上） …中止
7月	大津市中学校総合体育大会（兼夏季総体予選） …中止
8月	近畿総体・全国大会 …中止
9月	滋賀県秋季交流会（水泳・飛び込み）
10月	滋賀県秋季交流会（2ブロック）
11月	大津市・滋賀県中学校駅伝競走大会
12月	
1月	近畿総体及び滋賀県中学校冬季大会（スキー）、全国大会（スケート）
2月	全国大会（スキー）
3月	年度末総会（代議制）及びあゆみ編集
年間を通じての各専門部の強化練習会及び理事・専門委員長会・研究委員会の開催	

▶▶ 今後の方針

大津市は、子どもが未来に向かって夢と志をもち、さまざまなことに心豊かにたくましく挑戦する意欲と能力を備えていける教育をめざしております。本連盟においては、心身ともに健康な子どもたちの健全育成のために運動部活動が大変大きな効果をもたらすものであると確信しています。運動部活動における課題は様々ですが、学校教育活動の一環として、これまでに中学校教育の中で果たしてきた役割は大変大きく、意義深いものであると感じております。

中体連の大会が運動部活動の発表の場であるという位置づけを確固たるものとし、運動部活動が人格形成や心身の成長を促すものとして、生涯スポーツ活動の普及発展のための取り組みを今後も続けていきたいと考えております。

大津市スポーツ少年団

本部長 / 小野 清司

▶▶ はじめに

昭和47年に設立されて以来、令和3年度には創立50周年を迎えます。

団数38、団員数2,633名、指導者等825名という大きな所帯を、本部長、7名の副本部長、理事長、6名の副理事長、幹事、事務局長、局員、33名の理事、2名の監事事務局の総勢53名という布陣で支え、自主運営をしています。

38団の内訳は、小学校単位で構成されているものが33団、大津スキーのようにオール大津で構成されているのが5団です。

団員の後ろには、それぞれの保護者(育成母集団)や地域の皆様にも支えられている大きな青少年育成の為の団体です。

▶▶ 取り組み

日本、県スポーツ少年団の3つ理念「一人でも多くの少年・少女にスポーツの喜びを提供する」「スポーツを通じて少年・少女の『こころ』と『からだ』を育てる」「スポーツで人々をつなぎ、地域づくりに貢献する」を不易とし、幼児期からの運動遊び、有資格制度変更に伴う対応、指導者の活動(ガイドライン)や指導者倫理規定の遵守は流行(現代的課題)として対応しています。

創立40周年では、草野健次氏の講演「スポーツで育てるこころ」には400名を超える参加者を得たり、3月11日に発生した東日本大震災を受けて11月には大津に来ていただいた宮城県スポーツ少年団顧問の岩淵敬一様から「命の大切さ」についてお話をいただき、市スポ少全体として被災地を応援しました。

創立45周年は、京都サンガF.C.普及部長の池上正氏による『子どもの力を引き出す大人のおきて10』の講演会を行いました。

年2回の団長会議、毎月の理事会を中心に活動の柱を立て、専門の種目の他に「湖国山景ハイキング」「みずべで遊ぼう」「駅伝大会」「スケート・スキー体験教室」等でスポーツで心を豊かにしています。



スケート体験教室



45周年記念大運動会 5分間走

▶▶ 現状

この10年間に団員数は4,019名→2,633名に、指導者数は987名→825名と減じています。

少子化、クラブチーム化が進む中で幼児期からのスポ少登録に向けた研修やスポーツ少年団活動の理念、目的の再確認を目指した団長研修会の充実に努めています。

東京オリンピック・パラリンピックを控えて指導者制度が改訂され、科学的根拠に基づき個々の団員に寄り添った指導と組織的に活動することが益々求められる時代になってきました。

そして令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のために様々な取り組みを自粛せざるを得ない状況になってきました。団員の安全確保を構築していくガイドラインづくりも急いでいます。

一方、大津市のリーダー会が全県的に活躍していることから、将来の指導者として大いに期待しています。

▶▶ 今後の方針

令和3年度は本団創立50周年を迎えます。半世紀に及ぶ活動の振り返りを行い、次の50年に向けて力強くスタートの出来る年にしたいと考えています。

具体的には「今後のスポーツ少年団あり方検討委員会」では、学識経験者、現場の指導者、育成母集団、団員を中心に新たな進むべき中期計画を策定します。

さらに、東京オリンピック・パラリンピック記念事業(仮称)を行い、そのレガシーについても学んでいきます。

記念冊子の作成では5年毎にその歴史をしっかりと残し紡いでいますので、今回は50年の歴史を総括的に見直す貴重な資料になっていくと思います。

50年の財産の上に立脚し、今後も社会有為で心豊かな人間の育成に向けてスポーツを通して、真摯に活動を進め、地域や大津市になくてはならない団体として活動していく所存です。

大津市スポーツ推進委員協議会

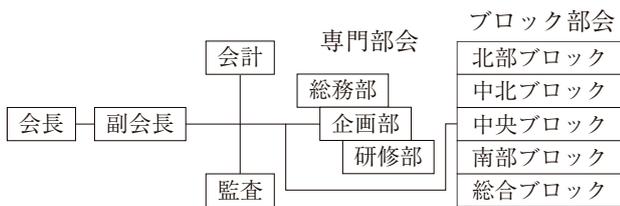
会長 / 山口 昭二

▶▶ はじめに

スポーツ推進委員の前身である体育指導委員制度は、昭和32年4月、「地方スポーツの振興について」の文部省事務次官通達によって発足し、非常勤公務員として、地域スポーツの拡大発展に大きく貢献してきました。平成23年8月24日には、国及び地方公共団体の責務やスポーツ団体の努力などについて定めた「スポーツ基本法」が施行され、本法の附則では、スポーツ振興法にうたわれた従来の体育指導委員は、スポーツ推進委員とみなすと規定されています。

大津市においても、スポーツ基本法の規定に基づき、平成26年4月から、大津市規則第64号に、「大津市スポーツ推進委員に関する規則」を定めています。

大津市スポーツ推進委員協議会は以下の組織で活動し、現在、各学区選出36名、市スポーツ協会選出1名、市障害者スポーツ協会選出1名、大学推薦4名、地域スポーツ団体選出2名、公募2名の計46名でスポーツの普及と振興に努めています。



▶▶ 取り組み

大津市スポーツ推進委員協議会では、大津市学区対抗スポーツ事業の主管を担い、大津市民体育大会等の全市的事业運営の一翼を担っています。具体的には、学区対抗ビーチバレーボール大会、市民駅伝競走大会、チャレンジ比良登山大会※1、びわ湖毎日マラソン大会等市主催共催事業を支援しています。また、大津市総合型地域スポーツクラブでは指導的な立場で、学区体育団体における事業や、各ブロックにおけるニュースポーツイベントにおいて協力支援しています。

※1 2018年度で大会終了



▶▶ 現状

大津市スポーツ推進委員協議会として、平成20年から大津市型のニュースポーツとして考案した「スリースマイルゴルフ」を展開しており、年に一度、市民を対象とした大会を開催しています。また当種目は、2025年に滋賀県で開催される国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会のデモンストラーションスポーツとして実施を予定しています。

ニュースポーツ以外にも、気軽に運動を始めるきっかけづくりを目的に、平成28年度から各地域のオススメスポットをめぐる「地域いきいき健康マップ」を作成し、令和元年度に全中学校区18マップが完成しました。マップは大津市のHPにも掲載しており、多くの方にご活用いただいています。

また、平成29年度からは、気軽に体を動かせる運動として、「出張！体力測定」を年間2回程度実施し、地域に向いて体力測定を行っています。

▶▶ 今後の方針

平成23年にスポーツ基本法が施行されてから約10年が経過しました。今後もスポーツ推進委員協議会は地域スポーツ振興の推進者としての役割を自覚すると共に、総合型地域スポーツクラブの更なる推進、平成28年に作成された「大津市スポーツ推進計画」の目標に向けた活動への協力等、地域住民の多様なニーズに応えるべく活動していく必要があります。その為に、これからもスポーツ先進地視察や研究会等を通じて資質の向上に努めていきます。

また、これまでの取り組みのテーマとしてきた「いつでも・どこでも・だれでも」気軽に楽しめるスポーツを継続し、スポーツ弱者に目を向け、幅広い層の方々にスポーツを楽しんでいただけるような事業を展開していく必要があると考えています。平成28年度より作成した「地域いきいき健康マップ」を活用した事業等、コストのかからない身近で継続的に行っている運動としてのウォーキングや、スリースマイルゴルフだけではなく、新たなニュースポーツ等の積極的な推進に一層力を入れていきたいと思っております。

大津市レクリエーション協会

会長 / 菅谷 正子

▶▶ はじめに

大津市レクリエーション協会は、昭和40年に発足し、当時は会員数も千人を超える組織であり、昭和56年に滋賀県で開催された第36回国民体育大会（びわこ国体）では、主会場となった皇子山陸上競技場での開会式において、当協会所属の「大津市民踊団体連合会」の指導のもとに県下女性団体による「江州音頭」の集団演技が催され、全国から称賛を浴びたところです。

その後も、当協会所属の「レークサイドスクエアーズ」が、皇室もご来臨いただく中で市内ホテルにおいて「全日本SDコンベンション」を開催するなど、所属団体が活発な活動を続けてきた歴史ある協会であります。

▶▶ 取り組み

昭和後期には、従来のレクリエーションにインディアカやパタンクなどの「ニュースポーツ」活動も盛んになり、当協会への加盟団体も増加傾向にありました。

しかしながら、平成期には少子高齢化や余暇活動の多様化、IT化の進展による携帯電話やコンピューターの普及など社会活動に大きな変化が生じ、従来型のレクリエーション活動にも影響が出始めました。

このような中で、毎年ウォークラリー大会を開催するほか、平成20年に滋賀県で開催された「全国スポーツ・レクリエーション祭」を契機に毎年「スポレク大津」として、市民とともにレクリエーション活動を楽しみ、広く周知する催しを展開するなど年齢を問わず老若男女、親子で参加できるよう、普及活動にも努めてまいりました。



スポレク大津（毎年6月開催）



見る、知る、歩く、わたしの街大津市ウォークラリー
（毎年5月開催）

▶▶ 現状

平成28年には、スポーツとレクリエーションを互いに取り入れながら活動すべく、また大津市スポーツ協会とともに活動を推進すべく同協会の会員となり、スポーツとレクリエーションを一体化して普及・推進に努めているところです。

しかしながら、近年の顕著な少子高齢化やIT革命による生活環境・余暇活動や社会情勢・活動の変革が、レクリエーション活動に大きな影響をもたらし、従来型レクリエーション活動の改革を余儀なくされています。

▶▶ 今後の方針

将来を担う子供たちへの居場所づくり、子供たちへの元気づくりとコミュニケーションの場の提供、また、高齢者への心身のリハビリテーションや生きがいづくりの場の提供、障がい者と楽しむレクリエーション等、ライフステージに応じた心身の健康づくりと、レクリエーション・軽スポーツの場の提供と普及推進に取り組んでまいります。

小松学区体育協会

会長 / 藤原 久良

▶▶ はじめに

本会は地域住民の体位向上と健康なるスポーツ並びに体育レクリエーションの振興、並びに地域住民の団結・和合をはかることを目的に昭和48年4月1日に設立されました。平成15年4月には学区内にびわこ成蹊スポーツ大学スポーツ学部が開設されましたので、大学教員及び学生と連携してのスポーツ交流を行っています。また、平成18年の大津市との合併に伴い北部学区体育団体連絡協会に加入しスポーツを通じた交流を深めています。

現役員名簿

会 長：藤原久良

副会長：山本繁治

事務局：細川 誠

▶▶ 取り組み

地区住民すべての世代に対してスポーツの場を提供しスポーツを通じて家族でふれあえる場をつくり「いつでも、どこでも、誰でもが、いつまでも楽しくスポーツができる」を目指しています。

▶▶ 現 状

体協の拠点は小松小学校体育館とグラウンドおよび比良元気村グラウンドで、地域の活性化、地域住民のふれあいと健康促進をめざしてスポーツ活動、各種事業に取り組んでいます。現在バレー部、ママさんバレー部、バトミントン部、野球部、グランドゴルフ部、ゲートボール部、陸上部、レクリエーション部があり、各部それぞれ活動しております。

▶▶ 今後の方針

びわこ成蹊スポーツ大学との交流を深めるとともに、誰でもが楽しく参加できるニュースポーツを通じ世代を超えた地域住民相互の交流を図ることを目指していきます。



木戸学区体育協会

会長 / 松井 孝

▶▶ はじめに

わが町は、世帯数2,003世帯、人口4,635人の町で、比良山系の玄関口としてびわ湖バレイが、また琵琶湖の海水浴場として松の浦、青柳浜、蓬萊浜各水泳場があり、四季をとわず京阪神より登山やスキー、湖水浴を目的とした多くの観光客が訪れるほど、風光明媚な町であります。そうした中、木戸学区体育協会は地域で一丸となり、スポーツの推進に取り組んでいます。

会 長：松井 孝
副会長：久保潤子
事務局：中田貴博

▶▶ 取り組み

様々なスポーツを通じ、次代を担う子ども達の心身ともの健やかなる成長と、いろいろな世代を越えた地域住民の交流を図ることにより、誰もがスポーツに親しめる環境を整え、豊かな地域社会の構築に寄与することを目的に活動しています。

特に木戸学区民による運動会では、地域住民の関心が非常に高く、7つの自治会が熱い応援の中、交流を深めながら各種目を競い合い競技を楽しんでいます。

また、木戸学区内に新たにグランドゴルフ場が整備されたことに伴い、様々な年代の方がグランドゴルフに積極的に取り組んでいます。この整備を契機にもっと広い方々が気軽に楽しめるように活動を広げていきたいと考えています。



▶▶ 現 状

活動にあたっては、各自治会対抗による学区民運動会をはじめとして、幅広い年代を対象とした、各種大会を開催しています。

また、当協会が位置する地域は地理的に、近くに水泳場やスキー場があり、マリンスポーツやウィンタースポーツに取り組む環境が整っています。実際に地域の子もたちはそういったスポーツを体験し、各種スポーツを通じて子どもたちとの交流を深めています。

当協会のシンボルである体協旗はシンボルマークである「きど」の「き」は「希望」の「き」、輝く星です。「ど」は鳥を図案化したもので、この地域の平和と自然を象徴しています。また濁点は、びわ湖の波紋で飛ぶ木の葉をイメージしています。輝かしい明日を目指し、健康的で楽しいスポーツづくりをサポートします。

▶▶ 今後の方針

これから、高齢化を余儀なくされる時代へと進む中、今後の生涯スポーツ事業をどのように進めていくかが大きな課題となります。今まで以上に地域に根ざしたスポーツ活動事業を推進していくためには、これまでに培ってきた活動を継続するとともに、新しいプログラムの開発、幅広い年代をとおして交流が図れるイベントや教室を充実させ取り組みチャレンジしていく必要があると考えています。

また、当学区にて主に活動しているNPO法人をはじめ各種スポーツ団体等やびわこ成蹊スポーツ大学と今後はさらに連携を強化し、子どもから高齢者までの各世代が気軽に取り組めるような生涯スポーツ事業を推進していきます。

副会長の久保潤子氏は12月25日急病により逝去されました。ご功勞に敬意を表しますとともに、心よりご冥福をお祈りいたします。

和邇学区スポーツ協会

会長 / 嶋口 吉信

▶▶ はじめに

当会は、大津市北部に位置し、東の琵琶湖、北西に比良連峰を望む四季折々の美しさが満喫できる風光明媚な地域に、昭和35年和邇地区体育協会を設立、昭和48年に和邇学区体育協会と改称、平成18年大津市との合併、令和2年4月和邇学区スポーツ協会と名称を変更する。

会長に嶋口吉信、副会長に中野治昭・黒田祐子、理事長に嶋口浩、事務局長に橋本由樹を中心に組織を運営しています。

▶▶ 取り組み

〈学区主催事業〉

市和邇市民運動広場を中心に学区民大運動会、三世代のグラウンドゴルフ大会、第65回開催の伝統歴史ある区民野球大会等

〈ブロック事業〉

北部卓球大会、北部カローリング大会

▶▶ 現 状

誰でもが気軽に参加したい、住民が健康で安心・安全に暮らせるまちづくりを目標に3つの取り組み

- ① スポーツを通してふれあい活動の取り組み
- ② 学区民の健康体力の向上の取り組み
- ③ 青少年の健全育成の取り組み。

を念頭に事業計画を策定しておりますが、まだまだ目標達成には至っておりません。

今後も、目標達成に向け日々取り組んでいきます。

▶▶ 今後の方針

「参加する人」「応援する人」すべての人が、スポーツにかかわることにより、人と人とのつながり（絆）が生まれ、深まるやさしい社会の実現に貢献していきたい。



小野学区体育協会

会長 / 山田 洋一

▶▶ はじめに

昭和57年、小野学区体育協会を発足し、同年第1回の区民体育祭を開催。

平成18年度に大津市と志賀町の合併を契機に大津市体育協会に加入。令和3年度には、第40回小野学区区民体育祭を開催予定。

会 長：山田洋一

副会長：西山多香子、阪口麻生、中嶋友希代

東 隆司

会 計：平野一道

事務局：森 英象

役 員：15名

合 計：22名

▶▶ 取り組み

1年を通して、「グラウンドゴルフ大会」、「カローリング大会」、「男女混合ソフトボール大会」、「区民体育祭」、「親睦ゴルフ大会」などの学区内事業を展開し、学区民の健康増進と親睦を図っています。さらに、市主催の学区対抗事業（軟式野球、サッカー、グラウンドゴルフ、市民体育大会など）にも学区内のアスリートに参加いただき優秀な成績を収められ、学区間での親睦も図っています。

また、大津市北西部の学区（雄琴から以北の学区11学区）で組織する大津市北部学区体育団体連絡協議会の一員として、当該地域のスポーツ振興・発展を推進しています。

▶▶ 現 状

学区民にとって最も関心度及び参加率が高いイベントは区民体育祭です。

少子高齢化の進展が具体的に感じられるようになった近年、区民体育祭の花形である地区別対抗リレーも各年代の参加者を確保できず、否応なしに競技プログラムから外さなければならぬ残念な状況が続いています。また、天候に左右されやすい区民体育祭ですが、平成30年度及び令和元年度と2年続けて悪天候の影響により中止となりましたが小学校体育館において区民体育祭の競技プログラムの一つである「景品つり競争」のルールを変更して実施したところ、体育館に入れにくいほどの参加者を得て盛大に開催することができ、工夫一つで多くの学区民に楽しんでいただける事業ができるのだと改めて感じたところです。

▶▶ 今後の方針

少子高齢化の進展に加えて新型コロナ禍が続く中、特に新型コロナ感染症防止対策をしっかり講じた上で、子どもから大人、高齢者まで気軽に楽しく参加できるように競技内容に工夫を凝らし、少しでも多くの学区民の参加による「元気なまちづくり」を目指してスタッフ一丸となって頑張っていきたいと考えています。



葛川学区体育協会

会長 / 小西 一範

▶▶ はじめに

葛川学区は、令和2年10月現在、127世帯、224人の大津市でいちばん小さな学区です。

琵琶湖に注ぐ安曇川の源流にあり、森林に囲まれた自然の豊かな地域で、休日には川遊びの家族連れや登山客で賑わいます。

昭和42年(1967年)の協会発足当時、学区人口は1,000人を数え、運動会をはじめ各種競技も活発に行われていましたが、近年は過疎高齢化が進み、競技人口の減少と協会役員の確保が、大きな課題となっています。

現在の組織は

会 長：小西一範

副 会 長：上谷宏隆、出雲裕史

会計・事務局長：上谷美枝

で運営しています。

▶▶ 取り組み

大津市では冬期の積雪がいちばん多い地域ですから、雪を利用した競技雪合戦「スノーバトル」に力を入れてきました。以前開催の「ふれあい雪まつり」では、近隣学区の協力のもと大変盛り上がる催しの一つでしたが、近年の雪不足やイベントを支える担い手不足等が重なり、継続が困難になっています。

秋季の学区民運動会は、まだ人口が多かった昭和40年代は、たいへんにぎやかなものでした。近年は生徒数の減少や学区民の高齢化もあり、各町の対抗戦に隣接する京都市の久多地区にも加わって頂いています。

最近、高齢者層のグラウンドゴルフ人気もあり、協会の事業の一つとして、学区内のグラウンドゴルフ大会の開催に取り組んでいます。

また、大津市として取り組まれているインディアカ大会には初回から参加しており、本協会発足当初から開催されている北部卓球大会にも継続参加しています。



▶▶ 現 状

現在、葛川学区体育協会の事業で、最も力を入れているのが、学区民運動会です。

葛川小中学校の体育祭と合同開催で、一般参加の種目と学校生徒の種目とを組み合わせた、ユニークなプログラム構成となっております。参加者の年代層は幅広く、その時々状況にあわせて競技種目や内容も変えていますが、「おたのしみ抽選会」なども取り入れて、幼児から高齢者まで全員が楽しめるように工夫を凝らしております。

また、高齢者のグラウンドゴルフ競技人口の増加に伴い、10年ほど前から年に一度の学区内大会を開催しています。参加者も年々増え、現在では学区住民の約半数が参加する一大イベントです。自治連合会をはじめとして地域の各種団体の協賛を受けて賞品も年々豪華になり、運動会に次ぐ人気の恒例行事になりました。

▶▶ 今後の方針

極小規模の体育協会を存続させていくための課題は、たくさんあります。近年は、人口減少と高齢化により、多人数を要するチーム競技への取り組みは難しくなりました。また、活動を計画していくべき役員自体も同じ者が長期にわたり運営を続けて行い、新しいメンバーの補充にも苦勞しています。そうした中での活動には様々な制約がありますが、地域の諸団体、学校の先生方の協力や時には他学区の力も借りながら、学区住民の声にしっかりと耳を傾け、地域性を活かしたスポーツ振興を目指しています。

学校と共に行う運動会・グラウンドゴルフ大会は全員参加を目標に、各種大会には積極的に参加していきたいと思っています。地域の皆様のライフスタイルに合わせた生涯スポーツの推進と、ふれあいの場の提供のための活動を継続します。

伊香立学区体育協会

会長 / 河合 一清

▶▶ はじめに

伊香立学区体育協会は、昭和42年に学区住民の親睦とスポーツの普及・健康の増進を目的に設立され、以来諸先輩方よりその趣旨・熱い思いが引き継がれ今年で54年目を迎える。

【組織】

会 長：河合 一清
副 会 長：山田 一広
 中西 善之
 宮垣 進一
 龍 一朗
 山口 裕貴（会計担当）
事務局長：西村 幸弘

▶▶ 取り組み

伊香立学区体育協会は、それぞれの時代に応じて、多くの学区民の皆様の生活の一部として、様々な活動を展開してきた。

この10年の間に当体育協会は50周年を迎え、これまでの活動を踏まえつつ、「学区バレーボール大会」や「カローリング大会」などの活動を継続する他、「香の里 マラソン大会」は近隣のNPO法人BIWAKO SPORTS CLUBと連携して開催するなど、地域の資源を生かした活動を展開してきた。

また、平成18年に設立した「香の里スポーツクラブ」の活動も10年以上継続し、サッカーやバレー、バトミントン、ウォーキング等を通じ、子供から大人まで様々な世代が身体を動かす機会を提供してきた。

さらに、2018(平成30)年には、伊香立小学校のグラウンドが全面芝生となり、地域の活動拠点がますます充実してきている。



▶▶ 現 状

学区民が一堂に会しスポーツを楽しむ機会は唯一秋の学区運動会であり、毎年より多くの住民が参加できるような種目を再考・改変している。

様々な活動の機会を確保してきたものの、各種イベントの参加人数については、ここ数年停滞しており、その一因として高齢化の進展や若年層の学区外への流出が考えられる。一方で、山百合の丘の住宅開発により転入者がわずかに増加し、今後、様々な活動への参加だけでなく、担い手として参画していただけることが期待できる。

近年、健康志向を受け、老若男女を問わず、伊香立公園をはじめ学区内でウォーキングをしている人を多く見かけるようになってきた。

生活スタイルや価値観が多様化する中、今後、日常的で個人の都合に合わせてできる持続可能な健康づくりの取り組みの提案や指導も取り入れていきたい。そのためにも、多様な種目の提供や活動の場の提供など、様々な活動の担い手となり得る地域の人材発掘が急務である。

▶▶ 今後の方針

今後、ますます高齢化が進むことが予想される。

スポーツ活動の充実、学区民の健康の維持、向上に大きな役割を果たすものであり、学区民の健康寿命の延伸にも大いに貢献できるものであると確信している。

山百合の丘への転入者が増加する中、旧来の住民との連携や融和を進めるため、スポーツを通じた交流の機会の充実に努めていきたい。

学区内では、伊香立公園や伊香立小学校の全面芝生グラウンドなど、健康増進、維持活動に貢献できる環境が充実しつつある。

学区内のあらゆる世代が健康で暮らせるよう、これらの環境を生かし、ライフスタイルに合わせた生涯スポーツの推進とふれあいの場を提供するため、さらなる活動を展開していきたい。

真野学区体育協会

会長 / 北脇 善三

▶▶ はじめに

当協会は昭和37年度に発足し、今日まで美しい故郷の自然と津市で最も古い遺跡が発見されている地域で活動しています。昭和37年堅田町真野地区体育協会発足、その後昭和38年第1回町民運動会を開催しました。また、当協会は設立50周年を平成24年度に迎えました。この間、最も優秀な成績を残したスポーツ少年団ジュニアバレーは昭和47年48年県大会優勝、昭和50年51年県大会9人制の優勝をしています。

市民体育大会にでも数々の優勝を重ねております。地域スポーツにおいて少子高齢化に対応した取り組みを考え、学区全体健康で楽しい体育協会を目指し、日々取り組んでいます。

会長：1名

副会長：若干名

理事長：1名

事務局：若干名（事務局、総務、庶務、会計、広報）

▶▶ 取り組み

総合地域スポーツクラブを軸に学区市民運動会を毎年開催しています。全員参加、個人参加、いろいろなスポーツを模索しながら、自治会対抗戦を月1回行うようにしています。

また、少子高齢化が進む中、年齢問うことなくできるスポーツ、ニュースポーツ、ウォーキングに力を入れてマンネリ化しないよう工夫をしていきたいと思っています。



▶▶ 現状

16自治会があり、8ブロックに分けています。そのなかで、各種競技の対抗戦を行い優勝を争っています。

また、元気な町づくりをめざし小学生から高齢者まで参加のウォーキングを春、秋の年2回実施しています。そして、小学生から親まで参加のドッジビー、小学生から高齢者まで参加のカロリングに力をいれています。

その他、ソフトボール大会、バレーボール大会、インディアカ大会、グラウンドゴルフ大会を開催しています。

スポーツ指導員、体協所属の各部の援助をいただきながら、健康に過ごしたいと考えています。

▶▶ 今後の方針

学区民の皆さんのスポーツに対する取り組みが問題であり、その競技に関心度が高まるよう、全員で理解できるようなスポーツに取り組みたいと思っています。

まだまだ人口も増加する傾向にあると思われるので、施設の設備を十分に整え「ふれあいのある元気な町づくり」をスポーツを通じて目指したいと考えています。

真野北学区体育協会

会長 / 藤本 淳三

▶▶ はじめに

真野北学区は、昭和50年代以降に真野の丘陵地を宅地開発、現在まで3,200世帯の人々が居住する街です。

平成6年真野学区から分離し、真野北学区体育協会は設立26年になります。

会長は藤本淳三、副会長に岸田年弘、松井翔、兼先敏雄、理事長に木村重夫、会計に岡本明美、下永田知代、事務局は木田浩司、岡田康宏以下9名と各町体育理事で当たり、総役員21名で運営しております。

傘下にスポーツ少年団、卓球部、バトミントン部、グランドゴルフ部等があり各部連携協力しながら活動しています。

▶▶ 取り組み

学区民運動会は、安全運営を最優先とし町内対抗形式で行い、毎年優勝する町が代わる等、熱を帯びた大会となっております。

幼児から高齢者にも進んで参加していただけるよう、毎年学区民の意見を取り入れ、競技種目にも変更を重ねております。

春には健康スポーツデーとしてウォーキングを実施しており、真野北から比叡山横川、舞子から大溝城跡、坂本から膳所城跡、風車村からこどもの国等大津の歴史をたどりながら行い又、春秋にはグランドゴルフ大会を開催、冬にはボーリング大会を開催しております。



▶▶ 現状

真野北学区では、急速に高齢化が進んでおります。したがって体育協会では時代の流れに即して、中高年の健康管理、運動のあり方に重点を置いた行事やイベント等を増やす方向で考えております。

グランドゴルフを学区推奨の生涯スポーツと位置付けグランドゴルフ部を発足し、愛好者も着実に増えており今後とも育成発展に努めています。

真野北学区体育協会では、他の組織とも連携協力し、学区民の健康促進のため、新しい形のイベントを提案し、生涯スポーツのきっかけ作りを目指します。

▶▶ 今後の方針

今後10年真野北学区は成長から円熟期となりますが高齢者に対応するのみでなく多様化した新しい時代の交流に寄与することも責務と認識しております。

よって旧来のイベントや行事にとらわれず、魅力的な新しい提案を学区民に出す計画力と実行力が今後求められると考えます。

堅田学区体育協会

会長 / 西村 伊知朗

▶▶ はじめに

- 設立 昭和42年 4月1日
平成8年 30周年記念富士登山
平成17年 総合型スポーツクラブ活動開始
平成18年 40周年記念8時間ソフトボール
令和元年 年間行事
6月 球技大会（卓球・バドミントン・ソフトボール・ソフトバレー・グラウンドゴルフ・カローリング）
8月 湖族船競争（湖族まつり）
10月 学区市民運動会
11月 トレッキングツアー
1月 新春堅田ウォーク
2月 ボウリング大会・バレーボール大会

（役員名）

- 会 長：西村伊知朗
副 会 長：荒井忠幸 田村雅英 八木久男
鈴鹿実 高山英文
事務局長：寺嶋良行

▶▶ 取り組み

自治会員の減少に伴い各行事の参加も減少傾向で、自治会単位での参加が年々厳しく、また、高齢者の増加により以前と同様の競技志向のイベントの参加者が少なくなっており、旧来の種目は残しつつだれでも参加できるイベントづくりを進めてきました。

一方、市のサッカー大会へ、スポーツ少年団の卒団者や大学生を中心にチームを作り出場することにより、将来の堅田を担う人材育成にも努めています。



▶▶ 現 状

学区内のスポーツ施設は、天神川河川敷の運動ひろばに小中学校の体育館とグラウンドがあるだけで、小学校の体育館は既存のクラブでほぼいっぱい状況となっています。JR堅田駅西側の宅地開発など新しく学区民となる人も多く、現在の施設等の状況では「いつでも・どこでも・だれでも・いつまでも」という理念で活動は続けていますが、施設等の不足は日常の活動に影響を与えています。

▶▶ 今後の方針

引き続き、学区の行事を中心に多くの人を対象にスポーツの場を提供し、小中学校と連携して、湖族まつりでの「湖族船競争」のように堅田の特色を生かしたイベントを通じて地域の歴史や輝きを伝えられるようなふれあいの場としてのスポーツを提供していきたいと思えます。



仰木学区体育協会

会長 / 堀井 幸治

▶▶ はじめに

仰木学区体育協会は、昭和42年4月に設立以来53年を経過し、その間、バレーボール、野球、サッカー、バドミントン、グラウンドゴルフなどの競技種目及びバレーボール、野球、サッカーの3部により構成するスポーツ少年団において、それぞれ活発に活動を展開してまいりました。

組織としては、会長、副会長、スポーツ推進委員及びスポーツ振興部、学区対抗事業運営部、スポーツ少年団の3部を統括する部門統括並びに事務局を中心として運営に当たっています。さらに、常任理事として各自治会正副体育委員を、また理事として各自治会長及び幼稚園・小中学校のPTA代表に参画してもらっており、学区全体を網羅した組織体系となっています。

▶▶ 取り組み

当学区では各種球技種目が盛んですが、中でも特にママさんバレーは、県大会での優勝、準優勝や近畿大会への出場など、数多くの優秀な成績を残しております。

また、ふれあい夏まつりの一環として、グラウンドゴルフやドッジビーなどの軽スポーツ大会を実施し、世代を超えて学区民が気軽にスポーツに親しめる機会づくりに努めてきました。

その他、一流のスポーツを生で観る機会がない方も多いため、大阪でのプロ野球観戦ツアーを実施し、好評を博しました。

平成29年1月には、仰木学区体育協会創立50周年記念式典を開催し、これまでの歩みと先人のご苦勞を振り返るとともに、今後の事業運営に対し意を新たにいたしました。



▶▶ 現状

現在当学区で実施している事業の中で、一番力を入れ、また学区民の関心が高いのは学区市民運動会です。

当学区においては、5月の仰木祭、8月のふれあい夏まつり、11月の大収穫祭と並び、学区市民運動会は学区民が一堂に会する貴重な場であり、各種団体や学区内外の事業所に協力をいただき、例年10月に多くの参加者のもと盛大に開催しています。

また、グラウンドゴルフは愛好者も多く、毎月の月例会や市の大会の予選を兼ねた学区グラウンドゴルフ大会を開催しているほか、各種大会にも積極的に参加し、優秀な成績を収めています。

さらに、カローリングは、北部学区体育団体連絡協議会主催の大会への参加とともに、学区独自の大会を開催し、大人も子供も一緒になって楽しいひと時を過ごしています。

▶▶ 今後の方針

多くの学区でも当てはまると思いますが、当学区では、少子高齢化、人口減少、住民意識の希薄化が進んでいます。また、役員の高齢化や固定化など担い手不足の問題は年々深刻化して来ています。

さらに、新たに新型コロナウイルス感染症という大きな問題が発生し、今後どうコロナと向き合った中で事業を展開して行けばよいかの検討も必要です。

こうした中において、幅広い年代の参加のもと開催する学区市民運動会や各種スポーツ大会及びスポーツ少年団活動等を実施することは、学区民の健康増進、相互の親睦・交流、青少年の健全育成を図り地域の活性化に寄与する大切な役割を持っていると考えます。

このため、今後もこうした役割を果たして行くために、多くの課題はありますが、役員一同知恵を出し合い、小さな学区であるからこそその顔の見えるつながりを重視した活動を展開していきたいと考えています。



仰木の里学区体育協会

会長 / 岡野 三郎

▶▶ はじめに

仰木の里体育協会は、現在18の自治会の住民（現在約2,400世帯）で活発に活動を続け、発足から24年目になりました。また今年度後期から1自治会が増えることになりました。

新興住宅地は、世に違わず一斉に高齢化が進行しています。そこに新しい若い世帯が加わって年齢層に幅ができ、「どなたにでも」という全世代を対象にしたバランスの良い事業が求められるようになってきました。特に「健康・体力作り・親睦・交流」が深まるようにと考えねばなりません。地域でのスポーツを通してのつながりが、「まちづくり」にも生きていくことだろうと、私たち体育協会の活動に力が入ります。

会 長：岡野 三郎

副 会 長：木津 邦昭、船本 力、林 勉、

伊庭 悟、山下 邦雄

事務局長：中橋 真弓

▶▶ 取り組み

主に、学区内事業と学区外事業の充実に努めています。学区内事業には、5月のソフトボール大会、6月のソフトバレーボール大会、9月の軽スポーツ大会（グランドゴルフ&インディアカ）、10月の学区市民運動会、1月の卓球大会等があります。

特に、最大の行事である市民運動会は、自治会対抗競技で各自治会の住民が力を合わせて競技・応援し、沢山の住民が集まる場・親睦を深める場となり、世代を超えて住民の楽しみの一つとなっています。

また、「誰でも気軽に参加でき、住民の健康増進に役立つ」ように、健康推進協議会と合同で年に数回の健康ウォーキングも開いています。

学区外の学区対抗競技は、仰木の里として積極的に参加し、毎年大津市学区対抗競技年間総合得点が上位の成績になる程、各スポーツ専門部の日々活動の励みになっています。



▶▶ 現 状

高齢化等により自治会を退会される方が年々増え、自治会役員の負担軽減が要請されています。

各行事の参加募集の回覧版を回しても、参加希望者が少なく人集めが大変とか、「走ろう会」（3 kmのマラソン）のように警備する自治会役員の負担を考えて廃止した行事もあります。

市民運動会でさえ、自治会によって小学生の数が少ないとか、ルール通りの参加人数が集まらなくても参加しても良いか等の意見を多数頂き、競技の内容・条件（人数・年齢構成）等を見直すことになりました。

「運動会実行委員会」という委員会で、競技内容等の見直しがあり、さらにコロナ対策も加わり、新しい運動会のあり方を模索しています。

2020年度は、新型コロナの流行の影響で、活動の自粛・中止により、住民の体力・筋力の低下や、運動不足を招くという課題もできました。

▶▶ 今後の方針

適切な新型コロナ対策を考慮して各種行事を遂行することによって、自粛期間に低下した住民の体力・筋力の回復を図り、スポーツを通じて住民の親睦を図るという体育協会の役割を果たします。

人々の生きがいや趣味・趣向が多様化していく中で、当体育協会は、自分から進んでスポーツをしようという人達と役員・協力者が一体となり、持続と増員を図り、より多くの仲間を確保していきます。

また、スポーツをやりたいが時間がない、面倒くさいという方の障害となる課題を取払い、新たな楽しみ（娯楽）として受け入れてもらえる機会と環境を身近に与えることを重要課題としていきます。

スポーツイベントを通じて活発な地域コミュニケーションを生み出し、多世代間での会話・親睦を推進し、スポーツを楽しむ人を増やすことに努めていきます。

雄琴学区体育振興会

会長 / 田中 茂喜

▶▶ はじめに

昭和36年8月に発足、来年で60年を迎えます。発足当初は有志が集い、ソフトボール(男子)、バレーボール(女子)、卓球(男子)で活動をしていました。長い歴史の中で、ソフトボール、綱引きで隆盛を極めたり、サッカー、軟式野球の取り組み、スポーツ少年団では昭和55年に「全国少年サッカー選手権大会」ベスト8の快挙などを経て今日に至っております。

現在当会は雄琴学区各種団体の1つとして「明るく健康な親和協調の精神を高揚し、文化的な生活への意欲を高め健全な雄琴学区民の育成を助長すること」を目的に活動しております。執行部を会長以下、各自治会選出の副会長・スポーツ指導員、スポーツ推進委員、事務局、総務、スポーツクラブ部長・副部長で構成、常任理事として各自治会の体育委員、関連組織より参画頂いております。

▶▶ 取り組み

まずこの10年で特筆すべきは、雄琴小学校の卒業生、垣岩令佳さんがロンドン五輪にてバドミントン女子ダブルスで銀メダルを獲得されたことでしょうか。世界で活躍される姿に、学区民も大いに刺激を受けました。

当会は、学区最大行事の雄琴学区市民大運動会の運営を筆頭に、町別対抗グラウンドゴルフ大会・球技大会・ボウリング大会、ゴルフ大会の開催や、後述の総合型地域スポーツクラブの活動で学区民のスポーツ参加機会の創出に取り組んでおります。平成23年度に滋賀県スポーツ顕彰「生涯スポーツ優良団体」、平成25年度には文部科学大臣より「生涯スポーツ優良団体」の表彰をいただきました。

また、スポーツにとどまらず、夏祭り、文化祭、ヨシ刈りなど、学区自治連合会行事にも参画し、地域振興の一翼を担っております。



▶▶ 現状

雄琴スポーツ少年団は野球部・サッカー部・バレー部ともに活発な活動を継続しており、青少年の健全育成に貢献しています。体育振興会傘下では、バレーボール部(女子)ブロック優勝、ソフトボール部1部リーグ戦参戦など、小規模学区ながら要所での活躍を見せております。

また、総合型地域スポーツクラブとして、雄琴スポーツクラブ運営のもと、毎週金・土曜の夜に雄琴小学校体育館を開放し、活動しています。取り組み当初は利用者の波もありましたが、ここ数年は盛況で、小学生～壮年世代や、親子での参加などの広がりから、活動日をそれまでの週1日から2日に拡大し、地域のスポーツの場として、定着してきました。バドミントン、バスケットが人気で、インディアカ、卓球も行っています。

▶▶ 今後の方針

少子高齢化の流れや、「新しい生活様式」への移行にあって、事業内容も少しずつ変革する必要があります。

学区内には全国レベルで活躍される方から身近な仲間です。スポーツをプレーして楽しむ、またスポーツを見て楽しむ、応援する方も数多いものの、個々で閉じている向きが感じられます。当会は地域スポーツ団体として、それらとのつながりを広げること、良い取り組み事例を学ぶことで、時代に合わせた活動を進めます。

種目面では傘下の各部・雄琴スポーツクラブ・スポーツ少年団の活動維持・拡大と並んで、生涯スポーツの視点で、ニュースポーツの普及推進も課題と考えております。

また、当会の活動を知って頂くことを念頭に市民センター広報やSNSを利用した情報発信も進めます。

以上を通して、スポーツを楽しめる環境づくりに今後も取り組んで参ります。

日吉台学区体育振興会

会長 / 上嶋 徳久

▶▶ はじめに

設立：昭和60年4月1日（大津市 26番目）

設立以前の昭和57年から3年間は坂本学体育振興会に所属し、坂本学区から各種行事の運営方法と温かいご指導をいただきました。

歴代会長は、初代：片岡 弘氏、二代目：三日月信夫氏、三代目：衛藤彰男氏、四代目：清水精一氏です。

昭和50年頃に新興住宅地として開発され、近隣各地から働き盛りの40歳前後の世帯の非常に活気のある住民によって形成され、新興住宅地によくある文化や習慣の違いによる気苦労はたくさんありましたが、学区住民が一つにまとまり、大津市民体育大会の2部では総合優勝も経験しています。

▶▶ 取り組み

学区内の活動が、過去10年間でソフトボール大会がスリースマイルゴルフ大会へ、バレーボール大会がスポンジバレーボール大会、キンボール大会、ヘルスバレーボール大会等への変遷があります。

◆学区内

グラウンドゴルフ大会、ヘルスバレーボール大会、少年少女ドッジボール大会、スリースマイルゴルフ大会、3世代ニュースポーツの集い、ウォーキング大会、ボウリング大会

◆学区外

大津市学区対抗各種大会、大津市民体育大会、中北部地区活性化事業等

◆その他

学区自治連合会が主催する学区民大運動会や夏まつり、他に夢未来事業等に積極的に参加



スリースマイルゴルフ



大運動会開会式

▶▶ 現状

- ◆当学区の少子高齢化は10年前から更に加速し、小学生は177人から122人に、65歳以上は1,247人（29.7%）から1,820人（50%）となり、スポーツイベントの内容がニュースポーツ中心へと移行しています。中でも、グラウンドゴルフは高齢者を中心に独立したクラブを立ち上げ、学区内にとどまらず、県内や市内で開催される大会にも積極的に参加されています。体育振興会も、大会を共催するなど協力しながらスポーツ活動を展開しています。しかしながら、体育振興会が開催するスポーツイベントの参加者が、人口減少だけが理由ではないにしても年々減少している中で、気軽に参加してもらえるようなイベント開催を模索しています。
- ◆2020年は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため様々なイベントが中止となり、体育振興会も例に漏れずにイベントの開催を自粛しています。

▶▶ 今後の方針

- ◆従来の活動目的の「学区民の健康の維持向上と親睦を図る」の堅持
- ◆競技性の高いスポーツは、人と競うことで自身の到達度や満足感を味わうことができますが、地域でのスポーツは、人と交流することで地域の活性化やコミュニティの強化につながります。そういった意味において体育振興会の果たす役割は大きいと考えています。
- ◆健康志向に伴い、個人での健康維持や体力維持を目的とするスポーツジムもありますが、人と人が刺激しながら活力が生まれるように、今後も子供から高齢者まで、自由に楽しく参加できる行事を増やし、人とのふれあい、地域とのふれあいを深めることで、地域に貢献して参ります。

坂本学区体育振興会

会長 / 田中 達雄

▶▶ はじめに

前身の体育協会が昭和23年に設立、昭和26年に坂本村が大津市に合併後、大津市体育協会に入会、昭和47年に坂本体育協会から坂本学区体育振興会に名称変更されました。

平成18年に、滋賀県より生涯スポーツ優良団体としてスポーツ顕彰、また平成21年には生涯スポーツ優良団体として文部科学大臣表彰を受賞いたしました。また、毎秋開催されている学区市民運動会は、平成24年に第70回の節目を迎え、次の節目となる第80回大会の開催を目指しています。

現在の組織は、会長1名、スポーツ推進委員1名、副会長4名（うち1名は自治連合会より派遣）を中心に、会議は各町区より2名選出の体育委員と本部常任委員で構成され、種々の活動に取り組んでいます。

▶▶ 取り組み

地域の歴史的な背景の下、地域の再発見と美化運動を兼ねた「親子クリーンウォークラリー」を青少年育成学区民会議との共催で坂本小学校PTAの協力も得て四半世紀以上前より毎年開催しています。

「大津市スポーツ推進計画」では、「いつでも」「どこでも」「だれでも」「いつまでも」スポーツに親しむことができることを施策目標とされていますが、学区事業としてニュースポーツに早くから取り組み、グラウンドゴルフ、カローリング等の大会を開催しています。

特にカローリングについては、老若男女が区分やハンディ等のない、全く対等のガチンコの真剣勝負ができる競技として毎年白熱した闘いが繰り広げられ、坂本学区の定番スポーツ大会として定着しています。



▶▶ 現状

当学区は人口が約1万人、世帯数が約4,700であり、13町区の自治会に分かれて活動しています。大きな自治会は約750世帯、小さな自治会は約90世帯と大きなばらつきがあり、各事業への参加の呼びかけを行っていますが、事業によっては、全町区参加が実現できていない現実もあります。

そのような状況ですが、自治連合会主催で毎秋開催される学区市民運動会（令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催中止）には全町区が参加し、白熱した真剣勝負が繰り広げられ、大きな盛り上がりを見せています。この盛り上がりも今後も続くよう、競技種目や出場資格等の点でより参加しやすい内容・ルールに改善すべく、継続的に検討を重ねています。

▶▶ 今後の方針

高齢化・人口減少の進む中、少しでも多くの学区民の方々に参加いただける事業・活動に取り組んでいくことが大きな課題であると考えており、そのためには、学区内の各種団体と更に密な連携を図りながら取り組んでいく必要があると考えています。

特にスポーツ少年団以外でも青少年学区民会議や子ども会連絡協議会と共同で事業開催していますが、その輪をもっと広げ、学区内の課題や活動を共有しその解決や展開に横断的に取り組んでいく「まちづくり協議会」においても活動を展開していきたいと考えています。

そして、県・市で推進されています「総合型地域スポーツクラブ」の精神である地域住民が誰でも気軽にスポーツや文化活動に主体的に参加でき、子どもから高齢者に至るまで気軽に楽しんでもらえる、新しいスポーツ活動の場の構築に取り組んでいきたいと思えます。

下阪本学区体育振興会

会長 / 松山 正人

▶▶ はじめに

この10年の間に当時の副会長は全て退任し、新たに4名を加え、更にスポーツ推進委員、会計、事務局長の3名を副会長兼務とし、7名の副会長体制とした。

会議や事業で行き詰った時、副会長からいろんな意見が出る。非常に参考になる。

現在、会長である私の他、7名の副会長、7名の各種スポーツ部長、下阪本体振独自の体育推進委員4名が、執行部として運営するとともに、学区内36自治会から40名の体育委員、三津浜スポーツ少年団の協力により、学区内外の体育行事活動に邁進している。

昨今のコロナ禍で会議を開くにも制約があった中、体振本部15名のグループラインを立ち上げた。

このような状況下においても、執行部の意思の疎通を図り、スポーツ振興を通じ、学区民の体力の向上と健康の増進により一層寄与していきたいものである。

▶▶ 取り組み

この10年間で最も頭を痛めたのが学区最大のイベントである運動会である。わが学区は以前から自治会を8つの区に分けて競い合っている。前回60周年史にも記載していたが、選手を出しやすい区と出しにくい区の差がより大きくなってきた。出しにくい区は当然人口が少ない。気の毒なのでそちらの声を聞く。

対抗で盛り上がる5つ程あったリレー競技を減らした。玉入れとか大縄跳びなどは、1つの区で出す人数を減らした。ある時ふと各区のテントを見ていて、愕然とした。テントの下がスカスカになっている。

大いに反省し、副会長や各部長とも相談した。種目によって年齢層や男女比を考え、競技を工夫した。全体を見ながら、自治連合会長賞、体振会長賞、お楽しみ賞等賞品も充実させた。今は、あのスカスカの時の倍くらいの人がある。各区(自治会)の体育委員さんにはご苦勞をおかけしている。



▶▶ 現状

我が国の問題点である少子高齢化。わが地域においても役員の高齢化、担い手不足に悩んでいる。また行事に、非協力的で参加する者が少なくなっている。

ただ新しく自治連合会に加入してくれた方で球技大会に参加し、インディアカに興味を持ってくれた方が数人練習に来てくれている。笑顔が絶えない。

高齢者の皆さんは、市民運動広場でグラウンドゴルフを今まで週2回であったのが、現在週3回楽しんでる。「会長もたまには練習においでや。」と言われる。元気である。

学校開放を見てみると、10団体、二百数十名の皆様が、各種スポーツで汗を流している。バレーボールなどは、小学校PTAチームと体振チームが練習試合をして親睦を深めている。仲がいい。

これからも、年齢層、新旧住民関係なく、スポーツを通して体力作り、健康作り、仲間作りをしていただく環境をより一層考え、整えていきたいものである。

▶▶ 今後の方針

輝かしい70周年の年であるが、年が明けてからは新型コロナウイルス感染症の脅威の中、令和2年度の体育行事はほぼ中止となった。これからは新型コロナと付き合いつつ、新たなウイルスの攻撃にも対応できるような事業或いはそのやり方を考えなければならない。

肺(呼吸器)、心臓、脳などの器官をウイルスからの攻撃に対抗するためには、健康な体が必要である。無理なく体力作りに励み、健康増進を図ることが大切である。

三密を避け、手指、用具の消毒等の感染予防策を講じ、そのうえで、各世代、各自の健康の度合いを考えながらウォーキング、グラウンドゴルフやインディアカなどのニュースポーツ、3B体操、各競技スポーツを無理なく、楽しみながら各自のペースで健康を維持していく環境作りを考えていきたい。

みんなが仲良く、元気で、笑顔いっぱいにスポーツを楽しめるように、早く新型コロナウイルス感染の脅威が終息するのを祈っている。

唐崎学区体育振興会

会長 / 辻辰巳

▶▶ はじめに

昭和50年、唐崎学区の誕生と同時に体育振興会が発足し、昨年創立45周年を迎えました。

基本方針として“人とひととがふれあい 絆を深めながら支えあえる”そんな街づくりを目指して取り組んできました。

現在では、役員の世代交代も順調に進んでおり、30代～50代の役員を中心に、「誰もが参加できる」「楽しくできる」「意気に燃えて競技できる」を合言葉に、地域と一体となって活動しています。

- 会 長：辻 辰巳
- 副 会 長：小島 康誉（スポ少団長）
- 副 会 長：永金 基樹（学区内事業担当）
- 副 会 長：永井 市雄（学区外事業部長）
- 副 会 長：山田 義富（生涯スポーツ事業担当）
- スポーツ推進委員：塩見 治久
- 事務局長：高阪 俊之

▶▶ 取り組み

子どもから高齢者のみなさんの健康づくり、楽しみづくりになればと始めた「みんなのスポーツ広場」もここ10年で大きく変化してきました。

人生100年時代、長くなった人生を出来るだけ元気で過ごしていただけるようにと取り組みを始めた健康体操「元気で健康体操」は特にシニア女性に人気があります。また、近年の健康志向を反映してスポーツで汗を流したい方、新しくチャレンジしたい方には、「卓球教室」「バドミントン教室」が人気があり、喜ばれています。

特に、子どもたちにスポーツの楽しさや喜びを実感していただきたいとの思いでスタートした「タグラグビー教室」も多くの子どもたちに参加していただき盛り上がっています。



▶▶ 現 状

ここ10年、学区の人口はほぼ横ばいで推移しているものの、少子高齢化は例外なく進んでおり、町対抗競技として人気のあったバレーボール大会は中止、ソフトボール大会では参加チームが減少傾向にあります。これと対照的に人気を博しているのが「カローリング大会」で、子どもから高齢者の方々まで楽しめ、駆け引きが面白いと参加チームも増加しています。また、これまでから人気の高い「グラウンドゴルフ大会」は、健康づくりに有効であるとともに、地域の人々のコミュニケーションづくりの場として果たす役割も大きいものがあります。

一方、スポーツ少年団活動では、児童数の減少やクラブチームへの加入で、ここ数年団員の減少は否めませんが、外遊びをしなくなった子どもたちの体力低下をなくそうと新たに取り組みを始めた「タグラグビー教室」には多くの子どもたちが参加しており、県大会優勝、全国大会出場を目指しがんでいます。

▶▶ 今後の方針

「少子高齢化」「ライフスタイルの多様化」「地域コミュニティの希薄化」など地域を取り巻く課題は数多くあります。

体育振興会は、まちづくりを担う団体として、時代の変化を見据えながら、全ての世代の方々が気軽に参加でき、楽しく健康づくりにつながるスポーツを基本に、いつでも、いつまでも生涯を通してスポーツができる環境づくりを推進すると共に「福祉・健康・スポーツ」が協働、連携し、みんなで支えあえる街・唐崎を目指し、「住んでよかった街」「住み続けたい街」となるよう、今後とも努力を惜しまず、期待に応えたいと考えています。



滋賀学区体育協会

会長 / 遠藤 貢

▶▶ はじめに

- 昭和27年 設立
- 昭和50年 唐崎学区体育振興会が独立
- 昭和54年 山中比叡平学区体育振興会が独立
- 平成13年 創立50周年記念
- 平成18年 第50回記念学区市民運動会
- 平成23年 創立60周年記念
- 平成28年 第60回記念学区市民運動会

会 長：遠藤 貢
副 会 長：植田 公威、石浦美貴子、山元 裕己
北林 大尚、八田 泰寛
会 計：成宮 茂生（副会長兼務）
理 事：山口 恒之、上田 久、川口 清久
スポーツ推進委員：野々口寿美子
事務局長：神山 友宏
事務局次長：山岡 孝広

▶▶ 取り組み

<10年間に取り組んだ事業等>

- 学区内体育事業については、運動会、グラウンドゴルフ、野球、バレーボール、インディアカ、ソフトボールの6種目を毎年実施。競技志向での種目の多さは大津市内で随一を誇っている。
- 学区内の地域発展、連携および活性化のため、学区夏祭り、文化祭などの行事にも参加。
- 大津市スポーツ協会主催の学区対抗競技にも積極的に参加。（大津市代表として令和元年度第72回滋賀県民体育大会一般軟式野球の部で優勝）
- びわ湖毎日マラソン、県民健康ウォークの集いにて自主警備に参加。



▶▶ 現 状

- 「誰でも」が「いつまでも」スポーツ活動を通じて、世代を超えて交流し、健康増進ができる地域を目指している。
- 当体育協会の最大イベントは、27自治会、延べ約4,000人が参加する学区市民運動会であり、近年は高齢者でも参加出来るよう競技種目の見直しを行っている。
- 大津市スポーツ推進委員協議会および大津市中北部地区体育団体連絡協議会と協力、連携してニュースポーツ等の紹介と体験実施。

- 備品の老朽化や学区内体育施設の充実が喫緊の課題である。

▶▶ 今後の方針

- 競技志向種目の充実と高齢者から子どもまで参加できる生涯スポーツの推進を目指していく。
- ランチ大津京など学区内の運動施設の活用と企業、事業者との連携。
- 老朽化や危険な備品物の整理を行い、時代に即した安全で安心した道具類の推進を図っていく。
- スポーツ推進による地域の発展は勿論のこと、各種団体と連携・協調して住民の繋がり、絆の推進を図っていく。
- スポーツ少年団をはじめ地域の子どもは地域で育て、地域の力を活かした環境づくりに努めていく。

山中比叡平学区体育振興会

会長 / 山内 淳

▶▶ はじめに

昭和55(1980)年に創設された山中比叡平学区の機関として、第1回市民運動会(後、学区民運動会→グラウンドフェスティバルに改名)の開催を機に組織を立ち上げ、地域の社会体育事業の拡充と発展を目標に掲げ、地域コミュニティの基盤ととなるべく少子高齢化の環境の中で40年が経過した。世帯数1,269、人口2,742(男1,311 女1,431=2020.11)の小さな学区ではあるが、アテネオリンピックにはフェンシングの太田雄貴(現フェンシング協会会長)、三木二郎(競泳、池江璃花子のコーチを経て日本大学水泳部コーチ)、立花美哉(シンクロナイズドスイミング=現アーティスティックスイミング、井村スイミングスクールコーチ)の3選手(滋賀県からは4名)を輩出、スポ少バレーも男子3回、混合が1回全国制覇するなど特筆すべきことがある。組織は5代目山内会長を基軸に複数の副会長が事業/作業を担務し、事務局長の磯谷を支えている。

▶▶ 取り組み

前回の記念誌の「今後の方針」欄に寄稿した内容を繰り返すことになるが、当学区は山中町の永い歴史と豊かな人情の縦糸に、比叡平に集まった人々の交流の横糸が絡んで新しい文化・コミュニティを育んできた。体振役員の硬直化や後継者不在、組長はじめ毎年交代する現場役員に象徴される活動の単発化やマンネリと向き合うことが大きな課題となっている。人数を募ってのゲーム主体の種目から、単数で参加できる個人型種目へ完全にシフトされているファクトも見逃せない。シニア倶楽部(老人会組織)が毎週開催しているグラウンドゴルフ、公募型で体育館を利用し、講師を招聘してのストレッチ体操やファミリー体操教室等の実績も増加してきた。「だれもが、いつでも、どこでも、いつまでも」の総合型スポーツクラブの発展と定着化がさらなる地域コミュニティの創造と活動を支える新たな人材の育成にも寄与するものと期待する。



▶▶ 現状

10年単位で取り組んできている「ニュースポーツ」の紹介と定着化が活動の基軸となっている。シニア倶楽部(老人会組織)の健康部門の中核となったグラウンドゴルフは、比叡平小学校児童との交流アイテムとして、地域では各世代がハンデなしに参加できる対抗・親睦に活用されている。ここ近年では、社会現象化し人気を博したカーリングの「体育館版」のカローリングの普及に取り組んでいる。グラウンドゴルフと同様に世代間のハンデなしに個人で参加でき、天候に左右されない種目として、さらには家族単位でも単独でも参加でき、簡易にチーム創りも可能な種目として重点を置いている。しかしながら今年度(R2)はコロナ禍のため、当該活動や地域行事すべてが見送られている現状で、地域コミュニティの中核を担ってきた社会体育活動の再開と、新たな事業の取り組みのエネルギーの灯が低下・激減しないことを願わずにはられない。

▶▶ 今後の方針

現在の役員の中核は50~60代であり、幼少期の運動・体育・スポーツといえばバットとグローブを持って近くの広場や公園の一角で遊ぶことが男子の遊びの象徴であった。時代は変わり、ファミコンなどのゲーム普及に伴いインドアの個人趣味に遊びがシフトして、ゲームとしての「遊びのスポーツ」は世の中から衰退してしまった感が拭えない。地域ではその時代を懐かしむがごとき世代が日曜日に市民グラウンドに集まってソフトボールを愉しんでいる。同様にスポ少でサッカーをしていた世代(現30代が中核)が月一度サッカーで汗を流し、今年は大津市の学区対抗で決勝戦まで勝ち上がった。健康年齢を意識した健康維持と病気になる体力づくり、さらには新たな地域コミュニティの創造を標榜し、あらゆる世代がスポーツ・運動に親しめる環境を整え、地域住民のニーズの拾い上げを模索しながら「健康寿命延伸」に寄与していきたい。

藤尾学区体育振興会

会長 / 酒人立 昌弘

▶▶ はじめに

当学区は、昭和46年に現在の茶戸町に藤尾小学校が移転新築されるまでは、旧東海道沿いの場所にありグラウンドも狭く、隣接の小学校のグラウンドを借用してスポーツ行事を運営するなどして苦慮していましたが、その後、体育館も整備され体育振興会の行事も本格的に行うことができるようになり、現在に至っています。

令和2年度の体制は、

会 長：酒人立昌弘

副 会 長：園村耕一、糸永輝生、貴田千弘(会計兼務)

事務局長：酒井恒太郎

スポーツ推進委員：濱野信雄

専門委員：30人

体育委員：各自治会より40人が運営に携わっております。

▶▶ 取り組み

当学区では、近年特に少子高齢化が進み、市立幼稚園が廃止されるなど、こどもの人数減少が顕著となっております。

学区の体育行事については、高齢者でも気軽に参加できるグラウンドゴルフやカローリング等の「生涯スポーツ」に重点を置いて取り組んでいます。

長年にわたり地域で活動している7つのスポーツクラブを支援しており、また、子供にスポーツの楽しさを味わってもらい体力向上にも役立てたいと考え、スポーツクラブが主体となって、小学生を対象に「こどもスポーツ教室」を毎月1回実施しております。

体育振興会では、学区民夏祭り等のイベント運営にも積極的にかかわり、地域の各団体との連携を図り、住民の親睦融和に努めています。



▶▶ 現 状

学区内のスポーツ行事については、「生涯スポーツ」を目指して、誰もが気軽に参加できる事業を実施しています。

主な恒例の大会は

グラウンドゴルフ大会	5月
カローリング大会	6月
学区民運動会	10月
ヘルスバレーボール大会	11月
ウォーキング	1月

また、大津市民体育大会や大津市学区対抗の各種大会等に、学区内のスポーツクラブの積極的な協力を得て参加しております。

この結果、学区対抗競技年間総合成績、大津市民体育大会の総合成績においては、優勝するなど常に上位の成績を収めております。

▶▶ 今後の方針

令和2年度においては、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、学区内の諸行事を中止せざるを得ない状況であり、今後は、感染防止対策を講じたうえで、新たに取り組みたいと考えております。

また、さらに地域の少子高齢化が進むことから、誰もが安全で気軽に参加できるスポーツを通して、世代間の交流を積極的に図り、地域住民のより一層の「健康維持増進」と「生涯スポーツ」の推進に努めてまいります。



長等体育文化連盟

会長 / 福家 紀明

▶▶ はじめに

当連盟は、昭和32年6月、体育と文化が両輪の如く前進するように、「長等体育文化連盟」と名付けられ誕生しました。昭和23年に第1回大会が開催された「長等学区市民運動会」の企画、運営をはじめ、数多くの体育行事の実施、駅伝大会等、大津市学区対抗の大会にも積極的に参加、多くの実績を残してきました。また、学区文化祭を中心に文化事業にも取り組んできました。令和2年4月「ながらまちづくり協議会」が設立、新たな組織の一員としての活動も始まりました。

会 長：福家紀明

副 会 長：山本 学 前川靖子

事 務 局 長：岡本隆彦（当連盟では幹事長）

を執行部役員とし、総務局、財務局、文化局、広報局、クラブ育成局、スポーツ少年団育成局を置き、局長以下部長、副部長、委員で構成されています。

▶▶ 取り組み

当学区では、長年競技志向のスポーツは実施せず、子どもから高齢者までが楽しめるスポーツを中心に活動してまいりました。

平成7年より実施しています町別対抗ボウリング大会には、現在も400名近い参加者があり、学区民楽しみの行事となっています。高齢者に人気のグラウンドゴルフも、当連盟主催の大会に100名余りの参加者があり、近年は小学生の参加者増加に力を入れています。文化面では、秋の長等学区文化祭に、近年皇子山中学校吹奏楽部の参加を願ひし、若い力の参加により、以前よりも増して活気が出てきています。その他、歴史探訪ウォーキングやフラワーアレンジメント教室など、年間を通じて文化活動にも力を入れています。



▶▶ 現 状

近年大津京駅周辺では人口増加が続き、若い世代の人口が増えています。一方長等、菱屋町商店街周辺の自治会では少子高齢化が進み、人口減少が進んでいます。こういう現状の元、今大きな問題となっているのが、自治会加入率の低下です。特に若い世代の自治会未加入世帯が多く、市民運動会をはじめ、各種行事に参加できない学区民が多くなっています。

そこで、この現状を踏まえ、令和2年4月「ながらまちづくり協議会」が設立されました。自治会の枠を外し、自由に参加できる、新しい体制への基盤作りがスタートしました。問題は多く抱えていますが、将来に向けての長等のまちづくりが始まりました。当連盟といたしましても市民運動会、秋の文化祭等、各種行事の見直しに着手し、学区民のニーズに合った内容となるよう大きな変革を考えています。役員、体育と文化の両面を生かす創意工夫が必要です。

▶▶ 今後の方針

「ながらまちづくり協議会」の設立により、若い世代や他地域から移住された方々も、今まで以上にイベント等に参加いただけると考えます。高齢化の進む町内との融合を考えながら、新しい長等のスタイルを作る必要があります。当連盟の特徴である体育と文化の両輪を学区民のニーズに合わせ動かす工夫が必要です。

新型コロナウイルスの影響で延期となりましたが、本年は「東京オリンピック・パラリンピック」の開催が予定されていた記念すべき年です。当連盟の使命は、優秀な、特別な選手の育成ではありません。しかし将来楽しみな若い力を応援、サポートすることは、学区に活気を与え、学区民を元気にします。学区民に夢を与えるような、そんな活動もしていきたいと考えています。

逢坂学区体育振興会

会長 / 植田 幸作

▶▶ はじめに

逢坂学区体育振興会が活動の拠点とする逢坂小学校の改築工事が完了し、新体育館および新グラウンドで新たな活動を再開して約10年が経過した。

学区内には大規模マンションが続々と建設され、人口が増加傾向にある。またJR大津駅前の再開発が進み、活気が戻りつつある。

本会は現在、20名の理事で構成し、会長、副会長3名、会計1名、事務局長1名、大津市スポーツ指導委員1名、学校開放事務局2名を配している。

当学区は39の自治会で構成され、各自自治会の体育委員が本会の運営推進を支援してくれているが、学区民の高齢化と少子化により事業が思うように推進できず、活動が低迷しつつある。

▶▶ 取り組み

学区民が、気軽に参加でき、幅広く親しみやすいスポーツの普及促進に重点を置きながら年度の行事を企画している。

特に力を入れている軽スポーツは、グラウンドゴルフとソフトバレーボールである。老若男女が経験とスキルを問わず、楽しくプレーできるように独自のルールを採用している。

力強さとスキルを求めるスポーツとして、バレーボールとソフトボール(ナイトゲーム)の大会を実施している。

本会の傘下で、唯一対外活動をしているのが、女子バレーボール部であり、年間を通して安定した成績を残している。

学校開放事務局は、健康増進とスキル向上の場を提供するために、毎月第一土曜日に施設利用調整会を開き、公平・協調を基軸に利用調整を図っている。



▶▶ 現状

学区民のスポーツ愛好度合いや年齢構成から判断して、総合型地域スポーツクラブを前面に押し出して活動する基盤が、非常に弱いと感じている。

プレーヤーの育成に加え、スポーツ指導者の養成にも力を入れる必要があり、短期的に大きな成果が期待できる状況とはほど遠い。

現在活動中の理事は年代別に80歳代1名、70歳代1名、60歳代7名、50歳代9名、40歳代2名となっている。

▶▶ 今後の方針

安定した活動を継続するために、20~30歳代の理事を勧誘し、会の若返りを図ることが急務である。

また、支所機能の見直し計画で、体育推進体制の編成が提案されているが、本会の組織を継続するか、発展的に解消して新たな組織運営を模索するかは別として、今日までの活動を後世に残すために運用・運営のマニュアル化を進める必要がある。

そして、喫緊の課題として、コロナ禍で活動自粛による心身のストレスが慢性化する中で、コロナと共生できるスポーツ活動の在り方を模索していく必要がある。

体育振興活動を推進する中で、スポーツを通じて明るく健康な生活が実現できるように、学区民を支援していく所存である。

中央学区体育振興会

会長 / 木村 徹也

▶▶ はじめに

大津市スポーツ協会創立70周年、まことにおめでとうございます。

中央学区体育振興会は、学区民の体育向上と親睦を目的に、昭和35年4月に設立され、今年で60周年を迎えることができました。

時代の移り変わりとともに、行事内容も変化してきていますが、学区民のみなさんのご支援、ご協力により、活動ができていることに感謝しております。

現在は、会長（1名）、副会長（3名）、事務局長（1名）、以下19名が理事として、スポーツの振興のみならず、地域行事に積極的に参加し、地域活動の原動力となっております。

▶▶ 取り組み

今年は、残念ながら、東京オリンピック、パラリンピックが延期となりましたが、中央学区でもオリンピック・パラリンピックを盛り上げようと、昨年の冬季スポーツ教室では、リオデジャネイロパラリンピック視覚障がい者マラソン5位入賞の近藤寛子選手の講演会を開催しました。たくさんの方にご参加いただき、どんな人にも、可能性があるんだよ！ということをお話いただきました。

また、カローリングや、ディスクゴルフなどのニュースポーツも積極的に取り入れて、年齢に関係なく、楽しめる行事を開催しております。

総会では、1年間の活動をまとめたフォトムービーを作成して、みなさんに見ていただいています。笑顔あふれる映像を見ていただき、体育振興会の活動や行事に積極的に参加いただけると幸いです。



▶▶ 現 状

中央学区では、近年、マンションがたくさんできており、若い世代を中心としたファミリー層が増えています。

学区民大運動会の対抗競技では、出来るだけ多くの年代が公平に参加できるように、年齢制限を設けていましたが、新しく自治会に加わった若いファミリー層の多いマンションでは、年齢制限があるがゆえに参加できない競技が出てきました。また、現在まで行ってきた競技でも、より多くの方が、安全に楽しんでもらえるように、競技内容を大幅に見直しました。残念ながら、今年は学区民大運動会は開催できませんでしたが、来年は、大幅にリニューアルした競技でより多くの自治会に参加していただき、盛り上げていきたいと思っております。

▶▶ 今後の方針

10年前の平成22年、中央学区の人口は5,337人でした。令和2年3月には、6,519人と人口が大幅に増えており、14歳までの人口も、656人から946人へと増えています。このことから、より幅広い年齢のみなさまが、スポーツを通して親睦を深めていくことが、中央学区体育振興会の重要な役割だと考えております。縁あって中央学区の新しい住民となった皆さまにも、気軽に参加していただける行事を行い、新旧の住民が、楽しく交流できる場づくりをしていきます。

また、市や協会で行われる軽スポーツ大会などにも積極的に参加し、新たな取り組みにも挑戦していきます。

これからも、地域活動の中心的存在となり、他団体の皆さまと共に、より良い街づくりを目指して、活動していきます。

平野学区体育振興会

会長 / 矢間 茂樹

▶▶ はじめに

戦後まもない昭和23年に、前身の青年会が軸になり、田圃や畑を切り開き、最初の学区運動会を始めたのが最初の体育活動だったと伝え聞いています。以来欠かす事なく続けて来ましたが、令和2年新型コロナウイルス感染予防対策の為、中止を余儀なくされました。

昭和35年頃から、日本の高度成長と共に、平野学区のスポーツ活動も目覚ましい発展を遂げていきます。そして昭和45年頃から、平野学区も西武百貨店を中心に会社ビルやマンションが立ち並び、平野小学校児童数も1,500人越える状態で人口増加は目を見張るものがありました。

現在は膳所駅周辺が新しくなり、生活環境も大きく変わろうとしています。そんな中我々も、研修や資格を得ながらスポーツの持つ面白さや楽しさを知って頂く為に、検証とミーティングを繰り返しています。

現在の組織 会長：矢間茂樹
副会長：平野秀雄、小西春男、大江善宜
事務局長：杉本澄光

▶▶ 取り組み

毎年、春には「鳩ちゃんウォーキング、三世代フェスティバル」、梅雨の時期には「ソフトバレー、ノボミントン、卓球」、秋から冬には「ソフトボール、ペタンク、グラウンドゴルフ」と年間を通じて大会を開催しています。平野学区民体育大会(2019年は第73回大会)も全世代、全学区民(57自治会)が楽しめる大会とし当体育振興会も主管として携わってきました。長期にわたって取り組むイベントは「全年代で参加できるスポーツ」を目標とし、「3世代スポーツフェスティバル」を設定しています。「築こう世代を超えた絆・創ろう平野の未来」をキャッチフレーズとし、「子供からおじいちゃん・おばあちゃんまで」が競技可能な種目を設けています。このフェスティバルをきっかけに、地域の活性化につなげ、総合型地域スポーツの普及に貢献出来ると思います。今後は、全世代(4世代)の多くの方が参加できる大会に進化する予定です。今後も参加者が楽しめる大会を目指します。



▶▶ 現状

スポーツ大会の参加者を増やすためには何を行えば良いか?が現在の課題です。近年、スポーツ大会の参加人数が減少傾向にあります。グラウンドゴルフ、ペタンクのような全世代が出来るスポーツは、少しですが参加人数が増えてきています。他の競技も、より簡単に参加できるように「平野ルール」を設定し、誰でも参加できるように運営しています。しかし競技技術の差を「平野ルール」では中々うめることは難しく対抗競技では点数に差が出てきます。その差をうめる為に、男女混合、年代別混合など、参加者の技術を分散させて平均化しようとはしますが、参加者は増えません。今まで行った大会を考えると、全てを網羅する大会を目指していた様に思えます。今後は「練習を行った成果を確認する大会」「地域の友好を深める大会」「参加することで仲間が出来る大会」「自治会対抗大会」等、競技レベルを明確にしていく方向で開催を行う計画をしています。

▶▶ 今後の方針

1. スポーツを通して、運動の喜びを分かち合い、感動を共有し、人々の絆を深め、人々が共に地域に生きる喜びを広げ、性別や年齢、障害などに関係なく、全ての人々がスポーツを自由に楽しみ、公正で福祉豊かな地域生活の創造に寄与します。
2. スポーツを楽しみながら生活に取り入れ、ライフスタイルの創造に寄与します。
3. 相互尊敬を基調とする、スポーツにおけるフェアプレーの精神を広め深める事を通じて、平和と友好に満ちた地域社会を築くことに寄与します。

平野学区体育振興会は、「いつでも、どこでも、だれでも、いつまでもスポーツ出来る環境を!!」の『鳩ちゃんクラブ』総合型地域スポーツクラブを推進していきます。

膳所学区体育振興会

会長 / 堀池 清典

▶▶ はじめに

昭和32年に設立以降、63年間にわたり学区体育振興・スポーツを通じての学区民の健康と体力づくりに活動してまいりました。

現在は、堀池会長・奥村副会長（兼理事長）・中川副会長（大津市スポーツ推進委員）・若吉副会長（膳所体振スポーツ少年団団長）・嶋川事務局長・理事32名にて運営するとともに、学区内61自治会からの体育委員110余名の支援協力・膳所体振スポーツ少年団加盟ジュニアクラブ5クラブと一般10クラブとの相互協力で活動しております。

▶▶ 取り組み

当会の主なスポーツ行事としては、学区民の参加を対象とした市民運動会・町対抗スポーツ大会等の主催はもとより、全国から参加のある新春びわこ健康マラソン大会の主管等を行っております。

また、学区スポーツバザーを実施し活動資金の確保・スポーツ用具の充実を図っております。

このスポーツ関係以外にも次の様な活動にも取り組んでおります。

- ・膳所火まつりと湖岸清掃への参加（環境活動）
- ・膳所桜まつりと夏まつりへの参画（地域観光と活性化）
- ・地域安全パトロールへの参加（青少年健全育成と学校施設の警備）
- ・膳所学区文化祭等への協力（学区文化と市民センター活動促進）
- ・大津市をはじめ学区内団体等への参加及び協力。

この様な取り組みこそが総合型地域スポーツクラブであると確信し活動しております。



カローリング大会



学区民運動会

▶▶ 現状

膳所学区は、61の自治会と4,500の自治会加盟世帯があり、学区の市民運動会にはテントが会場いっぱい張りられており会場等は限界です。

当学区は城下町膳所であり、古くからの世帯が多く少子化が進み、町のあちこちでグラウンドゴルフをする高齢者が見られます。学区スポーツ大会等の企画でも高齢者の参加を想定したものになります。

最近では、市民のスポーツに対するニーズが多様化するとともに、団体で行うことより個人スポーツが好まれていくように感じられます。

総合型地域スポーツクラブについては、現状がそれに近いものであるため、現状維持に努めます。

▶▶ 今後の方針

少子高齢化の時代にあった活動・大会の企画をすることが必要と思われます。そのためには、カローリングの様な誰にでもできるニュースポーツの取り入れ等を積極的にしなくてはなりません。

地域スポーツは、それをするものの体力づくりと健康維持が第一の目的です。

そこで、当会では「いつでも、どこでも、いつまでも楽しめるスポーツを」「スポーツで育もう地域の輪」「体育行事で健康で明るいまちづくり」をスローガンに活動するとともに、大津市の「スポーツを共に創り 楽しむまち 大津」にならい、「スポーツを共に楽しむまち・膳所」を目指します。

富士見学区体育振興会

会長 / 柴田 智恵美

▶▶ はじめに

富士見学区体育振興会は昭和49年（1974年）、富士見学区設立と同時に発足、「健康な心と体を鍛えるスポーツ、地域住民の誰もが参加できるスポーツ、スポーツを通じて学区民の親睦を」を掲げて富士見小学校の体育施設を主に活動をしています。

会 長：柴田 智恵美
副会長・理事長：木全 章雄
副会長・副理事長：野口 久美子（スポーツ推進委員）
（学校施設開放）

副 理 事 長：酒井 一雄
副 理 事 長：西川 巴
事 務 局 長：山本 信二
副 事 務 局 長：倉橋 秋子

▶▶ 取り組み

大津市・大津市スポーツ協会を中心として学区体育団体（体振・体協）、各種競技団体などの協力で生涯スポーツ振興をめざしている中、当学区としても学区内同好会・クラブの自立補助・支援を進めています。

具体的には、活動場所や時間に対する支援、活動意欲を高めるために大津市等の大会への参加促進、学区内他団体との調整などを実施した結果、サッカー、バドミントン、グラウンドゴルフ、インディアカ、バレーボールそしてスポーツ少年団活動など、それぞれのクラブが毎回にぎやかに練習しています。

これらの取組みの目標像として大津市スポーツ推進計画の、

【スポーツを共に創り 楽しいまち 大津】
“スポーツを通じて とびきりの笑顔に”

の実現にむけて取り組んでいます。



トレッキングポールで街歩き



元年度大津市グラウンドゴルフ大会 富士見選手

▶▶ 現 状

学区内行事においては老若男女、世代を超えてみんなが楽しめる大会、交流会を目指して毎回工夫を加えて多くの皆さんにご参加いただいております。

主な恒例行事は、

各町対抗グラウンドゴルフ大会	5月
各町対抗インディアカ大会	6月
各町対抗ソフトバレーボール大会	9月
学区市民運動会	10月
各町対抗ソフトボール大会	11月
個人戦グラウンドゴルフ大会	12月
元旦マラソン&ウォーキング大会	1月

また、大津市民体育大会やその他大津市主催行事にも学区内から選手を選りすぐって参加、グラウンドゴルフ、インディアカ、駅伝等の種目においては特に優れた戦績を残しています。

▶▶ 今後の方針

富士見学区では振興団地の建築もある中ではありますが、少子高齢化も喫緊の課題となっており、運動会種目の大幅な改善（年齢制限の撤廃やレクリエーション種目の取り入れなど）や元旦マラソン大会ではウォーキング部門を採用し、すでに実施していますが、今後も参加しやすい環境を更に整えていきたいと考えています。

今後も大津市スポーツ推進計画の方針に賛同意識して地域でのスポーツ活動の支援充実に取り組んで参ります。

また、各種ニュースポーツの学区内への普及を図り、子どもたちから高齢者までがともに体を楽しく動かし、スポーツを通じて自らの健康の維持増進、そして人々とのあたたかな交流が盛んとなるまちづくりを目指して参ります。

晴嵐学区体育協会

会長 / 目片 清

▶▶ はじめに

大津市の南部、瀬田唐橋西側の工業地帯の街に、戦後間もない昭和23年に晴嵐学区体育協会が創設されました。以来72年、「生涯スポーツ社会の振興とともにふれあいのある元気なまちづくり」をめざして活動を行ってきました。

東レをはじめとする企業の立地と共に発展してきた学区ですが、現在、高齢化が進む中で若い世代の増加も見られ、スポーツを通じた住民の繋がり、地域づくりは重要な課題のひとつとなっています。

現在、各自治会から選出された体育委員と専門委員の100名近くのメンバーで運営しています。

会長以下、田中一弘理事長、中倉清一開放委員長、内田全紀スポーツ少年団長、山本清和スポーツ推進委員の4人が副会長を兼務し、事務局は久保佳代子事務局長が務めています。

▶▶ 取り組み

ウォーキング活動を年三回実施しています。子どもから高齢者までの参加者が増えてきました。近辺の寺社を見学したり、公園の茶室でお茶を頂いたり内容も工夫していますが、楽しんでもらえるコースを見つけることが今後の課題です。最近では、ニュースポーツの導入を図るため体育委員参加の大会を計画し、ヘルスパレーボール、ファミリーバドミントンなどの競技に挑戦してきました。町別対抗のグランドゴルフ大会は毎年盛大に行っており、日頃の練習成果を發揮され、多くの高齢者の方が楽しまれています。

平成10年度から晴嵐レクリエーションクラブを発足させ、総合型地域スポーツクラブとして毎週活動しており、年齢を問わず誰でも参加できるクラブとして定着しています。また、就学前の子供たちにスポーツと触れ合う機会を持つため、「晴嵐ゲンキッズクラブ」の活動も行っています。



ウォーキング大会



学区市民運動会

▶▶ 現状

市民運動会は学区を挙げての大イベントです。運営スタッフの準備作業は何ヶ月も前から始まります。各町内では「女子玉入れ」などの町別対抗競技の練習が何日も前から始まり、当日の盛り上がりは大変なものです。市民運動会は、出場する選手、応援する住民それぞれが心をつにし、熱くなる掛け替えのない地域の事業となっています。学区体育協会の発足に合わせて始まった歴史ある学区の市民運動会ですが、今後とも時代に合った内容となるよう工夫を重ね、住民の楽しい一日となるよう努力していきたいと考えます。

また、近隣の名勝旧跡に立ち寄るなど各回テーマを設けながらのウォーキング大会や勝敗よりも楽しんでプレーすることに重点を置いたニュースポーツ大会などの事業を継続して実施し、様々な年代の住民に参加してもらえるような取り組みについても行っていきます。

▶▶ 今後の方針

近年、学区内にはマンションの建設が進み、住民の増加が著しく、学区内人口は市内で3番目に多い1万8千人近くとなっています。

このような地域において、住民の繋がりづくり、元気で明るいまちづくりに取り組むうえで、スポーツの持つ役割は重大であり、社会の変化に合わせた地域スポーツの在り方、内容への柔軟な対応が必要であると認識しています。市民運動会などの永年継続実施されている事業の活性化や住民ニーズに対応したスポーツ事業の導入など、学区のまちづくりに寄与した事業の実施に取り組んでいきます。

新型コロナウイルス感染症は、地域スポーツへの取り組みにも大きく影響しています。今後はこの新型コロナウイルスと付き合いながらの事業実施が必要となってきますが、学区民の「元気の素」となるよう地域スポーツの振興に努めていきます。

石山学区体育振興会

会長 / 原田 隆介

▶▶ はじめに

昭和37年、その当時、旧石山学区内の青年団活動が活発で会長三宅忠義氏を中心にスポーツの愛好者により秋に第1回目となる石山学区市民運動会が開催されました。翌年に学区内の体育スポーツの普及および発展と健康増進、親睦と交流を図るとする目的達成のために石山学区体育振興会が結成され、学区内独立組織として活動を行ってきました。

役員は会長、副会長6名、事務局長（副会長兼務）、会計、運営委員8名で、体育委員11自治会各1名のほか、市民運動会等協力委員として教育施設利用クラブ24団体より適時参加いただいています。

▶▶ 取り組み

当学区は新旧の自治会が混在する中、スポーツによる学区民の交流と親睦を進めてきましたが、近年急激な少子高齢化が進み、従前のスポーツプログラムでは参加者が少なくなり、町対抗競技の実施も困難になったため、年齢に関係なく個人で参加して楽しめるニュースポーツやレクリエーションスポーツに力を入れ始めています。ウォーキング、グラウンドゴルフやカローリングは子供から高齢者まで参加でき、地域行事として定着してきました。体育振興会としては学区代表スポーツ大会への選手派遣も含め月1回程度のスポーツ行事を行うよう努力してきました。学校開放事業においても総合型スポーツクラブの理念のもと、誰でもいつでも気軽にスポーツに参加して健康づくりができるよう体振が中心となって活動しています。スポーツ少年団活動においても団長が体振副会長として参画し、子供たちのスポーツ教育に協力しているところです。



▶▶ 現状

石山学区は古い歴史のある町から新興住宅地、昭和30年代にできた団地等、それぞれに町内の活動に課題を抱える自治会が多く、体育委員がおられないところもあり、学区市民運動会や町対抗スポーツ行事のあり方が問われています。

石山学区体育振興会では、学区スポーツ大会等の企画にニュースポーツを取り入れ、その内容は子供から高齢者まで幅広い層の参加を想定したものになっています。市民スポーツに対するニーズが町対抗など団体で行うスポーツより個人で行うスポーツに変わってきているようです。

総合型地域スポーツクラブについては、運動場所を開放して参加を呼びかけていますが、PR不足なのか参加者が少なく今後の課題です。

▶▶ 今後の方針

近年、少子高齢化の時代に合ったスポーツプログラムが必要となり、石山学区体育振興会では創設時のスローガンであった体育スポーツの普及および発展と学区内の健康増進、親睦と交流を図ることを基本として社会の変化を受け止めた学区民のためのスポーツ振興を中心にその責務を果たしていかななくてはならないと考えています。

石山学区体育振興会は来年、設立60周年を迎えることとなりますので、その永い歴史を継続してスポーツを通じた地域づくりに貢献してまいります。

南郷学区体育振興会

会長 / 青山 三四郎

▶▶ はじめに

昭和56年「びわこ国体」の記念すべき年に当会が発足しました。令和2年度の天津市スポーツ協会70周年時には当会は40周年を迎えます。

初代会長中島誠之助氏、二代目奥田良之助氏、三代目村田敏治氏、4代目原田八寿夫氏、5代目小野清司氏に続き、現在は青山三四郎氏が務めています。

平成13年度には天津市教育委員会より「社会体育の振興優良団体」模範賞を受賞し、さらに平成18年度には創設25年目にして「生涯スポーツ優良団体」文部科学大臣表彰の栄に浴しています。

会長、副会長7名、会計、参与、事務局長、事務局次長、会計監事2名、顧問3名、庶務23名で本部役員を構成しています。

▶▶ 取り組み

基本方針 元気なんGO

～ふる郷なんGO住みよいまちづくりをめざして～

- スポーツを通じて、心身ともに豊かな心、健康づくりを進めます。
- スポーツを通じて、みんなが参加できる場をつくり、ふれあいを高めます。
- スポーツを通じて、まちづくりに貢献します。

事業の
特徴

- ① 天津市各種事業への参加と協力
- ② 各町対抗親睦競技の開催
- ③ 役員交流会の開催
- ④ 公民館との共催事業の実施
- ⑤ だれもが参加できる、ふれあい事業の開催
- ⑥ 小学校グラウンド・体育館の開放事業の推進
- ⑦ 総合型地域クラブ「ワイワイ広場」の充実
- ⑧ 定例役員会議の開催
- ⑨ 南部ブロック体育団体との連携と共同活動
- ⑩ 学区内各種団体・事業への協力
- ⑪ 広報誌「南郷学区体振ニュース」の充実

これらを毎月1回の正副会長会議、体育委員会の中で進捗を図っています。



▶▶ 現状

● 南郷学区体育振興会の良さ

- ① 常に行事の見直しと新たな実践をしています。
例えば10月実施の体振最大のイベントであるスポーツフェスティバルの種目一つ一つを毎年丁寧に見直し、改善しています。
- ② 福祉の街の息遣いを繋げています。
嘗て、学区に近江学園が存在し、福祉教育関係者が多くおられた影響もあり、スポーツと社会福祉施設がコラボする機会をつくっています。
- ③ 総合型地域スポーツクラブ（ワイワイ広場）が充実しています。
平成18年10月13日に開設して以来、月1回、第3水曜日の19時30分より、子どもから高齢者まで、誰でもが参加と選択のできるスポーツの組織化を目指して開催しています。
その回数は210回を数えます。

▶▶ 今後の方針

平成23年度第53回天津市市民駅伝競走大会では、南郷学区が悲願の優勝を果たしました。

陸上競技では基本的に短距離も強く、天津市民体育大会大運動会の部ではいつも常勝軍団でした。駅伝に関しても、体振発足以来連続参加で好成績を収めていましたが、頂点には今一步届きませんでしたから慶びも格別のものでした。

競技面でも若手の発掘をしながら今後も向上していきたいと考えています。

生涯スポーツでは、「ワイワイ広場」の更なる発展を目指していきます。

本学区も少子高齢化が進み今後の活動も従来のもを踏襲するのではなく常に不易と流行に注意しながら、体育振興会の果たすべき役割を通して活力のある住みよいまちづくりの中心になるべく役員一同努力していきます。

大石学区体育振興会

会長 / 中山 勝則

昭和32年に発足した大石学区体育振興会は、当初、各町自治会から推薦された理事により構成され、会長は自治連合会長が兼務していましたが、昭和45年の会則見直しで体育振興会専任会長が選ばれ、各種事業が組織的に運営されるようになりました。現在、体育振興会は自治連合会の傘下に位置しています。

設立から現在までの主な略歴を次に記します。

- 昭和32年 大石学区体育振興会発足
- 昭和56年 びわこ国体（カヌー、ライフル）参画
- 昭和60年 国際青年交流集会参画
- 平成2年 「大石緑地スポーツ村」開設
- 平成10年 市制100周年イベント参画
- 平成18年 総合型地域スポーツクラブ設立
- 平成19年 文部科学大臣表彰授与
- 平成29年 大石学区体育振興会60周年・大石スポーツ少年団40周年記念事業

現在の組織体制は、

- 会 長：中山 勝則
- 副 会 長：塩見 律子（事務局長）
- 副 会 長：野上 佳宏
- 副 会 長：坂田 芳孝
- 副 会 長：中岡 浩一
- 専任会計：服部 清志
- 推進委員：箕浦 信弘
- 理 事：56名

9町の自治会から推薦された56名がそれぞれのスポーツ種目および係担当に配属となり活動。

大石学区内にはスポーツを楽しむ環境施設が数多くあります。大石緑地スポーツ村、曾東緑地テニスコート、中町グリーンパーク、大石小学校体育施設（体育館、運動場）。そして、自然いっばいで安全なウォーキング・ジョギングコース（街並み）。このような恵まれた環境施設を活用し、総合型地域スポーツ活動の拠点として、学区民の幅広い年齢層の方々に参加していただける事業を企画・運営していきたいと思っています。



体育振興会の主催事業は、学区カローリング大会、学区ヘルスバレーボール大会、学区グラウンドゴルフ大会等で、自治連合会主催の学区市民運動会においても運営の中心的な役割を担っています。ニュータウン建設による人口の増加もピークを越え、徐々に少子高齢化が進んでいる中で、若い層からやシニアの方々までの参加が期待できる魅力ある事業への改善が必要となっています。また、これまでの参加者を集めて開催する事業に加えて、地域に向いてスポーツを推進する事業についても検討を進めています。

平成29年度に大石学区体育振興会60周年・大石スポーツ少年団40周年を迎えました。昭和から平成へと歩んできた良き伝統を継承しつつも、「大石学区スポーツ振興会」への名称変更も視野に入れながら、令和の新しい時代の学区民のニーズに合ったスポーツ事業を提供し続けたいと思います。

大津市スポーツ振興計画「スポーツを共に創り楽しむまち大津 ～スポーツを通じてとびっきりの笑顔に!!～」のとおり、大石学区体育振興会も、学区民皆様の健康維持増進はもちろん、相互の交流や友好の輪を広げ、元気なまちづくりに取り組んでいきます。



田上学区体育協会

会長 / 長尾 芳幸

▶▶ はじめに

昭和26年に栗田郡から大津市と合併し、その当時、青年団活動が活発で、スポーツ愛好者により、昭和35年に田上学区体育協会が発足しました。昭和50年代から、田上学区も人口が急増し、発足当初、9自治会世帯数738戸だったのが、平成24年には17自治会3,581戸まで増えました。現在は、ピークを過ぎ子供が減り、学区全体が高齢化になり、3,200戸は超えています。徐々に自治会加入戸数が減りつつあります。小学生の数もピーク時は1,300人を超えていたのが現在は400人を切ってしまいました。高齢化の影響で、自治会活動をやめてしまう自治会まで出てきました。高齢化がこれからの活動の大きな課題になっています。

本年度（令和2年度）は、すべての人が経験したことがない新型コロナウイルスの影響で納涼祭、運動会はもとより体育協会の活動自体が休止状態になり、来年度以降の不安の中、団体名の改名の活動で執行部の意識を保っています。

▶▶ 取り組み

この10年を振り返ると、毎年学区内で自治連合会主催で体育協会主管の運動会が第61回、納涼祭が第32回を迎え、毎年大きな行事として、田上学区全体が動く大きな事業です。学区内では各団体と協議しながら協力しています。5年前から文化祭にも模擬店で協力するようになりました。対外的なところは、南部ブロックの活性化事業で平成30年度は、田上学区が開催地となり、力を注ぎました。

現在、田上学区体育協会傘下にはバレーボール、卓球、バドミントン、テニスの各部があり、毎年自治会対抗競技を各々が各競技のニュースポーツ大会を開催してくれています。その他、執行部がソフトボール大会、広報部がボーリング大会、人推協と地域のグラウンドゴルフクラブとの共同でグラウンドゴルフ大会を開催しています。広報活動は、「体協だより」として、全戸配布で年間6回発刊し、各行事の情報、結果を中心に現在に250号に達しています。ホームページも開設し、広報活動の一端を担っています。



▶▶ 現状

田上学区は、現在では8割近い新興住宅地ですが体育協会執行部は旧の在所の者が中心になって活動しています。新興住宅地といっても、新しい自治会が増えてから、40年以上もたちます。それに伴い学区全体の高齢化が進み子供の数も50年前に戻ってしまいました。毎年開催される運動会、納涼祭も高齢者を対象にした事業内容に変更しつつ、学区全体の交流の場として、親しみやすい事業にしています。ようやく各クラブ主催の自治会対抗競技もニュースポーツになり誰でも参加できる状態にはなりましたが、参加自治会が少なくなってきています。ただ、グラウンドゴルフ大会は参加者が増えています。スポーツを始めるきっかけをより多くの人に与えられるように進めています。ホームページの存在を田上学区内に広め、いろんな情報を即座に得られるよう広報活動も進めています。

▶▶ 今後の方針

田上学区内住民の地域間のつながり、各年齢層の縦のつながりができるような活動を進めていきます。運動会、納涼祭を続けていくのはもちろんですが、傘下の田上スポーツ少年団も少子化の影響と地域活動外のクラブチームの台頭で傘下の各部で活動休止におこまれている部が増えていきます。子供にスポーツに触れてもらう為には、親がスポーツに慣れ親しむことが重要で、そのためには、ニュースポーツを通して、スポーツのきっかけづくりをはかり、さらに進んで本格スポーツをされる方はしてもらう。そのために高齢化が進んでいる各クラブもクラブ員確保の為にもニュースポーツに力を注いでもらう。体協傘下の各クラブの学区外を含めた専門的なオープン試合の開催、市民体育大会の参加を通して、田上学区内のクラブチームの交流を持つことで、スポーツを通しての地域間、世代間の交流が図れると考えます。できるだけ多くの人が健康増進を図るため、生涯スポーツを実践してくれることを望みます。

上田上学区体育協会

会長 / 羽野 清

▶▶ はじめに

昭和42年に上田上学区体育協会として、活動を開始しました。また、設立と同時に第1回学区民大運動会を開催しています。

いつでも、どこでも身近にスポーツを楽しみ、多くの人と触れ合う機会を通して、みんなが健康で明るい生活づくりが出来るよう、地域と一体となって事業展開しております。

会 長：羽野 清
副 会 長：西村真浩
事務局長：古家良信
会 計：柴原秀樹
スポーツ推進委員：谷 寿之

▶▶ 取り組み

現在学区の状況として、825世帯、1,948人と小規模です。

競技方法を交流方式に変えて、春と冬に「上田上スポーツカーニバル」として複数の競技を同時に開催しています。年齢や男女の区分もなく、子どもから高齢者まで多くの住民の皆様が、好きなスポーツをみんなで楽しめるように運営しております。また、役員も競技に参加しやすいようセルフジャッジも取り入れています。

町対抗ボウリング大会も開催し、親睦を図っています。



▶▶ 現 状

上田上に広がる田園を背に、ウォーキングが広がってきています。ウォーキングは一人でも取り組むことができ、毎日取り組めるスポーツとして楽しんでおられます。中でもノルディック・ウォークで生活習慣病予防やダイエットに取り組んでおられる住民が増えています。

地域の広報誌として「連合会だより」があり、上田上の再発見等紙面で紹介し、楽しいコースを届ける予定です。

体育協会は地域におけるスポーツの振興のほか、地域の文化祭や防犯活動等にも参画しており、今日までの活動に対して、令和元年度には「滋賀県知事顕彰」、令和2年度には文部科学大臣が表彰する「生涯スポーツ優良団体賞」を受賞しました。

▶▶ 今後の方針

学区住民が身近にスポーツを楽しみ、参加しやすい事業の展開を考えています。大運動会は種目を大きく変化させる予定です。

地域で環境がそろっているノルディック・ウォークも体育協会が事業として確立させ、生涯スポーツとして持続可能な取り組みを目指します。

スポーツや汗をかく機会のない住民も個人で参加でき、住民同士が親睦を図れる場所を提供していきます。

青山学区体育協会

会長 / 辻田 博志

▶▶ はじめに

つい最近のような気がしますが、青山学区体育協会が14年目であることを改めて気付かされました。

桐生、青山、松が丘の3地区で構成される青山学区は平成19年(2007年)4月に上田上学区から分離して発足しました。

湖南アルプスの麓に位置し、歴史ある桐生と新興住宅地である青山・松が丘が一緒になった風光明媚な位置にあります。

14年目に入るとさすがに毎年のパターンもできてきて各イベントの準備で慌てることもなくなってきましたが、毎年少しずつ高齢化する現状に合わせてマンネリにならないように細かな修正を加えながら毎年のイベント企画をしています。

基本的な考えとして、スポーツする場の提供を通じて、地域住民の交流促進と健康増進を目的に活動しています。

▶▶ 取り組み

毎年のイベントとして、1)5月末の「春のスポーツカーニバル」でグラウンドゴルフと卓球・ソフトバレーボール、2)10月の自治連主催・体育協会主管の「大運動会」、3)11月の秋のスポーツカーニバルでソフトボールとインディアカ、4)1月中旬に「新春ミニマラソン&ウォーキング大会」を開催しています。

11月の文化祭では毎年、餅つきを担当し、つきたてのお餅を提供して好評を得ています。

その他、体育協会役員を中心に南部地区体育団体連絡協議会開催事業への参加、大津市市民駅伝への参加、びわ湖毎日マラソン自主警備員、また、大津市の各種大会への選手派遣を行っています。

さらに学校開放運営委員会を組織し学校体育施設利用団体の調整、下部団体のスポーツ少年団の活動助成を務めています。

これらで一年間充実感を持って運営しています。



▶▶ 現 状

例えば、主管事業の大運動会のプログラムは14年前はリレー中心でしたが、最近では距離の短縮や走らない競技の比率増、玉入れの籠の高さ減など年齢に関係なくに楽しんでいただけるよう、参加しやすくなるよう微調整を重ねています。

1月の新春ミニマラソン&ウォーキング大会は毎年順調に参加者が増加し400名を超える規模になりました。

また、2018年から始まった桐生におけるトレイルラン大会のお手伝いもさせていただいておりますが、市民ランナーが多いことにいつも驚かされます。

スポーツを愛する人、身体を動かしたい人に活躍の場をご提供することに貢献していきたいと思っています。また、各イベントに参加を呼び掛けることで地域住民の間の交流の機会が増え、そのイベントでさらに絆が深まるようになればと祈っています。

▶▶ 今後の方針

体育協会の活動はスポーツする場の提供を通じて、地域住民の交流促進と健康増進を目的とすることは不変のものとして今後も協会を運営していきたいと考えております。

体育協会の活動が役員への過度な負担にならないよう、活動を通じて役員も楽しめるよう、気兼ねなく話ができる役員会の運営をしてきました。

直近の課題としては体育協会役員へ若手人材の加入を進めていきたいと考えています。

スポ少の育成会の皆様が自分の子供みたいな年代とってきているので、考え方のギャップも知らないうちに出てきているかもしれません。

若い人たちにも気軽にかつ積極的に楽しく参加していただける体育協会にさらに進化していけるよう、地域の皆さまのご協力をいただきながら活動を推進していきたいと思っています。

瀬田学区体育協会

会長 / 内田 仁

▶▶ はじめに

瀬田学区体育協会は、瀬田が4学区に分かれて30年、旧栗太郡時代の発足から65年の歴史をもつ協会です。

分離後は、地元の体育協会として学区民のスポーツの普及健康づくり、相互の親睦を図るため活動してまいりました。

現在の組織

会 長：内田 仁

副 会 長：内田 多可之、谷本 久信、五十子 松樹
西空比野 清、桐田 真人、山口 昭二

副理事長：青山 祐蔵、鬼塚 泰二

事務局長：尾上 務

会 計：大野 佳美

▶▶ 取り組み

この10年間の取り組みについては誰もがスポーツに親しめる環境づくり、世代を超えた学区民の交流を図るためニュースポーツの普及に努めました。

5月実施の球技大会においては、ソフトボール、卓球の種目に加えニュースポーツ（2～3年ごとに変更）を加えてきました。

平成29年には以前から体協として要望していましたカローリングのセットを自治連合会の内田会長の御厚意により6セット購入していただきました。これにより年2回（7月のカローリング大会・11月の三世代カローリング大会）の大会を盛大に世代を問わず開催しています。また、学区民の交流と親睦を図っていただくため貸出も行っています。子供たちの健全育成のためスポーツ少年団の支援に力を入れてきました。

瀬田スポーツ少年団は大津市でも特に活発に活動しており団員も250名を超える規模になり毎年素晴らしい成績を残しています。



▶▶ 現 状

年間の体育行事として、球技大会（5月）カローリング大会（7月・11月）大運動会（10月）を開催しています。

スケート教室については人気もあり今後も継続してまいります。瀬田学区は人口14,500人世帯数5,880世帯（令和2年10月1日現在）ですが自治会の加入率は41%と低く大会への参加者も自治会によっては高齢化しており参加条件、資格に合わない自治会が増加してきた、このため自治会対抗の種目を減らし学区民の交流、親睦を図る大会へと変えていく必要があります。

今後は子供や高齢者が気軽にスポーツに親しめる環境作りが必要であると思います。

▶▶ 今後の方針

学区民が積極的に体育行事に参加できるよう地域、年代層に合った競技の企画、自治会対抗競技も残しつつ誰もが気軽に参加し、親睦を図る大会、スポーツに取り組みたいと思っています。

スケート教室（年3回開催）については地元の公共施設滋賀県立アイスアリーナで瀬田体育協会独自の開催として親子が楽しめる教室として内容を充実していきます。

今後、スポーツ協会への名称変更もふまえ地域に密着した協会として発展していくよう努力します。

瀬田南学区体育協会

会長 / 本島 紀之

▶▶ はじめに

平成2年、旧瀬田学区は学区再編成に伴い4分割された。瀬田南学区は、橋本・神領・三大寺の各自治連絡協議会をもつ大津市でも特異な学区となった。当然ながら学区には、三つの体育振興会が存在し、独自の活動を展開していた。平成2年地元協議の中、瀬田南学区体育協会が発足した。

橋本体育振興会は現存しているが、神領、三大寺の両体育振興会はその後、発展的に解散した。

令和2年2月9日瀬田南学区体育協会は設立30周年の式典と祝賀会を開催し、30年の節目を迎えるに到った。

<組織>

会長1名、副会長7名（理事長、副理事長、事務局長、会計、市スポーツ推進委員）理事20名、顧問4名、体育委員28名、特別委員34名

▶▶ 取り組み

6月 スポーツカーニバル

28自治会対抗のスポーツイベントである。体育館では、男女別のヘルスパレーボール大会。グラウンドでは、ペタンの競技を行う。幅広い年齢層の参加でニュースポーツに親しんでいる。

7月 瀬田川和船競漕

身近な瀬田川で、ペーロン競漕を中心とした水のスポーツ大会である。橋本地区が主体となって行い今年で41回を迎えた。近年、他の学区も招待しペーロンに親しんでいる。

10月 スポーツフェスティバル（大運動会）

2千人規模の大運動会である。瀬田南小学校のグラウンドでの大会は手狭のため、近年瀬田工業高等学校のグラウンドを借用し開催している。



1月 新春建部ロードレース

建部大社をスタート、ゴールとする学区内（神領・橋本・三大寺）の周回コースを走る。同時にウォーキングの部もあり、子どもからお年寄りまで沢山の参加で人気がある。終了後、ぜんざいを振る舞い、お年玉抽選会もある。参加者約500名。

3月 ウォーキング大会

瀬田唐橋を起点にし近江大橋方面、南郷洗堰方面周回コースに分けて実施している。

▶▶ 現状

年間を通じて学区民に密着した各種スポーツ大会は、大津市型の総合型地域スポーツクラブであると自負している。

しかし、突然発生した令和2年のコロナ禍、感染予防対策の為、すべての事業を自粛した。この先が見通せない中、地域のスポーツ行政も変化せざるを得ない。

▶▶ 今後の方針

これから、益々中高年の方が増えていくなか健康であり続けていたいと思う気持ちは誰しも同じである。気軽に参加できるスポーツの場を、ふれあいの場を作らなければならない。当然ながら既存の施設には限りがある。

幸いにして瀬田南には瀬田川を中心にした素晴らしい自然がいっぱいある。大津市が提唱する市民ウォーキングには、もったいないくらいの環境である。ウォーキングをはじめ、道中の公園や広場を利用した軽スポーツ等の普及にも努めたい。

新型コロナ終息を願い、再開に望みを託し、更なる賑わいが戻ってくるのを祈念する。

瀬田東学区スポーツ協会

会長 / 田中 昇造

▶▶ はじめに

平成3年に瀬田地域の人口増加に伴い4学区に分かれ瀬田東学区が誕生しました。以来、スポーツを通じた学区民の健康で明るい街づくり、人と人との絆や繋がりを大切にしたい取り組みを進めています。特に、瀬田東スポーツ協会の一大イベントである学区運動会は、14自治会から1,500名以上の大変多くの学区民が参加される恒例のスポーツイベントとなっています。こうした当協会のこれまでの取り組みが認められ、平成28年に「滋賀県スポーツ顕彰 生涯スポーツ優良団体賞」を、平成29年には「文部科学大臣表彰 生涯スポーツ優良団体賞」を受賞させていただきました。現在、田中昇造会長を中心に長野玲子副会長、阪口義人副会長、佐藤健司副会長、恵良靖史副会長、事務局の幸光正嗣を含め、約40名の組織で運営を行っております。今後ともスポーツを通じて、地域の皆様方の絆と親睦を深める交流の場を提供できるよう努力してまいります。

▶▶ 取り組み

瀬田東学区スポーツ協会は、一人でも多くの皆様に参加していただけるよう、幅広い年齢層の方が参加していただける生涯スポーツの振興に力を入れており、ニュースポーツの普及に積極的に取り組んでいます。グラウンドゴルフやカローリング、ヘルスバレーボール等、年齢を問わず健康維持を目的に誰もが出来る機会を提供しています。また、下部組織には少年の部としてスポーツ少年団がありサッカー部や野球部、また室内で行うバレーボール部やバドミントン部があり積極的に支援をしています。そして地域の繋がりを大切に、高齢スポーツの育成や防災活動、地域の文化祭等の地域の行事への参加など幅広い活動を行っています。加えて、大津市民体育大会をはじめ、野球大会、サッカー大会、駅伝大会など学区代表として大津市域全体で開催される様々な大会にも積極的に参加しており、スポーツを通じた市民の交流、親睦などにも取り組んでいます。



▶▶ 現状

瀬田東学区は、住宅開発等から人口が増加しているものの、以前と比べ人と人とのつながりの希薄化が進み、自治会加入率の低下など地域のイベントに参加されない方が増えているのが現状です。また、高齢化が進む一方で新興住宅地に転入してこられる子育て世帯も多く、その影響から子どもが増加するなど、多子高齢化という他の地域にはあまり見られない特有の課題があります。そのような状況の中で年1回の開催であったグラウンドゴルフを春と秋の年2回の開催としたことやバレーボール大会をより安全で遊戯性の高いヘルスバレーボール大会にシフトしたほか、運動会のプログラムにおいてもより子どもたちが参加できるプログラムに変更するなど、スポーツを通じて老若男女が交流を深め、楽しめる環境づくりに努めています。

▶▶ 今後の方針

現在、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中、新たな企画の立案や様々な事業の開催有無の判断など非常に難しい課題に直面しています。しかし、そういった中でも何が出来るのか、どうしたら学区民に喜んでいただけるのかを考えることが最も重要な我々の使命の一つと再認識し、令和2年12月にはウォーキングと会場を複数に分けて競技を行う「ウォーク&スポーツ大会」を開催するなど新たな競技の検討もはじめたところです。

今後は、新型コロナウイルスの感染状況を十分注視しながら、スポーツを通じて学区住民の皆様方の絆と繋がりの輪を広げることができるよう、役員一同が知恵をしばり、感染症対策を十分に講じた上で、イベント等事業の企画・開催について瀬田東スポーツ協会として議論してまいりたいと考えています。

瀬田北学区体育協会

会長 / 阪口 弥平太

▶▶ はじめに

平成3年の瀬田学区分割により、瀬田北学区体育協会が発足しました。当初は8自治会で3,025世帯・人口8,650名でしたが、20周年の時は6,540世帯・人口15,957名でした。30周年の今年は11自治会で8,417世帯・18,990名の天津市で人口の一番多い学区になりました。(令和2年11月現在)

『明るく住みよい町づくり・みんなで築こう絆と和』をスローガンに全員が設立30周年の節目でもあり一致団結し日々活動しております。

会 長：阪口弥平太
副 会 長：八田多佳之・中村賢一・深田雅治
理 事 長：本郷之康
事 務 局 長：近藤勝也
事務局次長：本郷 孝
会 計：松尾文信

その他に各専門部があり総勢45名の役員と各自治会の体育責任者の方で事業を遂行しています。

受賞履歴：平成27年度 滋賀県スポーツ顕彰
滋賀県民スポーツ賞
生涯スポーツ優良団体受賞
平成28年度 文部科学大臣表彰
生涯スポーツ優良団体受賞

▶▶ 取り組み

学区民の皆さんに健康で少しでも長生きしてもらえる様に、老若男女を問わず参加して頂ける(グラウンドゴルフ大会)の開催や子供達を中心にその家族と共に(北っ子)と題しニュースポーツを体験して頂く事業を行っています。

総合型地域スポーツクラブは以前からバレーボール・バドミントン・卓球を中心に週1~2回程度の練習を熱心に行い、種目によっては参加者もここ数年増加しております。

地域の皆さんの健康づくり・明るく住みよい町づくり・運動不足解消のため、生涯スポーツ推進を考え『いつでも、だれでも気軽に、楽しく参加できる』取り組みを一層高められるように考えてまいります。



▶▶ 現 状

本年はコロナ禍の影響で全ての事業を中止せざるをえなくなりましたが、通常の年間事業[グラウンドゴルフ大会・春季球技大会(ソフトボール・卓球)・バドミントンフェアー・北っこ・運動会・秋季球技大会(ソフトバレー)・天津市各大会参加など]が多く、全ての事業を消化するのが精一杯であり、これらの事業を今後いかに充実させ、数多くの方に喜んで参加していただい、楽しんでもらえるように考えるのが当面の課題です。

各自治会の体育責任者の方は、専門性の高い競技もあり選手の発掘に苦勞されておられる方もいらっしゃいます。体育協会としても天津市の各大会参加に関し選手依頼するの各部担当者には非常に苦勞かけております。

総合型地域スポーツクラブに関しては順調に展開出来ており、また参加のスポ少は、野球・サッカー・バドミントンで総勢140名の部員が頑張っており活動しています。

▶▶ 今後の方針

瀬田北学区においては、ずっと人口増加が続いておりあと数年この状態が続くのではないかと考えられます。しかし人口・世帯数は増えても自治会加入率は50%を切っており年々加入率は低下しております、当面はこの問題と向き合っていかななくてはならず、自治会運営は勿論、体育協会運営にも多くの課題が山積みしています。

また高齢者の数も徐々に増加しており余暇の過ごし方など、地域の皆さんが楽しくふれあい、健康で明るい日々を送って頂けるように体育協会役員一同で(手軽なニュースポーツなど)考案し、将来誰もが仲間入りする時期が来るので、この学区に住んで良かったと思っただけのよう微力ではありますがお力になればと思います。

編集後記

今日、世界中に猛威をふるう新型コロナウイルスの感染拡大で令和2年度の諸行事が自粛を余儀なくされる中、当協会は創立70周年を迎え、この節目に大津市スポーツ協会へ名称を変更いたしました。そして記念すべき年に各種加盟団体及び関係者の協力により平成22年からの10年史として記念誌を発刊する運びとなりました。

この冊子をまとめるにあたり、多くの関係者の皆様にご協力を頂き、諸々お世話になりました。衷心より厚く御礼を申し上げます。

内容につきましては、50年史・60年史に続きこの度70年史として、平成22年からの10年間を編集いたしました。十分な内容とはいえませんが、ご理解を賜りご査収いただきたいと思います。

この記念誌が明日の生涯スポーツの進展にむけての一助になれば幸いです。

結びに、皆様方の益々のご活躍とご健勝を祈念申し上げ編集後記といたします。

大津市スポーツ協会 編集委員

磯田 英清 岡野 三郎 中山 敦生
[事務局] 井上 精一 伊藤 昌弥

大津市スポーツ協会 平成22年からの10年史

令和3年2月23日

発行 大津市スポーツ協会

〒520-8575 大津市御陵町3番1号

TEL. 077-528-2914 FAX. 077-526-7800

E-Mail : ocsa@otsu-taikyo.com

HP : <https://otsu-taikyo.com>

大津市
スポーツ協会
ホームページ▶



印刷 大津紙業写真印刷株式会社

〒520-2152 大津市月輪1-9-33

TEL. 077-544-0190